

< 令和元年度修士論文（静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科） >

日本のオーケストラによる子どもたちへの 音楽教育プログラムに関する研究

A study on the educational music programs
provided for children by Japanese orchestras

山田 真穂 YAMADA Maho

（論文指導：静岡文化芸術大学教授 下澤嶽）

目 次

論文要旨	p.1
第1章 背景と研究目的	p.3
第2章 日本のオーケストラ	p.8
第3章 日本のオーケストラによる音楽教育プログラム	p.12
第4章 シンフォニエッタ静岡による新たな音楽教育プログラムの取り組み —静岡県主催事業「子どもが文化と出会う機会創出事業（音楽）」から—	p.22
第5章 結論	p.40
おわりに	p.42
参考文献	p.44
図表	p.48

論文要旨

本研究は、子どもたちがクラシック音楽に興味を持つためのオーケストラによる効果的な音楽教育プログラムを明らかにすることを目的としている。

オーケストラは常に鑑賞者の獲得に苦勞しており、鑑賞者の多くは高学歴、高所得者、高年齢層が中心である。そのため、日本のオーケストラによる子ども向けの音楽教育プログラムには、将来の鑑賞者育成を目的とするものもある。その内容は、アニメや映画音楽等有名かつ短めの曲が多く見られ、指揮者体験や皆で合唱するコーナーも見られる。このようなプログラムはここ数十年実施されてきたが、オーケストラの定期演奏会等の鑑賞者は増えていないとされる。

しかしながら、音楽教育プログラムによってオーケストラの鑑賞者が増えているのかを明確にはかることは難しい。そのため、本研究では鑑賞者育成そのものを取り上げるのではなく、子どもたちがアニメや映画音楽ではなく交響曲などのクラシック音楽に興味を持つようなプログラムのあり方について研究する。

そこで、まず日本のオーケストラと教育プログラムの現状と課題を明らかにする。次に、様々な音楽教育プログラムを展開するシンフォニエッタ静岡を事例対象とし、子ども、教員、保護者・地域住民等にアンケート調査やインタビュー調査を行い、どのプログラムに効果があるのかを検証する。その上で、最良な音楽教育プログラムのあり方を導き出す。

キーワード：クラシック音楽、鑑賞者、音楽鑑賞教室、音楽教育、プログラム

Abstract

The purpose of this study is to examine what kind of educational music programs performed by orchestras are effective in making participating children become more interested in classical music.

The orchestras always experience difficulty in building a firm foundation of audience, which largely consists of elderly and highly educated people. In Japan, some of educational music programs are designed especially for children with the intention of fostering children's interest in music. Such programs often contain the performance of theme music of animation TV programs and famous screen music, as well as the practice time in which participants can conduct an orchestra or they chorus songs together. Although such kind of programs have been carried out throughout the nation for the last several decades, it is not clear whether the audience of orchestra concerts has increased.

It seems rather difficult to judge whether such educational music programs are effective in increasing the number of audience of orchestra concerts. In stead of directing its attention to the development of future audience, therefore, this study set the focus on the characteristics of educational music programs which are suitable for making children more interested in classical music (including symphony masterpieces), rather than in popular music such as theme music of animation programs and famous screen music.

To accomplish the purpose of this study, the study first overviewed the current conditions and the issues associated with orchestra circles and educational music programs in Japan. Secondly, the study chose Sinfonietta Shizuoka JAPAN, a local-based orchestra, as an example of orchestras because it had been implementing various kinds of educational music programs. In order to identify which programs were effective in fostering participants' interest in classical music, surveys by questionnaires and interviews were carried out on students, teachers, parents, and regional residents who participated in or were associated with the educational music programs conducted by the orchestra. As a result of investigation mentioned above, the study drew the conclusion as to the characteristics of desirable educational music programs.

Keywords : classical music, audiences, school concert , music education for children , concert programs

第1章 背景と研究目的

コンサートホールの舞台に照明がともされると、オーケストラの演奏家たちが入場する。チューニング（音合わせ）が終わり、一呼吸の静寂の後、指揮者が舞台に登場する。万雷の拍手を受けた指揮者は聴衆に向かっておじぎをする。指揮者がオーケストラに向き直り、手を振り下ろすとオーケストラから美しい音が紡ぎだされる。演奏中はオーケストラの各演奏家から発せられる音だけがホールに美しく響き渡り、聴衆はその音楽に身を委ね、ひと時の心地よい時間を楽しむ。オーケストラの一般的な演奏会はこのように、オーケストラの奏でる音と聴衆の拍手が聞こえるだけで、曲間に司会者の話や指揮者による楽曲解説が行われることはない。そのため、鑑賞者は当日配布されるプログラムで曲目について詳しく知ったり、事前に予習をしたりしてから会場に足を運ぶ。

このように演奏会を行うオーケストラは、世界中で常に鑑賞者の獲得に苦労している。日本のオーケストラも例外ではなく、特に東京は世界で最も多くのオーケストラが活動し¹、室内楽の公演も多数開催され、常に顧客の争奪が行われている。また、地方都市では、クラシック音楽の鑑賞者人口も少なく、コンサート会場を満たすには十分な状況になっていない場合が多い。

クラシック音楽の鑑賞者については、アメリカの文化経済学者ボウモル&ボウエンによる研究（1966）が知られている²。この研究では、クラシック音楽の鑑賞者は高学歴・高所得者であるという結果が出ている。日本におけるクラシック音楽の鑑賞者の分析を実施した倉林・松田（1988）でも、同様の結果がみられる³。

そのため、オーケストラは新たな顧客を獲得するために様々な活動を実施している。オーケストラの音楽教育プログラムもそのひとつで、1939年から日本においても取り組まれてきた。中でも将来の鑑賞者となる子どもたちへの音楽教育プログラムは、多くの団体が積極的に取り組んできた教育プログラムの活動のひとつである。音楽教育プログラムは学校を訪問して演奏をすることが多く（以下、「学校公演」という）、日本の最初の事例は1946年に創設された群馬交響楽団⁴が1947年から実施してきた「移動音楽教室」である。その後、全国にオーケストラが設置されるに従い、オーケストラの演奏収入の獲得と将来の鑑賞者を育成すべく、各団体が同様の学校公演を実施してきた。しかし、学校公演によって利益を獲得することは困難であり、自治体の支援が早い段階から行われるようになった。群馬交響楽団の活動は、そもそも文化の普及という社会的な意義をめざしたものであり、移動音楽教室も教育に貢献しているため群馬県教育委員会の主催事業にできないかという構想が1949年に持ち上がった。そして、財団法人化した後

¹ 現在、日本オーケストラ連盟正会員 25 団体のうち、9 団体が東京都内に拠点を置いている。

² ブルデュー（1979）も知られている。

³ その他、クラシック音楽における鑑賞者の傾向を調べた近年の研究としては、片岡（1998）、松川（2001）、西島（2003）等が挙げられる。また日本では、定年退職し、時間に余裕のある高齢の鑑賞者も多くみられるものの、高齢ということから会場へ行くことが困難な人も多く、鑑賞者が早い段階で少なくなっていくことが懸念されている。

⁴ 当時は、群馬フィルハーモニーオーケストラという名称であった。

に県教育委員会が協力することとなった。そして群馬交響楽団の努力が次第に県民の間に知られるようになり、県議会でも移動音楽教室についての財政的援助や県移管問題などが頻繁に取り上げられるようになった（群馬 50 年史編纂委員会 1997, pp.40-41）。群馬交響楽団の移動音楽教室に対し、1950 年より群馬県と高崎市がそれぞれ 9 万 5,000 円と 8,000 円の補助金を交付した⁵（群馬 50 年史編纂委員会 1997, p.41, p.65）。これが日本におけるオーケストラへの地方自治体による公的支援のはじまりでもある。

音楽教育プログラム全体の歴史や現状と課題についての研究は小山（2009）や赤木（2014）等が見られる。小山（2009）は、日本のオーケストラによる音楽教育プログラムの歴史の変遷を辿り、オーケストラが音楽教育プログラムを行う意義や目的が変化してきており、普及と教育の 2 つが主目的であったが、教育的機能はかつてより弱まったと述べている。しかし、子どものクラシック音楽に関する知識や経験は格段に豊かになっており、今後も地域社会との結びつきが今後も重要であると締めくくられている。

赤木（2014）は、文化庁の巡回公演事業における札幌交響楽団の事例について、その参与観察と関係者へのインタビューを基に実施内容と実施方法の課題をまとめている。実施内容の課題として、①曲目やトークの内容を構築するにあたり、対象者の傾向についてできる限り事前に把握しておかなければならない点、②インタラクティブな公演を実施するためのファシリテーター⁶の育成が必要な点、③学校での音楽教育との関連性を考慮しなければならない点が課題であり、今後は普段音楽の授業で使用している教科書の内容から発展したものや関連した楽曲の提供等が重要であるとしている。また、実施方法の課題としては、①スケジュール調整、②実演芸術団体と派遣方法、③演奏および鑑賞環境を課題として取り上げている。①、②に関しては、学校が遠方であることを指摘しており、旅費や日程の問題などの改善の余地があるとしている。③は、芸術的な質の観点からみると、最終的には劇場・ホールでの芸術鑑賞へつなげていくことが理想であると述べている⁷。

音楽教育プログラムに関する先行研究は、大まかな実施内容に対する検証がされているが、参加者への効果などは触れられていない。また、音楽アウトリーチにまつわる文献は散見されるが、オーケストラの音楽教育プログラムに関する研究論文は少ない⁸。

また、音楽教育プログラムと将来的な鑑賞との関係性を調査した研究として、垣内は群馬交響楽団の移動音楽教室について、群馬交響楽団の定期会員⁹のうち移動音楽教室を鑑賞したことが

⁵ 1951 年の大卒初任給が 5,500 円。人事院公式ホームページによる。

⁶ 講座を先導する人のことを指す。

⁷ 実施方法における課題の③については、子どもたちが劇場まで移動するための時間の確保や、移動のための交通費が膨大になることから、オーケストラが学校を訪問する方が、効率的により多くの公演を実施することができる。シンフォニエッタ静岡芸術監督・指揮者中原朋哉氏へのインタビューによる（2019 年 12 月 11 日実施）。

⁸ 音楽アウトリーチと音楽教育プログラムの定義とその違いは非常に曖昧であり、音楽アウトリーチ＝音楽教育プログラムとして捉えられることもある。しかし、音楽アウトリーチの論文はオーケストラではなく小編成のものがほとんどである。

⁹ 定期演奏会の入場券を、年間を通じて購入する鑑賞者のことをいう。

きっかけとなっていることが多く¹⁰、移動音楽教室が会員誘因の重要な要素になっていることを伺わせるという研究結果を示した（垣内 2016, p.49）。

しかし、この垣内による研究は、既に定期会員となっている人々であることから音楽教育プログラムがどの程度オーケストラの鑑賞者につながっているのかについての客観的な根拠とは言えない。垣内自身も、小学校でのオーケストラの初体験は、いずれのモデルにおいても群馬交響楽団のファンをつくることと有意な関係性を見ることはできず、移動音楽教室の経験が群馬交響楽団のファンへと繋がる直接効果であると断言するまでには至らないと述べている（垣内 2016, p.51, p.54）。

公益社団法人日本オーケストラ連盟による『子どものためのオーケストラ“魔法”を届けるーオーケストラ体験の影響力ー』（2019）では、オーケストラによる音楽教育プログラムの体験の有無とその後の生活への影響との関係性について追跡調査をし、体験した人のほうが、音楽がより身近に感じられるようになった、音楽をより積極的に聞き始めたなどの効果を明らかにしている。しかし、この調査では、その後クラシック音楽を聴きたいかどうかについては調べられていない。垣内（2016）同様、音楽教育プログラムの中の何が決め手になったのかが明確には述べられていない。

また、オーケストラ経営・運営陣への経営努力や運営改善、最新型プロジェクト等のあり方を、インタビューを通じて 2017 年に九州大学がまとめた「九州大学 QR プログラムつばさプロジェクト」という報告書がある。この中のインタビューのひとつに、山形交響楽団事務局専務理事の西濱秀樹へのものがあるが、学校公演によって定期演奏会の鑑賞者は増加していないと述べている（九州大学 QR プログラムつばさプロジェクト 2017, p.26）。このことに関しては、その他のオーケストラの事務局員や演奏家からも同様の声が聞かれる¹¹。このように、音楽教育プログラムによってオーケストラの鑑賞者が増えているのかを明確にはかることは難しいと考えられる。

以上、教育プログラムの発展と現状の概略をまとめたが、本研究では、まだ研究が十分進められていない、オーケストラによる音楽教育プログラムの内容に焦点をあてる。そして、子どもたちがクラシック音楽に興味を持つ音楽教育プログラムを明らかにすることを本研究の目的とする。

本稿では、第 2 章でまずオーケストラについて概観する。第 3 章においては、音楽教育プログラムの歴史や概要を整理した後、既存の音楽教育プログラムの特徴や現状と課題について、国内の複数のプロフェッショナル・オーケストラの演奏家等に対して実施したインタビューと文献調査から明らかにする。第 4 章では、既存の音楽教育プログラムとは異なる取り組みを行って

¹⁰ 群響の特徴でもある移動音楽教室については、少なくとも会員約 6 割が経験していると考えられ、その時期も小中学生と比較的若く、この音楽教室が初めてのオーケストラ鑑賞であるとする人々も 4 割を超えており、その効果は大きいと考えられる（垣内 2016, p.53）。

¹¹ オーケストラ関係者へのインタビュー調査による。詳しくは 4.3.4 で述べる。

いるオーケストラの活動に着目し、この団体が実施した小中学校 19 校、文化施設 2 館での音楽教育プログラムにおいて、3,030 人の子どもたち、155 人の学校の教員、292 人の保護者や地域住民のアンケート調査¹²と子どもたちや教員へのインタビュー調査から、この団体の音楽教育プログラムの多様な試みの中で、何が効果的で、子どもたちがクラシック音楽により興味を持ったか否かを明らかにしていく¹³。そして第 5 章では、この結果から、オーケストラによる既存の音楽教育プログラムにおける課題を解消し、音楽教育プログラムの効果を上げるための重要な構成要素や改良点について提言する。

「音楽教育プログラム」の定義について、小山の論文では「教育、または聴衆の育成に関わる活動で、オーケストラ側から対象に働きかけを行うもの」と定義されている(小山 2009, p.159)。オーケストラの音楽教育プログラムには大人向けの事業も含まれるが¹⁴、本研究では子どもたちに焦点を当てた教育プログラムについて論じる¹⁵。またここでは、音楽教育プログラムとは通常、以下の 2 つの機能を持っているものを指すこととする。1 つ目は、子どもたちがクラシック音楽を鑑賞する機会を提供していること、2 つ目は、ワークショップと呼ばれる演奏会以外の場での楽器説明や演奏体験などを通して子どもたちの音楽を学ぶ場を提供していることである¹⁶。また、音楽教育プログラムは主に学校で実施されるものと文化施設で実施されるものの 2 つに分けられる。教育プログラムには有料公演と無料公演があるが、本研究ではクラシック音楽に興味を示さない子どもたちを対象とする無料公演を中心に取り上げる。なお、本研究における「教育プログラム」は、音楽教育プログラムのことをいう。本研究では、音楽教育プログラムは検証内容が広範囲となりすぎるため、学校や教育機関で実施されている「音楽教育」そのものは含まず、オーケストラが広く一般を対象に実施してきた教育プログラムに限定して検証を進めていく。

¹² 日本のオーケストラによる音楽教育プログラムの研究において、この規模の人数によるアンケート調査は見当たらない。三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング (2015)『平成 26 年度 文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業) 検証事業』において、アンケートを小学校 1 年生から中学校 3 年生まで 102,512 人分取っているが、この文化庁のアンケートは現状のものを評価するためにとっており、質問項目も、児童・生徒の文化芸術鑑賞状況と本公演が児童・生徒に与えた効果のみである。一方、本研究においては、子ども以外に教員や保護者・地域住民にもアンケートを取っており、現状と課題をどう克服するのかという新しい取り組みに関する評価のために実施している。項目も効果のほかに、普段の音楽の授業への興味や公演を聴く前と聴いた後での変化なども聞いている。

¹³ 本研究においてシンフォニエッタ静岡で調査するにあたり、筆者はシンフォニエッタ静岡の「音楽教育担当演奏家」として 2019 年度の 1 年間在籍し、演奏会業務に携わりながら、調査を実施する機会を得た。

¹⁴ 実際、日本フィルハーモニー交響楽団コミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサーや日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラム・ディレクターの野村誠による音楽ワークショップは、大人向けのものもある。ミューザ川崎シンフォニーホール公式ホームページと日本センチュリー交響楽団 (2018)『日本センチュリー交響楽団&ブリティッシュ・カウンスル コミュニティプログラム お茶の間オーケストラ 2017 ドキュメントブック 高齢者と奏でる音楽』による。

¹⁵ 山岸の報告書では、「エデュケーション・プログラム」に明確な定義はなく、調査回答者である各オーケストラは、子どもに限定せず広く聴衆に向けて行う広義の普及教育活動と捉えている。そのため、チケット価格政策など各種サービスまでもがエデュケーション・プログラムとして掲載されている事例もあった。しかし、各オーケストラが従来の演奏活動＝オーケストラ公演以外に実施しはじめた関連企画——たとえば小規模編成による演奏、聴衆と演奏家との交流関係、ゲネ・プロ(本番前の総練習)見学などオーケストラを身近に感じてもらうためのイベント開催など——の大多数は子どもに向けたものであると述べられている(山岸 2009, p.5)。

¹⁶ 現時点で音楽教育プログラムについて明確に定義付けしている文献はない。

その他、本研究では「子どもたち」とは0歳から18歳（高校3年生）までを対象としている。これは、通常行われる教育プログラムのほとんどが、0歳児から高校生までを対象としているからである¹⁷。また、本研究の「オーケストラ」とは、プロフェッショナル・オーケストラを指す。このオーケストラには、日本オーケストラ連盟の正会員・準会員・非加盟を問わず、国や自治体、地域社会からプロフェッショナル・オーケストラと認定されている団体が対象となっている¹⁸。

¹⁷ なお、第4章における子どもたちへのアンケート調査は、6歳から15歳までが対象となっている（未就学児コンサートに関しては、保護者が回答する）。

¹⁸ 中原（2017）の分類に基づいている（中原 2017, p.7）。

第2章 日本のオーケストラ

2.1 日本のオーケストラの歴史

日本のオーケストラ史は明治時代から始まった。1879年に文部省音楽取調掛¹⁹が設置されるとともに、宮内省雅楽課有志による日本初のオーケストラが創設された²⁰（大木 2008, p.21）。

戦前の主なプロ・オーケストラとしては、1911年設立の中央交響楽団²¹や1926年設立の新交響楽団²²等があり、山田耕作や近衛秀麿が主導した。戦前期は公的支援の仕組みもない状況であったが、近衛らの私財によって維持され、その後の基礎作りができた。この時代には、レコード、映画、ラジオ放送等新しいメディアが登場したことにより、クラシック音楽が注目された。

終戦直後の1945年から1975年頃までのオーケストラ活動の特徴は大きく3つある。1つ目は、東京をはじめ大都市では民間放送の発足とその拡大に伴い、戦前以上に放送局との結び付きが強くなったこと、また、放送局の豊富な資金を背景に新しいオーケストラが誕生したことである。その例を挙げると、NHKとNHK交響楽団、ラジオ東京と東京交響楽団、文化放送・フジテレビと日本フィルハーモニー交響楽団、読売新聞・日本テレビ放送網・読売テレビと読売日本交響楽団があり²³、1950年代の放送メディアの拡大とともに、順次拡大していった。

2つ目は、地方における文化活動が活発化し、地方にオーケストラが誕生したことである。1945年11月、群馬交響楽団は、高崎市に戦前からあったアマチュアのマンドリン倶楽部を母体に、高崎市民オーケストラとして活動を開始した。その後、1956年には京都市交響楽団²⁴、1961年には札幌交響楽団が設立された。

3つ目は、1965年以降にオーケストラの演奏家たちの自主運営によるオーケストラが新たに設立されたことである。1969年に新星日本交響楽団、1975年に東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、分裂後の日本フィルハーモニー交響楽団などがあり、その他にも多くのオーケストラが設立された（新井 2016, pp.80-83）。

そうした中、オーケストラの増加と聴衆の多様化の時代が訪れる。放送局の豊富な資金を背景に新しいオーケストラが誕生した頃から日本国内におけるオーケストラの団体数が増える一方

¹⁹ 東京音楽学校（現在の東京藝術大学）の前身。

²⁰ 現在の藝大フィルハーモニア管弦楽団。公式ホームページには、「このオーケストラの前身である東京音楽学校管弦楽団は、わが国初めての本格的なオーケストラであり、ベートーヴェンの交響曲第5番《運命》、交響曲第9番《合唱付き》、チャイコフスキーの交響曲第6番《悲愴》などを本邦初演し、日本の音楽界の礎石としての役割を果たしてきた。」と書かれている。

²¹ 現在の東京フィルハーモニー交響楽団。

²² 現在のNHK交響楽団。

²³ 東京交響楽団と日本フィルハーモニー交響楽団は、その後放送局から契約を打ち切られた。

²⁴ 京都市交響楽団は京都市による直営オーケストラとして発足し、地方自治体が運営する初めてのオーケストラとなった。

25、オーケストラに限らずクラシック音楽界全体で聴衆の減少が問題視されるようになった²⁶。とりわけ、定期演奏会では定期会員を中心に構成されているのに対して、他の特別演奏会に訪れる聴衆は新しい別の聴衆層を形成している可能性があるということが言われるようになった。1970~80年代は、さらにマス・メディアが発達し、聴衆の多様化が進んだ。青少年向けのクラシック音楽の公演や、親しみやすく工夫されたクラシック音楽のテレビ番組が誕生し²⁷、定期演奏会に来る聴衆の増加は少なくなり、新しい別の聴衆層を形成していった(小山 2009, pp.164-165)。

2.2 日本のオーケストラの公演の概要

オーケストラの公演は、一般的に自主公演、依頼公演、共催公演の3種類に分類される。自主公演とは、オーケストラ自らが主催して演奏会を行うもので、オーケストラが自らの性格や演奏技術の向上を対外的に示す場として位置づけられる。主に定期演奏会があり、ベートーヴェンの「第九」公演や、ファミリーコンサートといった特別演奏会もある。また、山形交響楽団と群馬交響楽団は、教育プログラムの自主公演を実施している。

依頼公演とは、オーケストラが国や自治体、文化施設の指定管理者、学校、放送局、民間企業等から依頼を受けて行うものであり、依頼主からオーケストラに公演料が支払われる。この依頼公演には、日本のオーケストラ独自の事業として「音楽鑑賞教室」や「芸術鑑賞教室」などと呼ばれるものがある。日本の学校では、オーケストラや演劇、民族音楽、伝統芸能等の団体や個人の芸術家に依頼して学校の体育館や集会室などで公演を行うことがある。

共催公演とは、主にオーケストラと文化施設の運営者の両者が共に主催者となって事業を行うものである。ほかに、指定管理者が共催事業の相手を公募し、実施される場合もある。教育プログラムにおける共催公演の例としては、サントリーホールと東京交響楽団による「こども定期演奏会」が挙げられる。なお、日本オーケストラ連盟や演奏年鑑といった資料において、共催公演の数は明らかになっていないが、文化施設等との共同主催であることから、自主公演として計上されていると考えられる²⁸(中原2017, pp.9-10)。

依頼公演では必要な経費を主催者が負担するが、自主公演と共催公演では赤字になることが多く、経済的負担が大きい。そのため、国や自治体からの補助金を必要とする場合が多い。依頼公演では必要な経費をオーケストラに公演を依頼する主催者が負担する。国や自治体から受託する学校公演が重要な収入源となっている団体も多い。

25 オーケストラが増えた理由として、第二次世界大戦後、軍国主義のアンチテーゼとして「文化国家」を目指す社会的機運が高まる一方で、歌舞伎など伝統文化が演目の内容によっては保守的な思想を想起させるとして制限されたことから、新しい文化的復興の象徴の1つとして、クラシック音楽が着目されたと考えられている(新井 2016, pp.81-82)。

26 聴衆が各オーケストラに分散し、一団体あたりの鑑賞者が減少したと考えられる。

27 この頃のクラシック音楽のテレビ番組における代表例として、「オーケストラがやって来た」が挙げられる。この番組は、指揮者の山本直純と小澤征爾が中心となって作られ、1972年から1983年にわたって放送された(クラシック音楽情報誌ぶらあぽ公式ホームページによる)。

28 この「こども定期演奏会」は有料公演のため、本研究の第3章では取り上げない。

2.3 日本のオーケストラの鑑賞者に関する経営

クラシックの演奏会は、通常、オーケストラ、室内楽、吹奏楽、オペラと演奏スタイルが異なる。まず、演奏スタイルごとにオーケストラと他ジャンル²⁹との鑑賞者を『演奏年鑑（2018）』に掲載されているデータで比較してみる。オーケストラによる演奏会のほうが、演奏団体数や公演回数、1 団体および 1 公演あたりの鑑賞者数においていずれも最も多いことがわかる。例えば、2017 年の団体数は、オーケストラが 39 団体、室内楽が 35 団体、吹奏楽が 6 団体、オペラが 17 団体である。鑑賞者数に関しては、オーケストラによる演奏会が 449 万 8,614 人、室内楽が 25 万 6,361 人、吹奏楽が 35 万 7,157 人、オペラが 19 万 433 人である。公演回数は、オーケストラによる演奏会が 5,084 回であるのに対し、室内楽は 764 回、吹奏楽は 411 回、オペラは 374 回である³⁰。1 団体あたりの鑑賞者数³¹は、オーケストラが 11 万 5,349 人、室内楽が 7,325 人、吹奏楽が 5 万 9,526 人、オペラが 1 万 1,202 人である³²。1 公演あたりの鑑賞者数³³は、オーケストラによる演奏会が 885 人、室内楽が 336 人、吹奏楽が 869 人、オペラが 509 人である。

オーケストラの鑑賞者数に関する表 1 の、1989 年から 2017 年の演奏年鑑の鑑賞者数のデータを見ると³⁴、約 100 万人増えているように見える。1989 年から 2000 年代前半にかけては、一時期を除いて 300 万人前半であったが、2006 年頃から 300 万人後半にのぼり、2008 年からはほぼ 400 万人代を記録するようになった。よって、鑑賞者数は年々増えているように見受けられる（表 1）。しかしながら、鑑賞者数と同時に公演回数も年々多くなってきており、1989 年は 3,121 回であったが徐々に増え、2017 年には 5,000 回を超えるようになった。よって、1 公演あたりの鑑賞者数を計算してみると、1989 年から約 10 年間は 1,000 人代を保っていたが、2000 年代に入ると 1,000 人を下回る年が多くなり、その後も減少していった。さらには団体数も年々増加しており、鑑賞者数を 1 団体あたりで割ると 1989 年の 16 万 5,500 人から徐々に減り、2017 年には 11 万 5,349 人となった。

これまで見てきたように、1989 年から 2017 年までの間で、全体の団体数や公演回数、鑑賞者数のみを見ると増加していることは確かであるが、1 団体あたりの鑑賞者数や 1 公演あたりの鑑賞者数は、年々減少していることがわかる。よって、鑑賞者数全体は年々増えているが、オーケストラの数も増加しているため、演奏会 1 公演あたりの鑑賞者数は減っている。

こうして鑑賞者数が年々減少してきていることから、鑑賞者を増やす取り組みとして名曲コンサートやゲーム音楽のコンサート、子ども向けコンサート、若者や高齢者への割引といったこ

²⁹ ここでは他ジャンルは、室内楽、吹奏楽、オペラの 3 つとする。

³⁰ 邦人演奏家のみ回数であり、来日演奏家の分は含んでいない。

³¹ 鑑賞者数を団体数で割って算出した平均値。

³² 小数点第 1 位を四捨五入。

³³ 鑑賞者数を公演数で割って算出した平均値。

³⁴ 演奏年鑑自体は 1989 年以前からあるが、公演回数や鑑賞者数等詳細については 1989 年以前は記載されていない。なお、1989 年のデータは 1990 年の『演奏年鑑』に載っており、それ以降も同様である（2017 年のデータは 2018 年の『演奏年鑑』に掲載されている）。

とを実施している³⁵。このようにオーケストラは様々な事業を実施するなかで、次代の鑑賞者となり得る子どもたちに向けたコンサートやワークショップを実施していることから、次章では子ども向けの教育プログラムについて見ていく。

³⁵ 例えば、名古屋フィルハーモニー交響楽団では名曲シリーズが約2ヶ月に1回開催され、ベートーヴェンやブラームス、チャイコフスキーなどの有名な曲を演奏する。またゲーム音楽のコンサートは、ドラゴンクエストのコンサートを実施することが多い（ドラゴンクエストのコンサートは、名古屋フィルハーモニー交響楽団以外のオーケストラでも実施されている）。

第3章 日本のオーケストラによる音楽教育プログラム

3.1 日本のオーケストラによる音楽教育プログラムの歴史と概要

日本で最初の教育プログラムは、1939年に日本の子どもたちが生のオーケストラの演奏を聴いたことがないという事実にショックを受けたというエロイーズ・カニングハム³⁶によって実施された「若き人々のための青少年交響楽鑑賞会（現・社団法人青少年音楽協会）」が最初であった（小山 2009, pp.161-162）。曲目に関しては、第1回は前奏曲や交響曲を取り入れるなど、普段の定期演奏会に近いかたちで行われた（表2）。これは好評であり、翌年から参加希望者が激増した。第2回はベートーヴェンの「第九」を取り入れ皆で歌うなど、聴衆参加型にも力を入れるようになる³⁷（大友、津上、有田 2015, p.114）。

第二次世界大戦後には、現在の群馬交響楽団が1946年の設立当初から自主事業として群馬県内の学校を巡回する音楽教育プログラムを開始した。その活動にクラリネット奏者として参加していた指揮者の村川千秋は、故郷山形において1972年に創設した山形交響楽団においても群馬交響楽団と同様に学校を巡回する公演を自主公演として開催した³⁸。この2団体の活動は現在でも自主公演として継続されている。

東京都は東京オリンピックを契機として1964年に東京都交響楽団を設立し、東京都の音楽教育活動の一端を担わせた。このような音楽教育活動は自治体が主体となり、京都市や千葉県、大阪府、愛知県小牧市などでも同様の事例が始まった。

これら自治体の動きを受けて、国は1967年の文化庁による「青少年芸術劇場」を開始した。これが現在の「文化庁巡回公演事業」の原型である³⁹。

その後、1990年に「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」、1994年に「音楽文化の振興のための学習環境の整備等に関する法律」の制定によって、音楽文化の振興もその一環とされる生涯学習関連の事業を都道府県など自治体単位で推進することが明示された（小山 2009, p.168）。このように学校教育の変化や生涯学習を重視する傾向が高まり、1990年代から教育プログラムがさかんに行われるようになってきた。これらの法律以外にも、「芸術文化振興基金」の創設（1990年）、「文化芸術振興基本法」の公布・施行（2001年）、文化庁による「本物の舞台芸術体験事業」の実施等の文化政策も教育プログラム実施への外部要因として挙げられる⁴⁰（小山 2009, p.166）。現在は、少なくとも日本オーケストラ連盟の正会員・準会員

³⁶ エロイーズ・カニングハムは、アメリカの音楽教育家である。宣教師の両親と共に明治時代から軽井沢を訪れ、戦前まで毎夏を過ごしてきた。戦時中はアメリカの大学で音楽教育を学ぶ。戦後に再び来日し、音楽教師を務めた（軽井沢総合研究所・エロイーズカフェ公式ホームページによる）。

³⁷ なお、この演奏会の会員券は80銭均一という安価に抑えられていた（小山 2009, p.162）。

³⁸ 山形交響楽団の当時の教育プログラムの曲目については、表3、表4を参照されたい。

³⁹ 文化庁巡回公演事業についての詳細は、3.3で説明する。

⁴⁰ その他、第7次『学習指導要領』に創設された「総合的な学習の時間」や「音楽」や「美術」の枠組みを超えた「アート教育」という思想と実践の広まりに伴い、外部からの教育現場への参加は容易になる傾向がある。また「生涯学習の進行のための施策の推進体制等の整備に関する法律（略称：生涯学習振興法）」（1990年）、及び「音楽文化の振興のための学習環境の整備等に関する法律（略称：音楽振興法）」（1994年）の制定によって、音楽文化の振

においてはほぼすべてのオーケストラで教育プログラムを実施されている（日本演奏連盟 2018, p.286）。

ここまで教育プログラムの歴史的展開を見てきたが、教育プログラムは現在、主にどのような目的のもと、どのように展開されているのだろうか。

教育プログラムの目的は、団体によってそれぞれ異なるが、主に①情操教育、②将来の鑑賞者育成、③音楽文化を普及することが挙げられる⁴¹。対象者に関しては第 1 章でも述べたが、一般的な教育プログラムは子どものほかに大人や高齢者向けのワークショップを行うものも存在し多様であるが、子ども対象のプログラムが中心である。そのため、本研究で取り上げる教育プログラムは子ども向けのものに限定する。

オーケストラによる教育プログラムの場合は、演奏場所として学校の体育館または近隣の文化施設で実施されることが多い。プログラム内容としては、耳に馴染みのあるクラシック音楽や交響曲の 1 つの楽章のみを抜粋して演奏するほか、アニメや映画音楽などクラシック音楽以外の曲も演奏する。また、曲を演奏する以外にも、指揮者体験や聴衆が参加しやすい合唱のコーナーを設けることも主流になっている。

現在、こういった教育プログラムは多くのオーケストラで行われ、その実施数は増えてきている⁴²。教育プログラムの多くは地方自治体の資金で行われており⁴³、オーケストラはそれを重要な収入源としている。また、経済基盤が脆弱なオーケストラにとっては、教育プログラムはこのような財政の安定化と、子どもたちの情操教育という社会的意義の両面で重要な事業であるといえる。しかし、自治体による教育プログラムの公演あたりの収入は決して多くはなく、結果として予算的に安価な指揮者の下で、芸術面よりは教育的効果のみから決定される画一的なプログラムを繰り返し、演奏者の芸術的満足を目指す環境は保証されていない⁴⁴（山岸 2009, p.3）。

なお、第 1 章でも述べたように、筆者がこの論文で考える「教育プログラム」の定義として、1 つ目は、子どもたちを対象とした演奏会であること、2 つ目は、演奏会以外の場での楽器説明や演奏体験などを通して子どもたちが音楽を学ぶことという 2 つの要素を含むオーケストラによる活動とする。2 つ目の要素は、一般的には「ワークショップ」と言われているものである⁴⁵。

興もその一環とされる生涯学習関連の事業を都道府県など自治体単位で推進することが明示されている。

⁴¹ 以下の事例として挙げる団体の教育プログラムの目的については表 9 にまとめた。

⁴² 日本演奏連盟（1991-2018）『演奏年鑑』による。例えば、1990 年の青少年向け公演の自主事業は 346、依頼事業は 819 であるのに対し、2017 年の青少年向け公演の自主事業は 349、依頼事業は 1,130 である。

⁴³ 例えば 2015 年度の群馬交響楽団の移動音楽教室の場合、収入構成は、地方自治体（群馬県、高崎市、11 市、他）からの補助金が 40%強、文化庁・芸術文化振興基金が 10%、演奏収入が 40%弱、民間寄付金が 10%弱となっている。静岡文化芸術大学自治体文化財団マネジメント講座公式ホームページによる。

⁴⁴ 学校関係で実施される教育プログラムにおいて料金を取る場合、1 人あたり約 800 円が一般的である。オーケストラの音楽監督や常任指揮者は音楽事務所に所属している人が多いため、学校公演だからといって安くすることは原則としてできない。しかし、学校公演の予算は多くないので、音楽監督には学校公演を依頼することができず、音楽事務所に所属していないような、出演料の安い、若い指揮者に依頼せざるを得なくなっている。第 4 章で研究対象とするシンフォニエッタ静岡の指揮者中原朋哉の場合は、中原自身が経営している音楽事務所に所属しており、シンフォニエッタ静岡との関係も強いことから定価から大幅に値引きして受託している。

⁴⁵ 日本においてオーケストラの教育プログラムで実施されているワークショップは、日本フィルハーモニー交響楽団

次節以降では、オーケストラの自主公演として実施されるもの、国による文化庁巡回公演、自治体によって実施されている教育プログラムの事例とそれらの課題について見ていく。

3.2 オーケストラの自主公演としての音楽教育プログラム

ここでは、オーケストラ自らが主体的に教育プログラムを実施している事例を述べる。国内の演奏会情報を網羅している『演奏年鑑』より、オーケストラの「自主公演」のうち、「青少年公演」の多かった群馬交響楽団と山形交響楽団の教育プログラムについて見る。

3.2.1 群馬交響楽団

群馬交響楽団（以下、「群響」という）は、1945年に日本初の地方オーケストラとして高崎市民オーケストラが発足し、1947年のプロ化と同時に「移動音楽教室」を開始した。当時の多くの高崎市民がクラシック音楽を聴いたことがなかったという背景から、「地方音楽の振興」という目的で開始された。この移動音楽教室は、音楽教育の一助となること、多数の児童・生徒がまとまっている学校で有料の音楽会を開くことにより、オーケストラの経済的基盤が確保されることが期待されたが、結果的に経営が安定することは難しく、まもなく、1950年には群馬県と高崎市による支援が開始された（群響 50 年史編纂委員会 1997, p.41, p.65）。

1982 年からは群馬県内の小中学生が 3 年に一度オーケストラを聴くというシステムになり、現在も定着している。また、移動音楽教室の次の段階として本格的なプログラムの音楽鑑賞の機会提供のために、「高校音楽教室」を群馬県内の高校生を対象に展開している⁴⁶。

プログラムは、開始初年度、ブラームスの「ハンガリー舞曲第 5 番」等クラシック音楽の中では比較的短めの有名な曲を中心に構成された。また、クラシック音楽だけでなく、日本の童謡を入れるなど、カニングハムの「若き人々のための青少年交響楽鑑賞会」と同様に、子どもたちが合唱を通して参加することに着目していた。当初は小中高등학교すべて同一のプログラムで展開していたが、4 年後の 1951 年から、小学校低学年・高学年及び中学校とプログラムが分かれた。プログラム内容は、序曲や組曲、小編成のアンサンブル、日本歌曲集などであったが、小学校は三部形式についてモーツァルトの交響曲第 36 番からメヌエットを、中学校はソナタ形式について同じくモーツァルトの「アイネ クライネ ナハトムジーク」を使用し説明するなど、鑑賞のための学習にも力を入れていたことがわかる（群響 50 年史編纂委員会編 1997, p.134）。近年の曲目は、小中高등학교でそれぞれ異なるが、アニメや映画音楽は取り入れず、クラシック音楽が中心である⁴⁷。希望する学校の特定のクラスにおいて事前ワークショップがある。

実施校数、実施回数及び鑑賞者数については、2017 年度の小中学校は、294 校 74 回 41,067

コミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサーや日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラム・ディレクターの野村誠によるものが代表的なものとして挙げられる。

⁴⁶ 移動音楽教室においては、文化庁巡回公演事業同様、事前ワークショップが実施されている。

⁴⁷ 合唱は小学校対象の公演で行われる。

人、事前ワークショップは9校13回823人、高等学校は31校24回18,909人に対して行っている⁴⁸。子どもたちは3年に一度群響の演奏会を聴くことができるシステムであり、群馬県内の小中高等学校が561校であるのに対し、1年で325校を対象に98回の学校公演を行っていることから、多くの学校で実施されているといえる⁴⁹。しかし、1990年には120回の公演⁵⁰、一時は年間300回の公演⁵¹が実施されていたことから、近年は少子化に伴い、減少傾向にあるといえる。

なお、垣内（2016）は、群響の移動音楽教室によって鑑賞行動が促進されているか等の効果を定期会員⁵²の属性や鑑賞活動の実態をアンケート分析することによって検証している。結果として、会員の約6割が移動音楽教室を経験しており、この音楽教室が初めてのオーケストラ鑑賞であるとする人々も4割を超えている（垣内2016, p.53）。このことから、移動音楽教室が群響の定期演奏会の会員になるきっかけとなるといえる。

3.2.2 山形交響楽団

山形交響楽団（以下、「山響」という）は、1971年山形県出身の指揮者村川千秋によって準備オーケストラが組織され、翌1972年、東北地方で最初のプロ・オーケストラとして誕生した。現在は、山形テルサ⁵³・酒田・鶴岡での定期演奏会のほか、特別演奏会、依頼演奏会、山形県内で毎年3万人以上の青少年に“感動”を届けるスクールコンサートやテレビ・ラジオ出演、アウトリーチなど年間150回に及ぶ演奏活動を展開している⁵⁴。

山響の設立運動の実績として、山響の設立準備段階の楽団である新日本交響楽団により1971年に「若人のための音楽鑑賞教室」が開始された。この事業における、バロック・古典派を中心とした12回にわたる演奏会こそ、山響設立に向けて企画された演奏活動のスタートだった（山響40年史編集委員会編2012, p.12）。こうして、この音楽鑑賞教室は山響を設立するための理想を描きながら企画された。この音楽鑑賞教室は3年間開かれ、初年度はバロック・古典、2年度はベートーヴェン、3年度はロマン派・近現代の音楽を演奏した。この3年間は毎年ほぼ同じ高校を対象に実施し、のべ48校、3万人超の子どもたちにクラシック音楽を届けた。

この「若人のための音楽鑑賞教室」は、3年で終わってしまった。予算の都合で廃止せざるを得なくなったが、本来はこのような3年連続のプログラムを各地で行うことに意義があり、理

48 群馬交響楽団公式ホームページ『平成29年度事業報告書』pp.11-14。この年の移動音楽教室と高校音楽教室を総合すると、325校98回59,976人となる。

49 2017年度学校基本調査より。

50 日本演奏連盟（1991）『演奏年鑑』による。

51 友岡邦之（2004）「芸術と日常の再接続—群馬県高崎市での文化政策における試み」『文化経済学』4巻2号, p.87による。

52 定期演奏会の入場券を定期的に鑑賞するための会員制度。

53 ホールの名称である。

54 山形交響楽団公式ホームページによる。

想の形だと村川は現在も考えている⁵⁵。その後は、山形県内を中心に毎年多くの学校で「スクールコンサート」を実施するようになり、2～3年かけて県内のほぼすべての学校へ回っていた。特に小学校は同じ学校に2年に一度行くようにしていた。

村川は、音楽教育について次のように述べている。まず音楽の授業で行うべきは作品を鑑賞することと楽典や音楽史を教えることである。現状では、演奏することや歌うことが中心である。楽器演奏は学校ではなく音楽教室やレッスンなどの習い事でもでき、実際音楽鑑賞教室を開くより楽器をそろえるほうがお金がかかる。また、鑑賞のほうが人間教育に大事で、作品の背景を授業で取り扱わなければいけない。数学で足し算引き算が分からないと複雑な数式が解けないのと同じで、クラシック音楽は知識がないと理解できないからである。次に音楽鑑賞教室について、クラシック音楽には多数の曲があるにもかかわらず、いつも定番な曲しか演奏しないのはもったいないことである。子どもたちには本格的なシンフォニーをきかせるべきである。経験上、馴染みのある子ども向けの簡単な曲よりベートーヴェンの5番のほうが反応が良い。事前の教員との打ち合わせの際、教員側は簡単で分かりやすい曲を演奏してほしいと言うが、楽団側はシンフォニーを取り入れたいと伝えていた。全校の子どもたちを集めて、年に一度はオーケストラを聴ける機会を作るという理想は今でも持っている。そして、小中高と上がるごとに段階を踏んだシステム作りが必要だと考えている⁵⁶。このように、村川は同じ子どもたちに本格的なクラシック音楽を鑑賞する機会を頻繁につくることを主張している⁵⁷。

スクールコンサートは現在も県内全域と一部県外において国や県からの補助を受けて実施されているが、少子化の流れの中、鑑賞する児童・生徒が減少し、90回実施した2013年度は人件費を含めると、約2,300万円の赤字となった⁵⁸。村川が指揮者を務めていた1976年には202校、鑑賞者11万4,663人、演奏回数160回であったことから、大幅に機会が減少していることがわかる。また曲目も村川の頃とは異なり、有名な短い曲が中心である。演奏時間は、小学校60分間、中学校70分間、高等学校90分間である⁵⁹。効果については、「教育上の効果は認められているが、自主公演をはじめとする一般的なプログラムによる公演の聴衆が学校で鑑賞した人数に対して大幅に増加しているかという点においては、十分な効果があるとは言い難い状況もある」と事務局長は述べている⁶⁰。

⁵⁵ 山形交響楽団創設者及び指揮者の村川千秋氏へのインタビューによる（2019年7月17日実施）。

⁵⁶ 村川千秋氏へのインタビューによる（2019年7月17日実施）。

⁵⁷ 青少年育成事業として、これらのほかに「キラキラ会」という弦楽器やソルフェージュの音楽教室も展開してきた。現在は廃止されてしまったものの、山響創設者の指揮者村川千秋が、同楽団創設と共に設立し、45年活動が続けてきた。このようにして、学校での公演に限らず、若手演奏家の育成にも力を注いできた。

⁵⁸ 2015年2月13日朝日新聞山形版朝刊地方1面p.23より。

⁵⁹ 現在のスクールコンサートの詳細は表5に記載。

⁶⁰ 山形交響楽団専務理事 西濱秀樹氏 九州大学 QR プログラムつばさプロジェクト（2017）『次世代に向けた地域オーケストラの社会・文化的役割とマネジメントの提言』p.26

3.3 国による音楽教育プログラム

国が実施主体となって実施している教育プログラムとして、文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業」がある。これには、「巡回公演事業」と「芸術家の派遣事業」の2種類がある。ここでは、オーケストラが受託するものの多い「巡回公演事業」を取り上げる。1967年から開始されたこの事業は全国各地で実施している教育プログラムで、「子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資すること」を目的に、文化庁が選定した文化芸術団体が、学校の体育館や文化施設でオーケストラ、演劇等の巡回公演を行う⁶¹。オーケストラの場合、日本オーケストラ連盟の正会員や準会員が団体ごとに各オーケストラの本拠地以外の特定の地域に出向くことが多い。文化庁はオーケストラを離れた地域へ出向させる理由について、子どもたちが通常鑑賞することができない団体の舞台芸術を鑑賞してもらう目的があると説明している（赤木 2014, p.91）。

この巡回公演事業は有名な曲や短めの曲が中心で、楽器紹介や指揮者体験、合唱等も含まれている⁶²。公演の前に文化芸術団体が実施校へ赴き鑑賞指導や実技指導を行う事前ワークショップが特徴的であり、公演の鑑賞や児童・生徒との共演をより効果的なものとなるとしている⁶³。例えば、札幌交響楽団の事前ワークショップでは、楽器の説明や演奏体験、その地域特有の曲の演奏等が実施され、子どもたちと楽団員との交流を意識した内容であった。そして、事前ワークショップで訪問した楽団員が本公演で子どもたちの人気を集めていた（赤木 2014, pp.89-90）。この本公演とワークショップはいずれも 90 分間行われる。

2014 年度は、本公演前のワークショップを 8 万 3,233 人が、本公演は 12 万 8,411 人が体験している。合同開催校を含む実施校数は 375 校で、この公演についての児童・生徒に与えた効果を教員に尋ねたアンケートでは、「舞台芸術への関心を高めることができた」「豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた」とする回答の割合が高い（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 2015, p.128）⁶⁴。

この事業は、特定のスポンサーや自治体によって運営されている団体は受託しておらず⁶⁵、経営環境の厳しい自主運営の団体が受託している傾向にある。よって、こうした小規模なオーケストラ支援の意味合いがあると考えられる。

3.4 自治体による音楽教育プログラム

次に、自治体の実施主体となっている教育プログラムについて取り上げる。2.2 でも述べたよ

⁶¹ 文化庁『文化芸術による子供育成総合事業』公式ホームページによる。

⁶² オーケストラの巡回公演事業の曲目等は表 6 を参照されたい。

⁶³ 文化庁『文化芸術による子供育成総合事業』公式ホームページによる。ワークショップの詳細は表 7 に記載。

⁶⁴ 2015 年以降の実施校数などのデータが見当たらないため、2014 年度のデータを用いている。

⁶⁵ 文化庁巡回公演事業を受託していないオーケストラの例として、NHK 交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、京都市交響楽団等が挙げられる。

うに、オーケストラの公演には依頼公演があり、自治体や学校からの依頼を受けて公演を実施するものが含まれている。そこで、3.2 同様『演奏年鑑』より、オーケストラの「依頼公演」のうち、「青少年公演」の多い団体を見ると、千葉交響楽団と愛知県小牧市の中部フィルハーモニー交響楽団が多くの教育プログラムを実施していることがわかった。文化庁の巡回公演との比較をより明確にするために、広域自治体と基礎自治体、それぞれによる取り組みを見ていく⁶⁶。

3.4.1 千葉県：千葉交響楽団

千葉交響楽団は、千葉県唯一のプロ・オーケストラであり、前身であるニューフィルハーモニーオーケストラ千葉を 2016 年 10 月に改称した。定期演奏会をはじめ、県民芸術劇場や各地での演奏会など、毎年およそ 20 公演のコンサートに出演し、オーケストラの質の向上に努めている。次代を担う子どもたちに向けては、千葉県及び各市町村教育委員会との共催事業である「小中高等学校音楽鑑賞教室」を毎年 50 校ほど実施⁶⁷している、その他、幼稚園や特別支援学校への訪問演奏や各種室内楽等も行い、全事業合わせて年間 150 回ほどのコンサートに出演している。

千葉県が主催しているこの「小中高等学校音楽鑑賞教室」は、音楽文化の振興や子どもの情操教育等を目的としている。もともとそれを行うための楽団として千葉交響楽団が設立されたため、1985 年の設立当初から開始されていたと考えられる。

曲目はなじみのあるクラシック音楽や音楽の授業の鑑賞曲から、映画音楽、アニメの音楽まで幅広いプログラムとなっている。また、鑑賞だけではなくオーケストラの伴奏で校歌等を歌ったり、その歌の指揮を児童や生徒、教員にしてもらったり、吹奏楽部等がオーケストラと合同演奏することもできる。演奏時間は、小中学校はおよそ 75 分間、高等学校は 90 分間である（表 8）。

活動範囲は千葉県全域であるが、実際は必ずしも全域で実施しているわけではなく、毎年公募し応募のあった学校へ出向くため、毎年のように行く学校もあれば全く行かない学校もあり、差が生じている。楽団の本拠地がある千葉市を中心に、柏市や松戸市などその周辺が多くなるが、都市部だけでなく、勝浦市、南房総市、銚子市など海沿いや山奥等にも出向き、千葉県全域で教育プログラムを展開している。

この教育プログラムは、毎年のように希望がある学校へは 2、3 年に一度の頻度で訪問する。とりわけ、浦安市は市長がクラシック音楽に理解があることから、毎年市内全校の小学 4 年生と中学 2 年生に教育プログラムを実施している。プログラムについては、小学生はルロイ・アンダーソンの作品やディズニーなどの親しみやすい曲を演奏し、中学生は交響曲の一部を取り入れる等クラシック音楽中心へとプログラムを変えている。指揮者体験コーナーや楽器紹介、全員

⁶⁶ 調査に関しては、中部フィルハーモニー交響楽団は楽団員の加藤恵子氏に、千葉交響楽団においては楽団員の若狭直人氏にインタビューを行った（加藤氏：2019 年 5 月 24 日実施、若狭氏：2019 年 7 月 6 日実施）。

⁶⁷ 若狭氏の話によると、毎年 100 校ほど行っているということである。多いときは 200 校行っていたという。

で歌うコーナーなどを設けており、子どもたちは有名な曲に反応することが多い。全体的には、主に学校の音楽の授業と関連付けてプログラムを構成している等の工夫が見られる。

3.4.2 愛知県小牧市：中部フィルハーモニー交響楽団

中部フィルハーモニー交響楽団（以下、「中部フィル」という）は、2000年2月、広く中部圏の「音楽芸術文化の振興と向上」を図ることを目的として、小牧市を本拠地に設立された⁶⁸。活動範囲は中部圏全域にわたり、各市町、企業・団体からの依頼コンサート、オペラ・バレエ団との共演、テレビ朝日系「題名のない音楽会」にも出演している。また将来を担う子どもたちへの情操教育として、各自治体からの依頼を受けたり文化庁巡回公演事業を受託したりしながら、中部圏をはじめ様々な地域の学校へ訪問している。なかでも地元小牧市では、学校の音楽授業へ出張して楽器を紹介したり、楽団員による吹奏楽部の指導を行ったりするなど、積極的に教育へ関わっている。市内の全小中学校をはじめ幼稚園・保育園でもコンサートを開催しており、小さな頃から生の音楽芸術に触れる機会を提供している⁶⁹。

小牧市が主催している「オーケストラがやってきた！」という学校へ出張事業は、楽団発足当初の2002年から現在まで毎年行われている。この教育プログラムを行う目的については、オーケストラの事務局が、運営を継続するために必要な事業だと考えている一方で、演奏家は、継続的にオーケストラの演奏やワークショップを経験してもらうことが1人でも多くの子どもたちにクラシック音楽に興味を持ってもらう上で重要だという思いで活動している⁷⁰。

同じ子どもたちが2、3年に一度の頻度で中部フィルの演奏を聴くことができるように、小牧市内の全小中学校を2、3年かけて回っている⁷¹。2、3年に一度の頻度なので、以前中部フィルが学校に訪問したことを覚えている子どもたちも多くいる。曲目は映画音楽や交響曲の一部など様々で、静かに聴く子どもたちが多い。また、指揮者のトークやボディパーカッションなどの体験コーナーになると盛り上がり、これらが特に人気である。

定期演奏会の鑑賞者は設立以来20年間で増えているが、特に高年齢層の割合が高い⁷²。したがって、この教育プログラムによって増えているのかはわからないが、この取り組みが市民への認知度を高めていることは考えられる。

3.5 現状と課題

以上の事例から、カニングハムによる初期の教育プログラムと現在のものとの公演内容の共通点として、ある楽曲のひとつの楽章、あるいは抜粋された一部分のみが演奏されること、楽器

⁶⁸ 中部フィルハーモニー交響楽団公式ホームページによる。

⁶⁹ 幼稚園・保育園には小編成のアンサンブルで訪問し、弦・木管・金管・打楽器の中から編成を選んでもらっている。

⁷⁰ 中部フィルハーモニー交響楽団楽団員加藤恵子氏へのインタビューによる（2019年5月24日実施）。

⁷¹ 小牧市内の小学校は10校、中学校は9校である。

⁷² 中部フィルは支援企業が多いことから、スポンサー関係者の来場が多い可能性もある（2019年5月24日に実施した中部フィルハーモニー交響楽団楽団員加藤恵子氏へのインタビューによる）。

紹介など解説が付されること、合唱を取り入れること、無料ないし安価に抑えられていることの4点が挙げられる⁷³。

一方、相違点として、初期に比べ、近年の教育プログラムではワークショップを取り入れたものが増えていることがある。また、選曲においても、近年では、アニメや映画音楽など、子どもが日常的に聴く機会の多い曲が選曲される傾向が強くなっている。多くの作品に触れるという目的や、また子どもたちが興味を持てるようにと、有名かつ時間が短い曲目や、曲目の一部を紹介するほか、子どもたちと一緒に歌ったりリズム遊びをしたりするといった内容が多く見られる。

次に、ここまで見てきたオーケストラの現状を踏まえ⁷⁴、オーケストラによる自主公演としての教育プログラム、国が主体となる教育プログラム、自治体が主体となる教育プログラム、それぞれの課題を整理する。

第1に、オーケストラの自主公演として行われている教育プログラムの課題として、収支の問題が挙げられる。オーケストラは、自主公演として定期演奏会と同じように鑑賞する子どもから鑑賞料金を得て教育プログラムを実施しているが、オーケストラに係る経費に比べ収入が少ない。群響では、経営の安定化を目的として創設間もない1946年から移動音楽教室を開始したが、1950年には群馬県と高崎市からこの移動音楽教室への支援を目的として、補助金が交付されるようになった。また、群響と山響のいずれも、自主公演としての学校公演に対し、国の外郭団体である芸術文化振興会による芸術文化振興基金の補助金を受けていることから、教育プログラムの実施に対する収入が不足していることがわかる。この要因として、近年では特に、少子化に伴う各学校の児童・生徒数の減少、学校数の減少がオーケストラの収入の減少に拍車をかけていると考えられる。

第2に、国（文化庁）が主体となる教育プログラムの課題として、実施数の問題が挙げられる。これは前述した実施数が減少傾向にあるという自主公演としての教育プログラムとは異なり、全体に対する実施数がそもそも少ないという課題である。2014年度において実施校数は375校であったが、同年の全国の小中学校が31,409校に対して1.2%しか実施できていないということになる⁷⁵。都道府県別の小学校の数と巡回公演を実施した学校数の関係性で見ると、例えば静岡県の小学校は516校であるのに対し⁷⁶、巡回公演の実施校数は5校である⁷⁷。鳥取県において、小学校は135校であるのに対し、2校で実施されたのみである。このことから、公演回数を増やし、オーケストラに教育プログラムの機会をつくったものの、全国各地にオーケストラが巡回するというほど十分に行き渡っているとは言い難い。

⁷³ 一部小山（2009）p.162を参考。

⁷⁴ 3.2から3.4までで述べてきたオーケストラによる教育プログラムの現状については、表9にまとめている。

⁷⁵ 2014年度の学校基本調査より。文化庁公演の実施校数については2015年度以降のデータが見当たらないため、2014年度のものを使用。割合は小数点第2位を四捨五入。

⁷⁶ 合同開催校を含む。

⁷⁷ 2014年度の学校基本調査より。

また、全国のオーケストラが遠方に出向いて公演を実施するものの、その公演内容は、画一化の傾向にあると指摘できる。曲目について、アニメや映画音楽など有名な曲が多く、また、交響曲を取り上げたとしても、4つある楽章から1つの楽章だけを紹介することが多い。その他の内容について、指揮者体験コーナーや子どもたちの合唱や吹奏楽と一緒に演奏するコーナーを取り入れたプログラムを実施する団体が採択されていることがわかる。このように、定期演奏会をはじめとする一般的な演奏会の内容からかけ離れた内容であることから、文化庁が主体となる事業でありながら、子どもたちがクラシック音楽に関心を持つための公演内容になっていないことが指摘できる⁷⁸。

さらに、文化庁巡回公演事業の付随事業として、公演を行う全ての学校で事前ワークショップを実施することが定められているが、主な内容は楽器の説明や演奏体験、その地域特有の曲の演奏等であり、子どもたちとの交流を深めることが主な目的となっている。このことから、クラシック音楽をより深く理解することを目的とはしていない。また、事前ワークショップの位置付けや定義付けが明確になされていないと指摘できる⁷⁹。

第3に、自治体が主体となる教育プログラムの課題として、まず多くの自治体での事業が文化庁巡回公演と同様の曲目、内容であるため、前述した国による事業と同様の課題がみられる。千葉県においては、事業に毎年応募する市町村と応募しない市町村があることから、広域自治体である県が実施する事業であるにもかかわらず、住んでいる地域によって鑑賞できる子どもとできない子どもがいるという課題がある。

また、国に比べ自治体の政策は、首長の交代によって大きく転換されることがあり、事業が突然廃止されるという可能性をはらんでいることが指摘できる。

最後に、国と自治体が主体となる教育プログラムに共通した課題として、無料で鑑賞できることから、芸術鑑賞は無料、あるいは安価だという認識を植え付けてしまう点が挙げられる。国や自治体が主体となる教育プログラムにおいて、オーケストラに係る経費は国や自治体からオーケストラに支払われることから、子どもばかりでなく保護者や学校の教員にとっても芸術鑑賞は無料、あるいは安価だという印象を与えるものとなっている。

次章では、これらの課題の中から教育プログラムの子どもたちへの教育的効果と選曲との関係について着目する。また、選曲以外にもワークショップの方法と効果について、年齢差による効果の違いについても検証する。そしてそれらの改善点を見いだすべく、クラシック音楽を中心とした教育プログラムをはじめ、様々な教育プログラムを実施するシンフォニエッタ静岡の取り組みを調査し、新たな取り組みの効果や課題を明らかにする。

⁷⁸ 定期演奏会では、前半に序曲と協奏曲または組曲を演奏し、休憩を15~20分程度挟んだ後、後半に交響曲を行うというプログラムが通常であり、全体で約2時間かかる。

⁷⁹ この点については、赤木も指摘している（赤木2014, p.91）。

第4章 シンフォニエッタ静岡における新たな音楽教育プログラムの取り組み —静岡県主催事業「子どもが文化と出会う機会創出事業（音楽）」から—

4.1 シンフォニエッタ静岡の概要

「シンフォニエッタ 静岡」⁸⁰は、静岡県に拠点を置くオーケストラで 2005 年に設立された。楽団員は、国内外で活動する約 50 名で構成されている。定期公演は静岡市のグランシップを拠点としているが、2015 年からはサントリーホールでの東京定期演奏会も開始された。これまで日本で紹介されていなかった作品も数多く手がけ、国内外の作曲家の作品の世界初演や日本初演を実施している。ソリストには数々の世界的奏者を招聘するなど、静岡ないし日本においても独特な活動を展開している。

教育プログラムにおいても、プロの演奏家だからこそできるプログラムに重点を置き実施している。これまで、自主公演として「0 歳からのファミリーコンサート」、学校からの依頼による学校公演等、地域での音楽活動を様々な内容と編成で行ってきた。楽団員だけでなくゲストに招くソリストと共に、山間部にある小規模の学校での公演やワークショップ事業も行っている⁸¹。

シンフォニエッタ静岡は、2019 年度から開始された静岡県が主催する「子どもが文化と出会う機会創出事業（音楽）」を受託した。この事業においてシンフォニエッタ静岡は、2019 年 6 月から 12 月にかけて、静岡県内各地の小中学校 18 校 17 公演⁸²で地域訪問プログラム(学校公演)と文化施設 2 館で未就学児のコンサートを実施した。これらは 6 つの異なるプログラムとなっており、いずれもクラシック音楽を中心に構成された教育プログラムである。

本研究において、シンフォニエッタ静岡を調査対象として選定した理由として、シンフォニエッタ静岡の教育プログラムは、第 3 章で見た他の団体のような画一化の傾向にあるプログラムを実施せず、公演の時期や依頼主によって公演内容や編成に変化を持たせていることのほか、数多くの新しい試みをしていることが挙げられる。

また、同じ団体による複数のプログラムを比較することは、原則として同じ演奏者によるものを比較することになる。これにより、他団体との比較をした場合に生じる、演奏の質の差による調査への影響を避けることができる。

そして、このような研究の調査対象となる団体は、日本オーケストラ連盟正会員の団体となることが多いが、前述したとおり、各団体が似通ったプログラムで実施されている。このことから、同連盟に加盟していない団体であるものの、プロのオーケストラとして、既に国の外郭団体である芸術文化振興会や静岡県からの補助金を受けていること、本研究において調査対象とする静岡県による事業を委託していることのほか、これまで 10 年以上にわたり、静岡県内の自治体や

⁸⁰ 正式な名称としては、このようにシンフォニエッタと静岡の間に半角スペースを用いるが、本稿では半角スペースを用いずに記載する。

⁸¹ シンフォニエッタ静岡公式ホームページによる。

⁸² このうち 2 公演は 12 月に実施されたため本調査の対象から除外している。

自治体の外郭団体からの依頼公演を受託していることから、地域社会からプロ・オーケストラと認知されているシンフォニエッタ静岡を調査対象とする。

4.2 シンフォニエッタ静岡の新たな教育プログラムについて（2019 年度実施）

4.2.1 シンフォニエッタ静岡による教育プログラム

本研究における調査対象として、シンフォニエッタ静岡が静岡県から受託した 6 つのプログラムと、既存の教育プログラムを比較するため、学校からシンフォニエッタ静岡に直接依頼のあった公演の中から、10 月に実施された金管五重奏によるアニメや映画音楽中心のプログラムも調査の対象とした。

調査対象とした教育プログラムは、次の 7 つの公演形態である。

- ① 弦楽合奏を主体とする小品を中心とした学校公演（以下、「6 月の学校公演」という）
- ② フランスにおいて学校で音楽の授業を実施することのできる国家資格「DUMI（デュミ）」⁸³の有資格者によるワークショップを取り入れた未就学児とその家族を対象としたコンサート（以下、「9 月の未就学児コンサート」という）
- ③ シューベルトの『交響曲第 5 番』全楽章を中心としたプログラムによる学校公演（以下、「9・11 月の学校公演」という）
- ④ ベートーヴェンの『交響曲第 7 番』全楽章を中心としたプログラムによる学校公演（以下、「10 月の学校公演 A」という）
- ⑤ ベートーヴェンの『交響曲第 7 番』全楽章を中心としたプログラム（④）に、アニメソングを 1 曲組み込んだプログラムによる学校公演（以下、「10 月の学校公演 B（アニメの楽曲付き）」という）
- ⑥ ベートーヴェンの『交響曲第 7 番』全楽章を中心としたプログラム（④）に、シンフォニエッタ静岡楽団員による 2 回のワークショップを付随プログラムとして実施した学校公演（以下、「10 月の学校公演 C（2 回のワークショップ付き）」という）
- ⑦ アニメや映画音楽等、有名な曲を中心とした学校からの依頼による公演⁸⁴（以下、「10 月の学校依頼公演」という）

⁸³ DUMI とは、フランスで活躍する教育職の公務員として学校において音楽を教えることのできる音楽家のための国家資格のことである。主に音楽家、教育者、地域文化発展のアクターとしての役割を担っており、養成センターで 2 年間学ぶことが必須である（音楽文化創造 2005, pp.71-72）。「音楽を普及するための入門段階を担う人材」として扱われることが多いが、実際は同じ学校や施設に少なくとも 3 ヶ月以上は出向き、特定のクラスに約 10～12 回授業を行うことになっており、徐々に段階を踏んだプログラムを展開している（2019 年 9 月 13 日に実施した DUMISTE 柳澤藍氏へのインタビューによる）。フランス国内での認知度は割と高く、DUMI の導入は普及浸透してきており、子どもたちへの効果の手応えはつかめてきているという（2019 年 3 月 6 日に実施した武庫川女子大学永島茜准教授へのインタビューによる）。

⁸⁴ 第 3 章の日本における教育プログラムで取り上げたものとはほぼ同様の、既存の典型的なプログラム。このプログラムのみ県主催事業ではなく学校からの依頼公演である。

以上のように様々なプログラムが実施された。なお、プログラムの詳細は（表 18）にまとめている。以上の 7 つの教育プログラムに参加した子どもたち、教員、保護者・地域住民を対象としたアンケート調査、インタビュー調査を実施し、シンフォニエッタ静岡のスタッフとして参与観察した。様々なタイプの公演を比較することで、子どもたちへの教育的効果の違いを見ていきたい。

4.2.2 静岡県主催事業「子どもが文化と出会う機会創出事業（音楽）」の概要と調査方法

2019 年度から静岡県が主催する「子どもが文化と出会う機会創出事業（音楽）」は、子どもたちの芸術に触れる機会の地域格差を是正するほか、将来の鑑賞者や音楽文化を支える人材の育成を目指すことを目的として、シンフォニエッタ静岡のほかに、静岡交響楽団、浜松フィルハーモニー管弦楽団の静岡県内のプロ・オーケストラ 3 団体が受託している。この事業は、2018 年度まで行われていたオーケストラに対する補助金事業から大きく変更されたものである。2018 年度までは子どもたちを各団体の自主公演に招待していたものに対して補助金が交付されていたものが、2019 年度から学校公演と未就学児のためのコンサートを実施するための委託事業へと変更された。事業費は、2018 年度に比べ、2019 年度は概ね 7 倍に増額された。活動範囲については、2018 年度までは、政令指定都市である静岡市と浜松市での公演が補助の対象となっていたが、2019 年度からは県の事業としての性格を示すために、政令指定都市以外の自治体において実施するというものに変更された。

公演の内容について、静岡交響楽団と浜松フィルハーモニー管弦楽団においては、基本的には有名なクラシック音楽や映画音楽を中心とした楽曲の演奏と、指揮者体験や合唱などの簡単な参加型プログラムを実施した⁸⁵（表 12、表 13）。一方シンフォニエッタ静岡は、4.2.1 で述べたように、曲目や編成等、様々な内容を実施した⁸⁶。

調査方法として、アンケート調査、インタビュー調査、参与観察を公演会場（学校及び文化施設）において実施した。アンケート調査は、2019 年 6 月、9～11 月にシンフォニエッタ静岡が実施した小中学校 19 校、文化施設 2 館での教育プログラムにおいて、3,030 人の子どもたち、155 人の学校の教員、292 人の保護者や地域住民から回答を集めることができた。学校公演は公演後体育館または教室で、未就学児コンサートは公演後客席またはロビーでアンケートを記入してもらい、その場で回収した⁸⁷。アンケートは事前事後に分けて行いたかったが、回収率を高めることや学校側の時間的制約から回答を 5 分以内にとすることといった条件を考えた結果、一般の演奏会でのアンケート調査と同じように演奏会直後にアンケート調査を実施した。

⁸⁵ 日程等の詳細については、表 10、表 11 を参照されたい。

⁸⁶ 日程や曲目については、表 14、表 15 を参照されたい。それぞれの公演形態別における詳細は表 18 を参照。

⁸⁷ 小中学校に関して 19 校中 3 校は⑦「10 月の学校依頼公演」である。なお、アンケートの回収率は、学校公演は子ども・教員・保護者・地域住民それぞれほぼ回収できた（正確な数字は不明であるが、数枚回収できなかった程度である）。未就学児コンサートについては、保護者の来場者 319 人（全部で 627 人）に対しアンケートの数が 148 枚のため 46.4%であった。

集計は、子ども、教員、保護者・地域住民の単純集計と子どものクロス集計を行った。なお、単純集計・クロス集計の両方において、月によって大きくプログラムが異なるため、月別で集計を実施した。6月（①「6月の学校公演」）、9・11月（③「9・11月の学校公演」）、10月（④「10月の学校公演A」、⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」、⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」）で分けている。9月と11月は同じプログラムであったため、まとめて集計した。10月においては、学校によってアニメの曲を1曲入れたプログラムや事前事後にワークショップを入れたプログラムがあるが、細かく分けてしまうとアンケートの母数が少なくなってしまうことから、④～⑥はまとめて集計し、必要に応じて公演形態別に結果を出した。なお、ここまでは学校公演についてであるが、②「9月の未就学児コンサート」と⑦「10月の学校依頼公演」はこれとは別に集計した。またアンケート調査のほかにインタビュー調査も実施したほか、調査期間において、シンフォニエッタ静岡のスタッフとして業務に携わり、参与観察も実施した。

子ども用のアンケート用紙には、音楽の習い事や音楽の授業、クラシック音楽への興味など普段の音楽への関わりや、シンフォニエッタ静岡の公演を聴いた後のクラシック音楽への関心、今後の鑑賞や演奏への関心について、選択式の項目を入れた（図19、図20）。またその他に、小学校高学年・中学生用のアンケート用紙には、シンフォニエッタ静岡の公演を聴いた後のクラシック音楽への関心について、そうなった理由を記述する欄を設けた（図20）。このように、子どもたちのクラシック音楽への興味の変化について図ることを主な目的とし、それに普段の音楽との関わりがどのように影響するのかをも考慮しながら調査設計を行った。

また教員用のアンケート用紙には、音楽の習い事の経験や普段のクラシック音楽への関心の他、学校でのクラシック音楽の鑑賞教室の経験や子どもたちの反応、演奏団体について等を選択式、公演の感想を記述式として多角的に質問項目を設けた（図21）。

保護者・地域住民用のアンケート用紙には、音楽の習い事や学校でのクラシック音楽の鑑賞教室、コンサートホールでのクラシック音楽の鑑賞経験の他、鑑賞者として関心を持って聴きに来ていることから、今回の公演への来場理由や今後行きたいコンサートの内容、入場料等を選択式、公演の感想を記述式として設計した（図22）。

未就学児コンサートのアンケート用紙に関しては、子どもは未就学児のためアンケートを記入するのは難しいことから、保護者用のみ作成した。保護者自身について尋ねた後、今回の公演について保護者だけでなく子どもの意見も選択式や記述式で回答してもらった（図23、図24）。

クロス集計は、学年や音楽の授業への関心とクラシック音楽への興味との関係性、コンサートを聴く前と聴いた後での変化について実施した。

その他、参与観察もアンケート調査同様、すべての小中学校、文化施設で実施し、インタビュー調査においては、ワークショップや子どもたちの集中力等について、子どもたちや教員、シンフォニエッタ静岡の楽団員にインタビューを実施した。

4.2.3 静岡県主催事業「子どもが文化と出会う機会創出事業（音楽）」におけるシンフォニエッタ静岡の取り組み

この静岡県主催事業においてシンフォニエッタ静岡は、静岡県内各地の小中学校 16 校で地域訪問プログラム（学校公演）と文化施設 2 館で未就学児のコンサートを実施した内容を簡単に説明したい⁸⁸。

まず①「6月の学校公演」は、掛川市内の A～F 小学校を対象に、4 日間にわたり 70 分間の弦楽合奏を実施した⁸⁹。全体的に子どもたちは飽きずに集中して静かに聴いている様子であった。時折曲中に体を揺らす子どもがおり、音楽を肌で感じ楽しむ姿が見られた。大きい楽器や目立っている楽器に興味を示す子どもが多かったほか、曲や楽器の説明があった部分の反応が良かった印象がある。

②「9月の未就学児コンサート」は、2 日連続で御前崎市と藤枝市の市民会館にて未就学児対象のワークショップ付きコンサートが行われた⁹⁰。コンサートはオーケストラ編成による 3 曲からなり、休憩を含んだ約 75 分の公演であった。交響曲の全楽章や物語が題材の組曲などが演奏され、演奏以外には楽器紹介と曲間のトークがあった。

ワークショップは、フランスの音楽教育に関する DUMI（デュミ）という資格を有する DUMISTE（デュミスト）を中心にコンサートの前後に約 30 分ずつ実施され、事前に応募のあった子どもたちが参加した⁹¹。なお、DUMISTE は、シンフォニエッタ静岡の楽団員ではなく、この公演のために楽団外の専門家に依頼された。1 日目の御前崎市でのワークショップでは、コンサートで演奏した《マ・メール・ロワ》を題材にした内容が中心で、事前ワークショップでは、第 1 曲「眠れる森の美女のパヴァーヌ」の冒頭のフレーズをグロッケン・シュピールで叩いてみる、第 2 曲「親指小僧」の中間部に出てくる鳥の鳴き声をモチーフに様々な鳥の鳴き声を真似してみる、シルエットを登場させて何の鳥か当ててみる、等のアクティビティをロビーで実施した。事後ワークショップでは一部の楽団員がそのまま舞台上に残り⁹²、鳥の鳴き声の部分を再現し、DUMISTE がそれについて説明した。2 日目の藤枝市でのワークショップは、1 日目とは異なった内容でコンサートの内容とはあまり関係性がなく、グロッケン・シュピールの音を聴き実際に叩いてみる、体を動かしてウォーミングアップをする、などという内容であった（表 16）。

公演全体をみると、コンサートにおいては、未就学児のため歩き回ったり泣いたりする子どもが多かったが、楽器紹介では特に盛り上がった印象を受けた。一方、ワークショップでは、未就学の子供たちは音楽を聴くことより楽器を触ったり叩いてみたりすることのほうに興味を持

⁸⁸ 参与観察というかたちで関わり、アンケート調査も行った。アンケート調査は、6 月と 9～11 月にシンフォニエッタ静岡による教育プログラム対象校の子どもたちと教員、保護者・地域住民に実施した。図 1 において、回った箇所を地図化した。なお地図には、4.3.5 で述べる学校からの依頼公演で回った学校も含まれている。

⁸⁹ 6 月の学校公演の様子については、図 2～5 を参照されたい。

⁹⁰ ②「9月の未就学児コンサート」（ふくみみコンサート）のチラシと公演の様子については図 6～8 を参照されたい。
なお、公演時間については 70 分間であった。

⁹¹ 参加者数は、御前崎市 5 名、藤枝市 20 名であった。

⁹² ヴァイオリンのリーダーであるコンサートマスターとフルート 2 人の 3 人。

っているように見られた。また、ワークショップの流れに一貫性がなく、事前と事後で子どもたちの反応の違いについてははっきりとはわからなかった⁹³。さらには、前述したように、特に2日目はコンサートとワークショップとの関連性が薄く、ワークショップの効果により子どもたちが曲をより深く理解しているかについては全くわからなかった⁹⁴。

③「9・11月の学校公演」の9月は、島田市のG小学校にて実施した。G小学校は、数年後には廃校となってしまう小規模校である⁹⁵。他校と比べてとても音が響く体育館であった。75分間のプログラムのうち、前半は短めで耳に馴染みのあるクラシック音楽が中心であった。また、演奏曲目の各セクションの役割を個別に紹介し、それを組み合わせることでオーケストラの楽曲が構成されていることを説明するという場面があった。

休憩を10分挟み⁹⁶、後半はシューベルトの交響曲第5番の全楽章という本格的なクラシックの楽曲であったが、子どもたちは、クラシック音楽の鑑賞経験の少ない人々の公演ではよく見られる楽章間の拍手もすることなく、静かに集中して聴いていた⁹⁷。特に第3、4楽章の盛り上がりの場面における大迫力の演奏が体育館中に響き渡った。それに驚いて友だちと顔を見合わせる子どもや、指揮や楽器演奏の真似をする子どもがおり、楽団員が全力で演奏する姿が良く伝わっている様子だった。アンコールはハイドン作曲の交響曲第45番《告別》第4楽章が演奏され、作曲者の指示通り、次々と楽団員が舞台から去って行き、最後はヴァイオリン奏者2人のみの演奏で幕を閉じるという演出があり、興味深く見たり聴いたりしている子どもが多かった⁹⁸。

10月の学校公演は4日間にわたり、河津町のH小学校、掛川市のI小学校とJ小学校、浜松市のK小学校、島田市のL小学校とM中学校を訪問した⁹⁹。④「10月の学校公演A」についてはH・K小学校で実施し、後半にベートーヴェンの交響曲第7番を全学章演奏するという75分間のプログラムであった。全体的にも子どもたちにとって聴き馴染みのない曲が中心であったが、終始集中して聴いている子どもが多く、時に体を揺らしたり指揮の真似をしたりする姿が見られた。10月の学校公演においては、プログラムがAとBに分かれており、Bプログラム（⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」）においては、2曲目に「となりのトトロより『さんぽ』」が演奏され、低学年は一緒に歌う子どもが目立った。

また、⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」では、④学校公演Aの公演日の

⁹³ 例えば、コンサートの中で《マ・メール・ロワ》の鳥の鳴き声が出てきたことについて子どもたちが本当に理解したのかはわからなかった。

⁹⁴ 子どもたちが曲ではなく、楽器や音、奏法に関心を示していたことは、永島氏と柳澤氏の実施報告書からもわかる。

⁹⁵ 全校児童約36人である。9月の学校公演の様子については、図9~10を参照されたい。

⁹⁶ 休憩の間も、後方のギャラリー向けの指揮者によるトークが展開された。

⁹⁷ 拍手は1曲完全に終わってからするものであり、楽章間では行わないのが基本的なコンサートのマナーである。クラシック音楽に馴染みのない人だと楽章間で拍手をする人がとても多い。G小学校は和太鼓の活動がさかんで、オーケストラではないが普段から音楽に親しむ環境があることが大きいと考えられる（G小学校教員の意見より）。

⁹⁸ このパフォーマンスはシンフォニエッタ静岡独自のものではなく、作曲者ハイドンの指示によるものである。

⁹⁹ 掛川市の2校は比較的人数が多く、特にI小学校は街中に位置するが、それ以外の学校は比較的小規模である。10月の学校公演の様子については、図11~14を参照されたい。

前後それぞれ約 1 週間にワークショップを実施した¹⁰⁰。事前ワークショップでは、まずジョン・ケージの『4 分 33 秒』を用いて、その時間内に何がきこえるかという「聴くこと」を考えることから始まった。それから、学校公演での演奏曲であるベートーヴェンの交響曲第 7 番がリズム動機によって構成される作品であることから、5～7 名ずつの 4 つのグループに分かれて、子どもたちに西洋や日本の踊りのリズムをはじめとする様々なリズムを考えさせるというテーマが与えられた。事後ワークショップにおいては、コンサートで演奏したベートーヴェン交響曲第 7 番の復習や、事前ワークショップで作ったリズムに音をつけて曲を作ってみることを中心に授業が展開された（表 17）。小学校、中学校いずれも全体的に子どもたちは積極的に話を聴きテーマに取り組んでおり、特に事後のワークショップでベートーヴェン交響曲第 7 番のリズムの復習をした際、そのリズムを覚えている子どもが多かったことから、関心を持って聴いていたことがわかった。なお、このワークショップに参加した学年の子どもたちはコンサート中も静かにベートーヴェン交響曲第 7 番をはじめとしたクラシック音楽に聴き入っていた。

③「9・11 月の学校公演」の 11 月は、牧之原市の N 小学校、富士宮市の O 小学校、島田市の P 小学校で実施した¹⁰¹。9 月の学校公演の時と全く同じプログラムであった。N 小学校は O、P 小学校と比べて子どもの数も多く、にぎやかな子どもが多かった。N、O 小学校は中山間地域の小規模校であり、物珍しようにじっと演奏する姿を眺めている様子が見られた。全体を通して、曲の解説時に馴染みのあることを題材にしたときや¹⁰²、曲中や楽器紹介に演出を行った際に特に反応を示していた。

なお、以上の県主催事業のほかに、2019 年 10 月に学校からの依頼によって実施された金管五重奏による公演も、第 3 章でみた既存のプログラムに類似した内容であったことから、調査対象とした¹⁰³。

会場内の雰囲気は、県の主催事業のクラシック音楽ばかりのプログラムの時とは大きく異なり、「となりのトトロメドレー」や「美女と野獣」等、アニメや映画音楽等の有名な曲を中心に演奏されただけでなく、楽器紹介でスーザフォンやアルプホルン等、特殊な楽器が登場したこともあり、ポップス系の人気アーティストのライブのように盛り上がっていた。

ここまでシンフォニエッタ静岡の教育プログラムの内容、各学校や各公演の特徴について述べてきた¹⁰⁴。この参与観察の様子からすると、①「6 月の学校公演」や④「10 月の学校公演 A」のようにクラシック音楽が中心であったり交響曲が全楽章入っていたりしても子どもたちは全

¹⁰⁰ L 小学校は 1～3 年生、M 中学校は 1 年生を対象にワークショップを実施。ワークショップの様子については、図 15～16 を参照されたい。

¹⁰¹ 11 月の学校公演の様子は、図 17～18 を参照されたい。

¹⁰² 交響曲の楽章についての話で、「ドラえもん」のテレビ番組が 30 分で 2 つ話があるという例えを用いたり、各セクションの役割についてメロディーだけだと物足りないことを説明したり、ソナタ形式についてお米と味噌汁に例えたりしてわかりやすく工夫していた。

¹⁰³ 学校からの依頼公演の場合、原則として児童・生徒一人あたり 800 円（税別）ずつ支払うことになっており、公演内容なども学校から要望が出される場合が多い（2019 年 12 月 16 日に実施したシンフォニエッタ静岡芸術監督・指揮者中原朋哉氏へのインタビューによる）。

¹⁰⁴ 前述したが、公演の日程や曲目の詳細については表 14、表 15 を参照されたい。

体的に静かに集中して聴いていることがわかった。さらに、クラシック音楽中心でも、③「9・11月の学校公演」や⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」のように交響曲全楽章に加え演出やわかりやすい楽曲解説、事前事後ワークショップがあると、演奏に対して特に反応を示していた。②「9月の未就学児コンサート」は未就学児対象のため、歩き回ったり寝ていたりする子どもが多く、クラシック音楽に興味を持っているのかはよくわからなかったが、DUMIに関しては、曲を理解することではなく楽器を演奏することに注目している様子であった。⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」や⑦「10月の学校依頼公演」のプログラムのように、アニメや映画音楽を入れると特に低学年が盛り上がる様子も見られた。

次節では、これらの公演において筆者が実施したアンケート調査の分析結果について、詳しく述べていく。

4.3 アンケート調査とインタビュー調査の分析結果

4.3.1 子どもたちへのアンケートとインタビュー

ここでは、小中学校での教育プログラムについてアンケートをもとに分析をしていく¹⁰⁵。

6月、9～11月の学校公演のアンケート結果について、全体の傾向としては、どの月も公演を聴く前よりも、聴いた後のほうがクラシック音楽に興味を持つ子どもが増えたことが明らかになった（表 19-1）。主な意見としては、「きれいな音色だった」、「色々な楽器や音楽があった」、「知らない曲がたくさんあって、もっと知りたくなった」等が目立った。一方、興味を持たなかった子どもにおいては、「曲が長い」、「眠たくなった」、「難しかった」等の意見が散見された（表 19-2）。

また、学校別に見ると、学校によっては比較的中山間地域の小規模校である B 小学校や C 小学校のようにクラシック音楽に興味を示さない 1 年生が目立った学校もあった。1 年生は理解できたのが有名な楽器のみであるなど、内容が難しかったようにも感じられる¹⁰⁶。E 小学校や G 小学校は、興味を持つ子どもたちが他校に比べて多い印象であった¹⁰⁷。この要因として新しい体育館で音響が良かったことが考えられる。

次に、「音楽の授業の好き嫌い」、「コンサートを聴く前のクラシック音楽の好き嫌い」、「コンサートを聴いた後のクラシック音楽の好き嫌い」、「クラシック音楽を今後聴きたいか」の 4 つの質問を、公演形態別に演奏後にどのように変化したかについて見ていきたい¹⁰⁸。

¹⁰⁵ ②「9月の未就学児コンサート」については、未就学児が中心であることから、子どもからのアンケートを集めていない（保護者にアンケートを実施した）ため、集計結果は 4.3.3 で述べる。

¹⁰⁶ C 小学校のクラス担任からのコメントにも 1 年生にはオーケストラについて理解ができなかったかもしれないとの記述があった。

¹⁰⁷ 例えば G 小学校においては同じ規模である K 小学校と比較してみると、コンサート鑑賞後クラシック音楽がもっと好きになったと答えた子どもたちは、K 小学校は 45.8%であったのに対し、G 小学校は 54.3%であった。同じように、高学年のみで学校公演を行った E 小学校と I 小学校を比較してみると、I 小学校は 25.7%であったのに対し、E 小学校は 39.6%であった。

¹⁰⁸ ④～⑥はほぼ同じプログラムであり、その一部にアニメ 1 曲を入れたりワークショップを実施したりしたため、選択式の回答は④～⑥まとめて集計を実施した。

まず、音楽の授業への関心について、①「6月の学校公演」は、「好き」が56.3%、「きらい」・「むずかしい」が6.5%であり、③「9・11月の学校公演」は、「好き」が63.5%、「きらい」・「むずかしい」が3.2%であった。④「10月の学校公演A」、⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」、⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」は、「好き」が45.2%、「きらい」・「むずかしい」が8.8%であった（表19-1）。後程、音楽が「きらい」・「むずかしい」と答えた子どもがどのくらいクラシック音楽に関心を持ったか見ていきたい。

コンサートを聴く前のクラシック音楽への関心については、①「6月の学校公演」は、「好き」・「まあ好き」が60.1%、「あまり好きではない」・「きらい」が5.4%であり、③「9・11月の学校公演」は、「好き」・「まあ好き」が58.5%、「あまり好きではない」・「きらい」が3.2%であった。④「10月の学校公演A」、⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」、⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」は、「好き」・「まあ好き」が44.5%、「あまり好きではない」・「きらい」が10.8%であった（表19-1）。

コンサートを聴いた後のクラシック音楽への関心の変化については、①「6月の学校公演」は、「もっとすきになった」・「すきになった」が76.1%（聴く前は60.1%）、「きらいになった」・「もっときらいになった」が0.6%（聴く前は5.4%）であった。③「9・11月の学校公演」は、「もっとすきになった」・「すきになった」が87.2%（聴く前は58.5%）、「きらいになった」・「もっときらいになった」が0%（聴く前は3.2%）であった。④「10月の学校公演A」、⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」、⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」は、「もっとすきになった」・「すきになった」が69.6%（聴く前は44.5%）、「きらいになった」・「もっときらいになった」が0.9%（聴く前は8.8%）であった（表19-1）。

今後のクラシック音楽の鑑賞に対する関心については、①「6月の学校公演」では、「毎日ききたい」・「時々ききたい」が61.8%、「あまりききたくない」・「ききたくない」が3.1%であった。③「9・11月の学校公演」は、「毎日ききたい」・「時々ききたい」が72.6%、「あまりききたくない」・「ききたくない」が2.3%であった。④「10月の学校公演A」、⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」、⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」は、「毎日ききたい」・「時々ききたい」が57.5%、「あまりききたくない」・「ききたくない」が2.8%であった（表19-1）。これらの公演形態同士で比較してみると、鑑賞後の積極的な反応やその後の鑑賞への意欲など、③「9・11月の学校公演」のプログラムが最も効果が高かったと考えられる。

ここでは、音楽の授業に対して「きらい」、「むずかしい」といった消極的な回答をした子どもが、その後どう変わったのかを明らかにしたい。音楽の授業について、音楽の授業を「きらい」と答えた子どものクラシック音楽への関心は、コンサートを聴く前は「すき」・「まあすき」が18.2%であったのに対し、コンサートを聴いた後は23.8%であった。一方、音楽の授業を「むずかしい」と答えた子どものクラシック音楽の関心は、コンサートを聴く前は「すき」・「まあすき」が37.0%であったのに対し、コンサートを聴いた後は54.3%となった。このことから、クラシック音楽への関心の変化は、音楽の授業を「きらい」と答えた子どもはあまりなかったが、音楽の

授業を「むずかしい」と答えた子どもは好きになる傾向が大きいことが明らかになった。

低学年と高学年にわけて見ると、コンサートを聴く前にクラシック音楽について「好き」と答えた子どもたちは、低学年は 44.6%、高学年は 26.0%であったが、コンサートを聴いた後は、「もっと好きになった」と答えた子どもたちは、低学年は 44.9%、高学年は 31.4%であった。今後の鑑賞についても、「毎日ききたい」という回答は、低学年は 31.3%、高学年は 16.3%と、いずれも低学年のほうが高いことがわかった。コンサートを聴く前と聴いた後との比較をしてみると、聴く前は「ふつう」であった子どもは、聴いた後「好きになった」という回答が 56.5%と最も多かった（表 20）。

感想を公演形態別に細かく見ると、①「6 月の学校公演」では、積極的な意見は、「きれいな音楽だったから」、「いろいろな楽器や音楽があったから」、「楽しくおもしろかったから」が上位を占めた。それに対し、消極的な意見は「もともとあまり興味がないから」、「長いから」、「あまりクラシック音楽のことがわからないから」が上位を占めた。

③「9・11 月の学校公演」は、積極的な意見として「きれいな良い音がきけたから」、「迫力がある演奏だったから」、「テンポや音色が良かったから」等があり、消極的な意見はなかった。

④「10 月の学校公演 A」、⑤「10 月の学校公演 B（アニメの楽曲付き）」、⑥「10 月の学校公演 C（2 回のワークショップ付き）」は、「音色が合わさっていてきれいだったから」、「とても迫力があってすごかったから」、「いろいろな音や楽器、ひき方があっておもしろかったから」が主な積極的な意見としてあった一方、「演奏の時間が長いから」、「もともと興味がないから」、「聴いてみてすごかったけど、途中で飽きちゃったから」等、消極的な意見もあった（表 19-2）。

⑤「10 月の学校公演 B（アニメの楽曲付き）」においては、「となりのトトロより『さんぽ』を演奏した学校のアンケートでは、『さんぽ』がよかった」という意見は一つもなかったことに加え、「有名な曲があってよかった」等の意見もほぼ見られなかった。感想を記述する欄が高学年のみであったことも関係している可能性はあるが、子どもたちは「さんぽ」のように、馴染みのある曲が特別に良いというわけではないことがアンケートを通じて明らかになった。

⑥「10 月の学校公演 C（2 回のワークショップ付き）」に関しては、ワークショップ時にアンケート調査は実施していないが、「演奏家と一緒に曲作りができて楽しかった」、「音楽についてよくわかり、興味を持った」という声をインタビュー調査から聞くことができた¹⁰⁹。なお、事前と事後でコンサートにおいて演奏されたベートーヴェン交響曲第 7 番を題材にしたワークショップを実施したことによって、子どもたちが曲への理解が深まったことが参与観察を通じてわかった。アンケートの感想では、例えば M 中学校においてワークショップを経験しなかった 2、3 年生は消極的な意見が散見されたのに対し、ワークショップを経験した 1 年生は消極的な意見が一つもなかったことから、ワークショップがクラシック音楽への関心要因の一つであることが考えられる。

¹⁰⁹ M 中学校の子どもたちへのインタビューによる（2019 年 10 月 18 日実施）。

また、全体的に多少学校によってばらつきがあるものの、音楽の授業が好きな子どもたちのほうが普段からクラシック音楽にも関心があり、「シンフォニエッタ静岡のコンサートを聴いてからますます興味を持った」、「これからも聴いてみたい」という子どもが多い傾向があることがわかった。さらに、高学年より低学年のほうが、クラシック音楽への関心が高いということも明らかになった。この傾向は、公演形態①、③～⑥それぞれにおいても見られた。

これらをまとめると、①「6月の学校公演」は③「9・11月の学校公演」や④「10月の学校公演A」と比べて曲目が多少多かったのもあり、色々な音楽が聴けたことが良かったという意見が多かった。③「9・11月の学校公演」と④「10月の学校公演A」は、交響曲があったからか、「迫力があったから」という意見が目立った。また、③「9・11月の学校公演」は消極的な意見がなかったことから、交響曲を全楽章演奏するプログラムでも演出やわかりやすい解説があるより子どもたちが興味を持って聴いていることがわかった。⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」はアニメソングが1曲だけだとその印象が薄まるからか、アニメソングが特別に良かったわけではないことがわかった。⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」ではワークショップを通じて曲への理解が深まったことから、ワークショップの意義が見出される。

4.3.2 教員へのアンケートとインタビュー

教員へのアンケート結果について、まず選択式回答の全体的な傾向としては、「オーケストラやクラシック音楽に興味を持った生徒が増えた」が79.5%、「このような鑑賞教室は今後も必要である」が94.7%と、高い数値であった（表21-1）。

次に感想をプログラムの形態別に見ると、①「6月の学校公演」は、「平日頃に触れ合うことのできない生の演奏に触れ合うことができ、子どもたちにとって良い刺激だったと思う」、「真剣に静かに聞いている子が多かった。興味が高かったようだ」、「解説やお話があつてよかった、わかりやすかった」等が目立ったのに対し、「休みなく1時間の間静かに姿勢良く聴き続けることは難しいと思った」、「レベルが高くて勉強になる一方、ついていけなくなる子もいて、色々な曲がもっと聞けるとよい」、「眠たくなった子もいた」が主な消極的な意見としてあった。

③「9・11月の学校公演」は、「本物のオーケストラの演奏を聴く機会を子どもたちも持てたことは、価値あることだと思う」、「心地良い素晴らしい演奏だった」、「子どもたちにもわかりやすく楽器の紹介をしてもらったので、目を輝かせていた」が上位の意見としてあったのに対し、「長くて飽きていた子もいたようだ」、「参加にあたっては年齢等考慮する必要があると思った」等の消極的な意見もあった。

④「10月の学校公演A」は、交響曲を演奏したからか、「近くで聴けて迫力があつた」という意見が目立った。一方、消極的な意見としては、「公演時間が長く、生徒が集中できない」、「もう少し有名な曲も交えるなどわかりやすい内容だと良い」という意見が主なものとしてあった（表21-2）。

⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」は、「盛り上がる曲は子どもたちも好きである」という意見が1つあったが、それ以外はクラシック音楽が中心のプログラムの時と大して違いはなかった。なお、消極的な意見はなかった。

⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」は、ワークショップの実施と演奏会における鑑賞の関係においてインタビューを実施したところ、「ワークショップがあったことでコンサートの理解が深まったのかははっきりわからないが、ワークショップを体験した生徒は集中して聴いていた」、「演奏者と生徒との距離が縮まり近くで触れあえる機会があつてよかった」との声があつた¹¹⁰。

曲目以外で気になった点として、「プロでなくともアマチュアの団体でも良い」という意見がどの公演も一定数あり、全体で36.9%あつたことである（表21-1）。その理由としては、教員にインタビューを実施した中で、「プロであれば最高だが、まず予算の都合を考慮しなければならない」ことが明らかになった。「とりあえず楽器や音楽を直接見たり聴いたりできる機会があれば良い」、「専門家になればなるほど、子どもたちと上手に話してもらえるか不安になる」との声があり、予算の制約や、気軽に子どもたちがオーケストラに接する機会をまず創ることを意識していると思われる¹¹¹。

これらをまとめると、①「6月の学校公演」や③「9・11月の学校公演」から、子どもたちの興味が高かったことが教員にも伝わっていることがわかった。また、解説がわかりやすかつたという意見も一定数あつた。④「10月の学校公演A」は子どもたちと同様、交響曲を全楽章演奏したからか、迫力があつて良かったという意見が多かつた。一方、①「6月の学校公演」や③「9・11月の学校公演」、④「10月の学校公演A」においては子どもたちより消極的な意見が割合として高いことがわかった。⑤「10月の学校公演B（アニメの楽曲付き）」はアニメソングが1曲あつたからか、消極的な意見はなかった。⑥「10月の学校公演C（2回のワークショップ付き）」に関しては、満足している様子であつた。演奏団体については、予算の見直しやプロならではの良さを知ってもらう工夫等が求められる。

4.3.3 保護者・地域住民へのアンケート

保護者・地域住民に対してもアンケート調査を実施した¹¹²。選択式回答の傾向としては、全体的に「今後もクラシック音楽のコンサートを聴きに行きたい」という回答が95.6%と多く、好評だつたことがわかつた（表22-1）。感想としては、「生のオーケストラの演奏が間近で聴け、貴重な機会だつた」、「素晴らしい演奏だつた」、「トークがわかりやすく、色々知ることができた」、「指揮者も演奏者もからだ全体で音を作り、真剣な顔だつたり表情が豊かだつたりしてとても

¹¹⁰ L小学校とM中学校の教員へのインタビューによる（2019年10月18日実施）。

¹¹¹ L小学校教員へのインタビューによる（2019年10月18日実施）。

¹¹² 6月は保護者・地域住民に鑑賞を可能とした学校はなかった。9～11月でオーディエンスを設けた学校（G、H、K～P小学校）においてアンケート調査をした。

素晴らしかった」等の意見が目立った。また、「子どもたちも前のめりになって真剣に聴いていた」など、子どもたちに関しても前向きな意見が聞けた（表 22-2）。消極的な意見は「長い曲だと子どもたちが飽きてしまうと思うので、有名な短い曲が多いと良い」の 1 つのみであり、立場上の違いからか、教員と比べてクラシック音楽に対する感じ方の違いが見られた¹¹³。

感想をプログラムの形態別で見ると、③「9・11 月の学校公演」は、「生のオーケストラの演奏が間近で聴け、貴重な機会だった」、「素晴らしい演奏だった」、「監督の説明がわかりやすかった」等が積極的な意見としてあったのに対し、「長い曲だと子どもたちが飽きてしまうと思うので、有名な短い曲が多いと良い」という消極的な意見があった。ただし、消極的な意見はこの 1 つのみであった。

④「10 月の学校公演 A」は、「オーケストラを生で聴くことはなかなかできないので、貴重な時間となった」、「身近で楽しめて良かった」、「指揮者も演奏者もからだ全体で音を作り、真剣な顔だったり表情が豊かだったりでとても素晴らしかった」等の積極的な意見があり、消極的な意見は一つもなかった。

一方、②「9 月の未就学児コンサート」においては、未就学児が対象だったためか、楽器紹介が良かったと回答する保護者が極めて多かった。その他の選択式回答としては、「今後も子どもにクラシック音楽を聴かせたい」、「また行きたい」という回答が多く、全体的に前向きな傾向があった。この理由として、学校公演と異なり、保護者が子どもにクラシック音楽を聴かせたいという家族がコンサートに来場したことが挙げられる。感想に関しては、「曲目に関係なく赤ちゃんと一緒に聴ける機会があって良い」等の積極的な意見が多かった傍ら、「子どもが好きな曲があってもほしい」等の消極的な意見もあった。子どもたちの感想においても消極的なものは一部あったが、保護者が書いていることから、子どもたちが本当に感じたり話したりしたことなのかは定かではない（表 23）。

これらから、③「9・11 月の学校公演」で解説等にも重点を置くプログラムだと、説明がわかりやすかったという意見が多く、④「10 月の学校公演 A」のように交響曲を取り入れると、指揮者や演奏者の真剣な表情が伝わったという特有な意見があることがわかった。保護者・地域住民の意見の傾向としては、学校公演は消極的な意見がほぼなかったが、未就学児コンサートのほうは、子どもの好きそうな曲も演奏してほしい等、子どものことを考えての意見が散見された。このことから、立場によって意見が異なる傾向があることが想定される。

4.3.4 楽団員へのインタビュー

シンフォニエッタ静岡楽団長・オーボエ奏者の植田明美氏、副楽団長・ホルン奏者の月原義行氏、首席コンサートマスター松本亜土氏へ演奏時間や曲目についてインタビューを実施した。教員は「集中して聴くことができない」ということを理由に短い曲目をオーケストラに求めるこ

¹¹³ 学校公演における消極的な意見は、教員は 155 人中 21 人で 13.5%であるのに対し、保護者・地域住民は 292 人中 1 人で 0.3%であった。

とが多いそうだが、演奏家においても、常に交響曲の全てを集中して聴くということはほとんどないとの意見があった。また、教員の言う「集中して聴く」ということの定義が不明だという。楽曲の構成、例えばソナタ形式であれば、その細かな構成や調の移り変わりを全て理解しながら聴くことが集中なのか、隣の人と話をしたりすることなく、作品から受ける想像を膨らませつつも黙って作品を最初から最後まで聴くことが「集中して聴く」ということなのか、意味がはっきりしていないという¹¹⁴。

もう一点、曲目について、学校の教員は音楽の授業を基準に曲の要望を出す。音楽の授業ではクラシック音楽だけでなく様々なジャンルの音楽を取り扱い、教科書には有名な曲や短い曲が掲載されている¹¹⁵。そのため、交響曲等はまだ子どもたちには難しいと感じてしまい、有名でわかりやすい曲を求め、さらには子どもたちが飽きてしまわないように親しみやすいアニメや映画音楽等も演奏してほしいと言うことがある¹¹⁶。しかし、一般的なオーケストラの演奏会ではクラシック音楽しか演奏しないため、アニメや映画音楽をわざわざオーケストラが演奏することに疑問を持っているという。また、演奏会全体の時間は同じだとしても、短い作品を多く演奏する場合と交響曲などを全楽章演奏する場合とでは演奏家の集中の仕方が違うという。例えば、ベートーヴェンの交響曲第 5 番《運命》を第 1 楽章だけ演奏するよりも、全楽章を演奏する際の第 1 楽章のほうがエネルギーと集中力を使っている。同様に、ドヴォルザークの交響曲第 9 番《新世界より》の第 4 楽章だけを演奏するよりも全楽章を演奏する時の第 4 楽章のほうが、感動的な演奏になると証言している¹¹⁷。

このように、「交響曲は自然とオーケストラの楽団員が真剣な表情になる。したがって、どのような作品でも良いというわけではなく、当然オーケストラによる選曲も重要となる」ということがこのインタビュー調査から明らかになった。このことは、筆者の参与観察においても同様であった¹¹⁸。

4.3.5 学校からの依頼公演の曲目との比較

この節では、4.2.1 で述べたシンフォニエッタ静岡の教育プログラムにおける、⑦「10 月の学校依頼公演」の効果を検証する。2019 年 10 月 16 日に実施された静岡市の Q 小学校、R 小学

¹¹⁴ シンフォニエッタ静岡楽団長・オーボエ奏者植田明美氏へのインタビューによる（2019 年 10 月 8 日実施）。

¹¹⁵ 例えば、平成 27 年度から使用されている小学 3 年生対象の「小学生の音楽 3」（教育芸術社）の掲載曲は、「エーデルワイス」（リチャード・ロジャーズ作曲）や「よろこびの歌」（ベートーヴェン作曲交響曲 9 番第 4 楽章）等である。

¹¹⁶ L 小学校校長へのインタビューによる（2019 年 10 月 18 日実施）。実際、シンフォニエッタ静岡の県主催事業でも学校によってはこのような要望があった。

¹¹⁷ シンフォニエッタ静岡副団長・ホルン奏者月原義行氏、首席コンサートマスター松本亜土氏へのインタビューによる（2019 年 11 月 16 日実施）。また、実際、交響曲に子どもたちが関心を持って聴いている姿もみられるという。このことは他のオーケストラの指揮者なども同様な意見を述べている。

¹¹⁸ また、このことにより交響曲でしか味わえない迫力になるのか、アンケート調査でも子どもたちからこれらが伝わっているような回答があった。例えば、演奏の迫力についての感想は、6 月は 1.2%であったのに対し、交響曲を全楽章演奏した 9・11 月は 7.3%、10 月は 6.3%だった。

校、S小学校からの依頼公演では、アニメや映画音楽を中心とした60分間のプログラムが行われ、ここでもアンケート調査を実施した¹¹⁹。この公演は学校から「子どもたちが知っている曲でお願いします」との要望を受け、実施された¹²⁰。この学校からの依頼公演のプログラム(⑦「10月の学校依頼公演」と静岡県主催の事業で実施しているクラシック音楽が中心の①～⑥のプログラムとで、子どもたちの楽曲への興味がどう違うのか、アンケート調査の結果から比較する。

まず、「音楽の授業の好き嫌い」、「コンサートを聴く前のクラシック音楽の好き嫌い」、「コンサートを聴いた後のクラシック音楽の好き嫌い」、「クラシック音楽¹²¹を今後聴きたいか」の4つの質問を、公演形態別にどのように変化したかについて見ていきたい。

音楽の授業への関心については、「好き」が56.2%、「きらい」・「むずかしい」が9.4%であった。コンサートを聴く前の音楽への関心については、「好き」・「まあ好き」が53.8%、「あまり好きではない」・「きらい」が8.5%であった。コンサートを聴いた後の音楽への関心の変化については、「もっとすきになった」・「すきになった」が77.0%、「きらいになった」・「もっときらいになった」が1.6%あった。今後の音楽の鑑賞については、「毎日ききたい」・「時々ききたい」が65.9%、「あまりききたくない」・「ききたくない」が3.7%であった(表26)。

この⑦の結果と①～⑥の公演形態を比較してみると、コンサートを聴いた後の音楽について、「もっとすきになった」・「すきになった」の⑦の割合(77.0%)は①～⑥(77.6%)¹²²とほぼ変わらず、「きらいになった」・「もっときらいになった」の割合は⑦が1.6%で①～⑥はすべて1%未満であったため、⑦が最も大きかった。今後の音楽の鑑賞については、「毎日ききたい」・「時々ききたい」の⑦の割合(65.9%)は①～⑥(63.9%)とほぼ同じ割合であった。「あまりききたくない」・「ききたくない」に関しては⑦が3.7%で、①～⑥で最も割合が大きかった①(3.1%)より大きいことがわかった。よって、全体的に、⑦と①～⑥はほぼ同じ効果であり、⑦のほうが消極的な割合がやや大きい程度であることが明らかになった。

音楽の授業については、「きらい」と答えた子どもたちは音楽の関心は、コンサートを聴く前は「すき」・「まあすき」が15.8%であったのに対し、コンサートを聴いた後は26.3%であった。

「むずかしい」と答えた子どもに関しては、コンサートを聴く前は音楽への興味は「すき」・「まあすき」が32.0%、コンサートを聴いた後は「もっとすきになった」・「すきになった」が52.0%であった(表27)。

低学年と高学年にわけて見ると、コンサートを聴く前に音楽について「すき」と答えた子ども

¹¹⁹ この学校依頼公演についての日程等は表24、曲目に関しては表25に記載。公演の様子については図25、図26を参照されたい。

¹²⁰ シンフォニエック静岡芸術監督・指揮者の中原朋哉氏へのインタビューによる(2019年10月16日実施)。ある程度学校からの要望を聞き、自分たちの経験も含めてオーケストラ側で選曲を行っているという。また県主催事業より金銭面でも厳しいこともあり、小編成で実施している。

¹²¹ 県主催事業と同じアンケート用紙を使用したため、質問項目では「クラシック音楽」となっているが、この節で述べる学校からの依頼公演では「アニメや映画音楽」が中心であったため、子どもたちは「クラシック音楽」への関心について答えている可能性は低く、演奏された「アニメや映画音楽」について回答していると思われる。そのため、以下の文章は「クラシック音楽」ではなく「音楽」として進めていく。

¹²² ①、③、④～⑥の割合の平均値。以下同じ方法で割合を算出している。

たちは、低学年は 45.2%、高学年は 23.4%であったが、コンサートを聴いた後は、「もっと好きになった」と答えた子どもたちは、低学年は 52.6%、高学年は 31.8%であった。今後の鑑賞についても、「毎日ききたい」という回答は、低学年は 43.0%、高学年は 18.2%と、いずれも高学年より低学年のほうが高いことがわかった（表 27）。

この⑦の結果と①～⑥の公演形態を比較してみると、音楽の授業がきらいな子どもと低学年に関しては⑦のほうが音楽への関心の変化の割合がやや大きい¹²³、それ以外の項目は①～⑥とあまり変わらず、全体的にはほぼ同じ割合であることが明らかになった。

教員と保護者・地域住民の選択式の回答では、教員の「クラシックに興味を持つ子どもたちが増えた」という回答は 78.3%、「今後もこのような鑑賞教室が必要」という回答は 95.7%であった。また、保護者・地域住民の「また行きたい」という回答は 100%であり、いずれも満足度が高いことがわかる。

次に、感想に関しては、子どもたちは「いい音色だったから」、「いろいろな音がよかったから」、「迫力があったから」が積極的な意見の上位であった一方、「興味がないから」、「クラシックは知らない曲が多いので、聞いていてもあまり楽しくないから」が消極的な意見として目立った。教員は、「子どもたちがとても楽しそうだった」、「本物の音楽に親しむ良い時間になった」、「子どもたちが知っている曲を演奏してもらい、盛り上がった」が主な積極的な意見としてあったのに対し、「知っている曲を多めにしてほしい」という消極的な意見もあった。ただし、消極的な意見はこの 1 つのみであった。保護者・地域住民は、「とても楽しかった」、「とてもいい音だった」等の積極的な意見があり、消極的な意見は一つもなかった（表 28、表 29）。

口頭では、『トトロ』が良かったなどの声を何人かの子どもから聞いた。有名な曲をたくさん演奏すると、自分が知っている曲目、例えばアニメのテーマ曲や校歌といったものだけが印象に残りやすいという傾向にあるように考えられる¹²⁴。

これらのことから、クラシック音楽を中心に実施している県主催事業の学校公演（公演形態①～⑥）と本節で取り上げた学校からの依頼公演（⑦「10月の学校依頼公演」）のアンケート結果を比較したところ、子どもたちに関しては、どの項目においても目立った違いがなく、どちらもほぼ同じ反応であったことがわかった。感想においては、「有名な曲があって良かった」という意見はごく少数であった。教員や保護者は県主催事業の学校公演同様、全体的に積極的な割合が高かったが¹²⁵、教員の感想においては、4.3.2 でまとめた県主催事業の学校公演での教員の意見より消極的な意見が少なく、有名な曲が多かったこと等に対して満足していることがわかった

¹²³ 音楽の授業がきらいな子どもの（クラシック）音楽への関心の変化は、①～⑥は 5.6%上がったのに対し、⑦は 10.5%であった。低学年の（クラシック）音楽への関心の変化は、①～⑥は 0.3%上がったのに対し、⑦は 7.4%であった。ただし、⑦に関してはクラシック音楽ではなくアニメや映画音楽が好きになった子どもが多い可能性がある。

¹²⁴ 筆者の参与観察による。

¹²⁵ 選択式の回答では、教員の「クラシックに興味を持つ子どもたちが増えた」という回答は、①～⑥は 69.5%に対し、⑦は 78.3%であった。同じく教員の「今後もこのような鑑賞教室が必要」という回答は、①～⑥は 94.7%に対し、⑦は 95.7%であった。また、保護者の「また行きたい」という回答は、①～⑥は 95.6%、⑦は 100%であり、いずれも高い割合を示した。

126。

以上を整理すると、参与観察やインタビューからは、アニメや映画音楽のほうがクラシック音楽中心のプログラムより盛り上がり、トトロやコナンが良かったという声を聞くため、一見①～⑥より⑦のほうが子どもたちは興味を持っていると思われる。しかし、アンケートからは、①～⑥と⑦とでは子どもたちの意見に大した差はなかったことから、興味の差もそれほど生じていないのではないかと考えられる。消極的な意見は、子どもたちは①～⑥のクラシック音楽中心のプログラムとほぼ同じ割合であったが¹²⁷、教員は①～⑥に比べて少ないことがわかったことから、子どもたちより教員のほうが⑦「10月の学校依頼公演」への満足度が高いことがわかる。

4.3.6 まとめ

これらのアンケート調査、インタビュー調査、参与観察を通して、県主催事業（公演形態①～⑥）と前節の依頼公演（公演形態⑦）との比較においては、クラシック音楽だけでなくアニメや映画音楽等色々な曲目を鑑賞する場合であれば、『コナン』が良かった、『トトロ』が良かったということになるが、交響曲が全楽章あるとアニメや映画音楽の印象が薄まることがわかった¹²⁸。

全体的には、どの公演も積極的な意見が大半であったが、交響曲を全楽章演奏することに関して、教員は本物を聴くことが大事だということを認識しつつも、「長い」という回答が散見された¹²⁹。一方で子どもたちから「長い」と回答するものも多少はあったものの、教員ほどではなく、全体的に集中して静かに聴いている様子だった。このことから、子どもたちと教員との感じ方にギャップが見られる¹³⁰。

特に、小規模校においては子どもからの「長い」という回答は極めて少なく、生でオーケストラを鑑賞すること自体初めてである子どもが多かった。特に小規模校であったC小学校、H小学校、K小学校の子どもたちにおいては、消極的な意見が1つもなかった。さらに、高学年よりも低学年のほうが、コンサートを聴く前と聴いた後でのクラシック音楽への興味の変化が大きいこともわかった。よって、曲が長いという負の先入観のない初めて聴く子どもたちに、はじめから交響曲全楽章といった本格的なクラシック音楽を聴かせることの意義があると考えられる。

また、「有名な曲を取り入れてほしい」という意見は教員だけでなく、保護者にも見られた。ただし保護者は、学校公演と未就学児コンサートそれぞれにおいて、意見の傾向が若干異なるこ

¹²⁶ 教員の消極的な感想（記述式）は、①は 8.8%、③は 10.8%、④～⑥は 9.1%であるのに対し、⑦は 2.4%である。

¹²⁷ 子どもの消極的な感想（記述式）は、①は 3.9%、③は 0.0%、④～⑥は 3.4%であるのに対し、⑦は 3.6%である。

¹²⁸ 4.3.1 で述べたように、10月の学校公演のBプログラムについては、「となりのトトロより『さんぽ』を演奏した学校のアンケートにおいて、『さんぽ』がよかった」という意見は一つもなく、「有名な曲があってよかった」等という意見もほぼ見られなかった。

¹²⁹ アンケート結果から得られた交響曲等が「長い」という意見に関しては、すべて記述式回答からである。

¹³⁰ 「長い」と答えた人に関して、6月の公演では、子どもたちは 0.4%であったのに対し、教員は 3.3%であった。9・11月は子どもたちは一人もいなかったのに対し、教員は 3.6%、10月は、子どもたちは 0.8%であったのに対し、教員は 6.3%であったことがわかった。

とがわかった。学校公演は大人も普段クラシック音楽に触れる機会の少ない中山間地域の学校での開催であったことから、消極的な意見はほぼなく、子どもたちとほぼ同じ傾向であったと考えられる。未就学児コンサートでは、おそらく未就学ということもあり、積極的な意見だけでなく要望等の意見も多少見られた。このことから、教員や未就学児コンサートでの保護者がこのような意見を述べることについて、子どもたちのことを考えての立場上の問題と、教育プログラムはアニメや映画音楽等を基本的に行うものであるという先入観を持っている可能性が考えられる。

曲目以外については、まず10月4、18日に行われたワークショップにおいて、事前事後とも子どもたちが楽しんで参加している様子が見られた。事前ワークショップは文化庁や群響が実施しているが、シンフォニエッタ静岡では事後にもワークショップを実施したことで、公演内容を子どもたちが覚えていたという反応や効果が参与観察からわかった。また、解説がわかりやすかった、解説があったことによってクラシック音楽への理解が高まったという意見も一定数見られた。このことから、ワークショップが実施できればそれが子どもたちをクラシック音楽へ関心付けるには最も良いが、予算の関係や学校側の時間の確保などの都合によりできない場合、コンサートの中におけるファシリテーターの話す内容や話し方が鍵を握る。したがって、オーケストラは交響曲等をただ演奏するだけでなく、話やワークショップを取り入れることによってさらに子どもたちのクラシック音楽への理解が増すことが考えられる。

その他に、体育館の音響が良い学校では、子どもたちの反応が他校と比べ良かったことや、演奏家が一生懸命に演奏している姿が良かったなどの意見が多かった。よって、演奏する環境や演奏者の表情についても大事な要素であることがアンケートを通じて明らかになった。

第5章 結論

本研究におけるアンケート調査、インタビュー調査、参与観察を通じて、シンフォニエッタ静岡の音楽教育プログラムにはいくつかの効果があることがわかった。

まず、「選曲による効果」である。これまでに他団体が実施してきた教育プログラムにおいて、クラシック音楽ばかり演奏するより、アニメや映画音楽、指揮者体験コーナーを中心としたプログラムのほうが子どもたちはクラシック音楽に興味を持つと言われてきた。しかし、本研究において、定期演奏会のようなクラシック音楽を中心とした公演（公演形態①～⑥）を鑑賞した子どもたちは既存のアニメや映画音楽等の有名な曲や参加型が中心の公演（公演形態⑦）と同様に興味を持ったことが明らかになった。

4.3.6において述べたように、全体的にどの公演も子ども、教員、保護者・地域住民からは「きれいな音色だった」、「オーケストラやクラシック音楽に興味を持った子どもたちが増えた」、「生のオーケストラの演奏が間近で聴け、貴重な機会だった」等、積極的な意見が大半であった。また、子どもたちは、交響曲を全楽章演奏しても静かに集中して聴いていたりと、音楽に乗って身体を揺らしたりしながら聴いている姿が見られた。アンケートからも、「今日の演奏を聴いてクラシック音楽というものがわかり、好きになった」等の積極的な意見が大半であり、今後も聴きたいという子どもも多かったことから、交響曲を全楽章演奏する等といったクラシック音楽中心のプログラムは意義があるといえる。

このことは、他のオーケストラ関係者の意見からもわかる。例えば、山形交響楽団の学校公演においては、ベートーヴェンの交響曲の反応が良かったという事例がある¹³¹。さらには、指揮者の下野竜也は、東京交響楽団のこども定期演奏会でのインタビューにおいて、「子どもにはわからないと決めつけない。わかるかわからないかを決めるのは子どもですから。2014年のこども定期演奏会でウェーバーンの（無調性の）作品を演奏しましたが、子どもたちの反応は悪くなかったですよ」と答えている¹³²。また、交響曲を何歳から聴かせるべきかという規定はなく、鑑賞する音楽作品と自分とのあいだに、身体や精神を通して、つながりが持てるかどうかが重要であるという意見もある（久保田 2017, pp.105-107）¹³³。

¹³¹ 山形交響楽団名誉指揮者村川千秋氏へのインタビューによる（2019年7月17日実施）。

¹³² 東京交響楽団とサントリーホールとの共催公演である「こども定期演奏会」は、子どもたちが定期的にコンサートホールに行く習慣を身につけ、生活の中にクラシック音楽を取り入れてもらいたいという願いを込めた、日本で初めてのこどものためのオーケストラ定期演奏会である。「子どもを過度に“子ども扱い”しない」をコンセプトに、2002年からサントリーホールを会場に毎年4回本格的なクラシックコンサートを行っている（東京交響楽団&サントリーホール「こども定期演奏会」公式ホームページによる）。楽団員によると、時間は90分であるが、静かに聴いている子どもが多いという（2019年7月6日に実施した元東京交響楽団楽団員の池田肇氏へのインタビュー調査による）。こども定期演奏会は小学校高学年向けであり、低学年には難しいという保護者のアンケートも散見されるが、大体は満足して帰る客が多く、2019年からは開催曜日を土曜から日曜に変更したことからチケットが完売したという。また、年4回実施することで、1回目は会場内で落ち着きのない子どもも一定数いるが4回目はほぼ大人しく集中して聴いている様子が感じられることから、複数回行うことで変化が見られることがわかった（2019年11月10日に実施したサントリーホール企画制作部菅原修平氏へのインタビューによる）。

¹³³ この鑑賞の仕方については、久保田の最新の著書にも詳しく書かれている。久保田（2019）は、新しい音楽鑑賞について、ファシリテーターが鑑賞者に楽曲との「個人的に大切なつながり」を発見してもらい、そこから楽

次に、「楽曲と関連付けたワークショップの効果」がある。ワークショップを実施していない学年と比べ、ワークショップを実施した学年の子どもたちは静かに演奏を聴いたり体を揺らしてリズムをとったりしており、アンケートにおいても消極的な意見がなかった。また、楽曲への理解が深まった様子であったことから、文化庁巡回公演で見られるような、合同演奏のための準備となるワークショップといった内容のものよりも、実際に鑑賞する楽曲と関連付けたワークショップには効果があるといえる。さらに、公演前だけではなく、公演後にもワークショップを実施するため、この効果は更に高まるといえる。

また、「解説による効果」がある。このことは、アンケート調査において「解説がわかりやすかった」という声が一定数あったことや前述した事前や事後のワークショップでオーケストラの楽曲等への理解がより深まったということからいえる。そのほかにも、音楽の授業が「むずかしい」と答えた子どもたちの多くがオーケストラのコンサートに興味を持つ傾向があったことも、解説がわかりやすかったことが要因の一つとして考えられる。

以上のように、シンフォニエッタ静岡が取り組んだ新たな音楽教育プログラムには、「選曲の効果」、「楽曲との関連性があるワークショップの効果」、「解説による効果」の3つの効果があることが明らかとなった。

このことから、わかりやすい解説（③や演奏家自らによるワークショップを伴った⑥）、交響曲を全楽章演奏するという構成によるシンフォニエッタ静岡のような音楽教育プログラムを、より多くの子どもたちが幼いうちから体験することによって、子どもたちへの教育的効果はより高まると結論付けられる。

国や自治体が主体となるオーケストラの学校公演事業は、子どもたちがオーケストラの演奏によってクラシック音楽に親しむことを主な目的とした政策である。しかし、その背景には、オーケストラの将来の鑑賞者を増やす、運営の自立を促すという目的も含まれており、事業そのものが重要な収入源になっている団体もある。本研究において、定期演奏会と同様の音楽教育プログラムにも有効性があると明らかとなった。

勿論オーケストラがアニメや映画音楽等のプログラムを実施することはオーケストラの大事な収入源にもなるため、継続する必要はあるだろう。ただ、それだけでなくオーケストラの本来の役割である定期演奏会の鑑賞者が増えないことにはオーケストラとして活動する意義が問われる。そのため、今後は既存の音楽教育プログラムだけでなく、交響曲をはじめとするクラシック音楽を中心とした音楽教育プログラムも展開され、クラシック音楽に興味を持つ子どもたちが増えることを期待したい。

曲への入り口である「エントリー・ポイント」を見つけ、実際に楽曲を体験するアクティビティを行うことによって、人を自らの奥深いスピリチュアルな世界へ導くと説明している（久保田 2019, pp.24-30）。鑑賞者については、「いい音楽を聴いた」、「音楽を聴いて良かった」と思えるときには、その人は「主体的・対話的な深い学び」を体験しているという（久保田 2019, p.70）。クラシック音楽の曲と関連させて、この「主体的・対話的な深い学び」を味わうための引き出しをつくるのがクラシック音楽ファンを作る上でも重要になると推察される。

おわりに

「クラシック音楽はリッチな人たち向けなの？」子どもも大人も、誰もがこの質問をしてくる。たしかに、クラシック音楽はその歴史を通して、後援者すなわちパトロンからの資金提供や援助に依存してきた。音楽家たちは常に豊かな人々を頼り、彼らもまた自分たちだけのための音楽をいつでも聴けるという特権を享受してきた。しかし、音楽それ自体は基本的には階級など関係ないものである。

クラシック音楽をプロとして作曲したり演奏したりするには、音楽大学で何年も学ぶ必要があり、その授業料を払えるのはやはり豊かな人でないとできない（マローン 2013, pp.43-44, p.48）。しかしながら、クラシック音楽を好む層の傾向は、所得よりも教育にあると言われている。ボウモル・ボウエンの研究では、実演芸術の観客の構成は、教育水準の高いグループがより強く現れるということが示された（スロスビー2014, p.216）。実際のところ、価格が安いからといって、興味がないことには劇場に足を運ぶなどして芸術を鑑賞しようとは思わないであろう。

何かを聴くということは個人的な営みであるため、クラシック音楽も、また他の種類のいかなる音楽も、聴く上での唯一の正しい方法はない。とは言っても、少しの知識で理解がより増すだけでなく、コンサートの後に話をすることもできる（マローン 2013, p.87）。これらのことから、クラシック音楽を誰でも気軽に自由に楽しめる柔軟な音楽教育が必要であることがわかる。

本研究において、曲目以外にも教育的スキルの持ち主の必要性について述べてきたが、関西フィルハーモニー管弦楽団では、教育プログラムを楽団員と一体になり漲る情熱で懸命に取り組む指揮者に任せることによって、学校鑑賞会等で絶大な力を上げており、定期公演の入場率が格段と上がったという事例がある（木杵舎 2011, p.54, p.56）。この事例は指揮者であるが、指揮者だけでなく楽団員等も、時間の確保が難しい中でも徐々にそのようなスキルを身につける必要性は大いにあるといえるだろう。

本研究では、アンケート調査において、学校や文化施設で子どもたち、教員、保護者・地域住民から約 3,500 の回答を得ることができた。この量は本研究において最も貴重なデータとなったに違いない。しかし、教育のために音楽の授業を行う場である学校という機関において、子どもたちへクラシック音楽の好き嫌いについて尋ねることは適切であったと言い難い。学校側としては子どもたちにクラシック音楽を好きになってほしいと必ずしも願っているわけではないことから、本調査の課題がここに見える。教育についてより深く考えることは、今後の研究課題としたい。

筆者はこれまでオーケストラをはじめ音楽に携わり、多くの音楽関係者にお世話になってきた。このことから、何かオーケストラのために役に立つことを論文として形にしたいと思い、アートマネジメントを学ぶことのできる大学院への進学を決めた。現場で活躍されている音楽関係者の方々に失礼になるような、オーケストラの実態とかけ離れた論文だけは書きたくないという思いで、この2年間研究をしてきた。

音楽に限らず、芸術の種類は多様であることから、全ての子どもたちがクラシック音楽だけを鑑賞すればよいということではない。しかしながら、数多くの芸術分野の 1 つとしてクラシック音楽に親しむ意義はある。本研究がその一助になれば幸いである。

謝辞

修士論文を執筆するにあたり、多くの方々からご指導、ご協力を賜りました。お世話になったすべての方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

この修士論文の指導をお引き受けくださった、主指導の下澤嶽先生と、副指導の加藤裕治先生には、深く感謝申し上げます。お二人のご指導から毎回多くの学びがありました。

また、時折相談に乗っていただき添削もしてくださった田中啓先生、上山典子先生、京都橘大学大学院文化政策学研究科教授の阪本崇先生、調査にご協力くださった全ての皆様にも感謝申し上げます。

そして、シンフォニエッタ静岡の方々には大変お世話になりました。6 月、9～11 月にわたり多くの教育プログラムに同行させていただき、子どもたちが鑑賞する様子を見させていただいたり 3,000 人以上の人々からアンケートを取らせていただいたりすることができたのは、シンフォニエッタ静岡の皆様のおかげです。シンフォニエッタ静岡の芸術監督・指揮者、そして大学院の先輩でもある中原朋哉様には研究についても助言をしていただきました。中原様との出会いがなければ、このような論文は書けなかったと思います。心から感謝申し上げます。

【調査にご協力下さった皆様】（いずれも調査当時の部署、役職）

池田肇様（公益財団法人東京交響楽団元オーボエ奏者）

植田明美様（一般社団法人シンフォニエッタ静岡楽団長・オーボエ奏者）

加藤恵子様（認定 NPO 法人中部フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリニスト）

菅原修平様（サントリーホール企画制作部）

月原義行様（一般社団法人シンフォニエッタ静岡副楽団長・ホルン奏者）

永島茜様（武庫川女子大学准教授）

中原朋哉様（一般社団法人シンフォニエッタ静岡芸術監督・指揮者）

松本亜土様（一般社団法人シンフォニエッタ静岡首席コンサートマスター）

村川千秋様（公益社団法人山形交響楽団名誉指揮者）

柳澤藍様（DUMISTE）

若狭直人様（公益財団法人千葉交響楽団チェロ奏者）

L 小学校学校長、教員の皆様

M 中学校教員、生徒の皆様

参考文献

(1) 書籍・雑誌・論文等

- Kurabayashi, Yoshimasa & Matsuda, Yoshiro (1988) “*Economic and Social Aspects of the Performing Arts in Japan: Symphony orchestras and Opera*” Kinokuniya
- 赤木舞 (2014) 「音楽分野の教育プログラムに関する一考察—文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」を中心に—」『音楽芸術マネジメント』6号、pp.87-92.
- 新井賢治 (2016) 「日本のオーケストラの課題と社会的役割 — 東京におけるプロ・オーケストラの状況を中心に —」『立法と調査』第383号、pp.73-88.
- 大木裕子 (2008) 『オーケストラの経営学』東洋経済新報社
- 大友直人、津上智実、有田栄 (2015) 『わからない音楽なんてない！子どものためのコンサートを考える』アルテスパブリッシング
- 小山文加 (2009) 「オーケストラ史にみる聴衆と芸術普及活動の変遷—歴史的背景から導かれる現代のエデュケーション・プログラムの機能とは—」『文化経済学』6巻3号、pp.159-170.
- 音楽文化創造 (2005) 「フランスにおける「学校参与音楽家」—音楽普及の面からの位置づけ—」『季刊音楽文化の創造』vol.36、pp.70-72.
- 垣内恵美子 (2016) 「オーケストラファン創出におけるアウトリーチ活動の効果～群馬交響楽団の定期会員調査から～」『計画行政』40(2)、pp.45-55.
- 片岡栄美 (1998) 「音楽愛好者の特徴と音楽ジャンルの親近性—音楽の好みと学歴・職業」『関東学院大学人文科学研究所報』22巻、pp.147-162.
- ギャレス・マローン著、栗田知宏訳『クラシック音楽のチカラ ギャレス先生の特別授業』青土社
- 久保田慶一 (2017) 『2018年問題とこれからの音楽教育～激動の転換期をどう乗り越えるか？～』ヤマハミュージックメディア
- 久保田慶一 (2019) 『新しい音楽鑑賞：知識から体験へ』水曜社
- 群響50年史編纂委員会編 (1997) 『群馬交響楽団50年史』群馬交響楽団
- デイヴィッド・スロスビー著、後藤和子／阪本崇監訳 (2014) 『文化政策の経済学』ミネルヴァ書房
- 友岡邦之 (2004) 「芸術と日常の再接続—群馬県高崎市での文化政策における試み」『文化経済学』4巻2号、pp.87-89.
- 中原朋哉 (2017) 『日本のオーケストラに関する公的支援制度の研究：ハイブリッド型支援制度の可能性』修士論文、静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科
- 西島央 (2003) 「誰がクラシックコンサートに行くのか —東京・新潟・鹿児島のコンサート会場におけるアンケート調査をもとに—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第43巻
- 日本センチュリー交響楽団 (2018) 『日本センチュリー交響楽団&ブリティッシュ・カウンシル コミュニティプログラム お茶の間オーケストラ 2017 ドキュメントブック 高齢者と奏でる音楽』公益財団法人日本センチュリー交響楽団
- ブルデュー著、石井洋二訳 (1990) 『ディスタンクシオン—社会的判断力批判—』藤原書店

ボウモル・ボウエン著、池上惇・渡辺守章監訳（1994）『舞台芸術：芸術と経済のジレンマ』芸団協出版部
松川太一（2001）「だれがクラシックコンサートへ行くのかー文化資本と社会関係資本の効果にかんする
計量分析ー」『吹田市民のコミュニティ・ネットワークに関する調査報告書』第3章、大阪大学大学院人
間科学研究科社会環境学講座先進経験社会学研究分野
木杵舎（2010）『クラシック音楽マネジメント ～音楽の感動を届ける仕事～』ヤマハミュージックメディア
柳澤藍、森勇、永島茜（2019）「フランスの音楽家に求められる資質と能力ーDUMISTE のカリキュラム及
び養成内容の実例からー」『学校教育センター年報』第4号、武庫川女子大学学校教育センター、pp.23-
36.
山岸淳子（2009）『日本フィルハーモニー交響楽団の「夏休みコンサート」35周年（A）』静岡文化芸術大
学
山響40年史編集委員会編（2012）『山形交響楽団40年史：無から有へ』山形交響楽協会

（2）行政資料・報告書等

朝日新聞山形版「山響、学校訪問演奏を見直し 複数校、合同開催に / 山形県」 2015年2月13日朝刊
地方1面 p.23
九州大学 QR プログラムつばさプロジェクト（2017）『次世代に向けた地域オーケストラの社会・文化的役
割とマネジメントの提言』
日本演奏連盟（1990ー2018）『演奏年鑑』公益社団法人日本演奏連盟
日本オーケストラ連盟（2019）『子どものためのオーケストラ“魔法”を届けるーオーケストラ体験の影響力
ー』公益社団法人日本オーケストラ連盟
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング（2015）『平成26年度 文化芸術による子供の育成事業（巡回公
演事業）検証事業』文化庁

（3）ウェブページ 最終閲覧 2019年12月23日

一般財団法人こまき市民文化財団 <https://www.komaki-bunka.or.jp/>
軽井沢総合研究所ーエロイズカフェ <http://www.eloise-cunningham.jp/project>
教育芸術社 『平成27年度 小学生の音楽3 掲載曲』
https://www.kyogei.co.jp/textbook/es/es-h27_3.html
クラシック音楽情報誌ぶらあぼ 『「オーケストラがやって来た」が帰って来た！』
<https://ebravo.jp/archives/5545>
群馬交響楽団 <http://www.gunkyo.com/>
群馬交響楽団 『平成29年度事業報告書』
<http://www.gunkyo.com/hp/wp-content/uploads/2015/08/h29jigyohouhoukoku.pdf>
藝大フィルハーモニア管弦楽団 <https://geidai-philharmonia.tumblr.com/>
サントリー 『東京交響楽団&サントリーホール「こども定期演奏会」2019年シーズン「音楽レシピ〜音

楽は何でできている？」』

https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/feature/kodomo2019_03/#interview

静岡文化芸術大学自治体文化財団マネジメント講座 <https://www.suac.ac.jp/researchcenter/foundation/>

人事院 『国家公務員の初任給の変遷（行政職俸給表(一)）

https://www.jinji.go.jp/kyuuyo/kou/starting_salary.pdf

シンフォニエッタ 静岡 <http://www1.odn.ne.jp/ssj/>

千葉交響楽団 <https://chibakyo.jp/>

中部フィルハーモニー交響楽団 <http://chubu-phil.com/>

東京交響楽団&サントリーホール 『こども定期演奏会』 <http://www.codomoteiki.net/>

名古屋フィルハーモニー交響楽団 <https://www.nagoya-phil.or.jp/>

日本オーケストラ連盟 <https://www.orchestra.or.jp/>

日本センチュリー交響楽団 <http://www.century-orchestra.jp/>

日本フィルハーモニー交響楽団 <https://www.japanphil.or.jp/>

文化庁 『文化芸術による子供育成総合事業』

<http://www.kodomogeijutsu.go.jp/index.html>

文化庁 『平成 30 年度文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）実施計画表』

http://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/shinshin/kodomo/pdf/h30_kaisaiko_ichiran.pdf

ミューザ川崎シンフォニーホール 『オフィシャルブログ「音楽ワークショップ♪ファシリテーション講座」』

<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/blog/?p=5853>

文部科学省 『学校基本調査 学校数・学級数・児童数及び教職員数』（平成 26 年度）

<https://www.e-stat.go.jp/stat->

search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001067507&tclass2=000001067508&tclass3=000001067509&tclass4=000001067512&stat_infid=00027596970 （小学校）

<https://www.e-stat.go.jp/stat->

search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001067507&tclass2=000001067508&tclass3=000001067509&tclass4=000001067513&stat_infid=00027596996 （中学校）

文部科学省 『学校基本調査 学校数・学級数・児童数及び教職員数』（平成 29 年度）

<https://www.e-stat.go.jp/stat->

search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110649&stat_infid=00031656671 （小学校）

<https://www.e-stat.go.jp/stat->

search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110649&stat_infid=00031656671

[0001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110650&stat_infid=000031656697](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=00001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110650&stat_infid=000031656697) (中学校)

[https://www.e-stat.go.jp/stat-](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=00001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110652&tclass5=00001110653&stat_infid=000031656752)

[search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=00](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=00001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110652&tclass5=00001110653&stat_infid=000031656752)

[0001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110652&tclass5=0000](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=00001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110652&tclass5=00001110653&stat_infid=000031656752)

[01110653&stat_infid=000031656752](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=00001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110652&tclass5=00001110653&stat_infid=000031656752) (高等学校)

山形県西置賜郡大字白鷹町立荒砥小学校 <http://arato-es.com/>

山形交響楽団 <http://www.yamakyo.or.jp/>

山形交響楽団平成 30 年度事業報告 http://www.yamakyo.or.jp/pdf/kyoukai_2019_3.pdf

図表

表1 日本のオーケストラの年間公演回数と鑑賞者数の関係性（単位：人）

	公演回数	鑑賞者数	団体数	1公演あたりの鑑賞者数	1団体あたりの鑑賞者数
1989	3,121	3,475,509	21	1,113.59	165,500.43
1990	3,437	3,679,850	23	1,070.66	159,993.48
1991	3,361	3,502,212	23	1,042.01	152,270.09
1992	3,357	3,766,394	23	1,121.95	163,756.26
1993	3,207	3,998,089	23	1,246.68	173,829.96
1994	3,135	3,833,733	23	1,222.88	166,684.04
1995	3,116	3,780,431	23	1,213.23	164,366.57
1996	3,099	3,704,304	25	1,195.32	148,172.16
1997	3,155	3,252,228	25	1,030.82	130,089.12
1998	3,406	3,647,347	27	1,070.86	135,086.93
1999	3,256	3,437,518	27	1,055.75	127,315.48
2000	3,333	3,250,507	28	975.25	116,089.54
2001	3,275	3,165,961	28	966.71	113,070.04
2002	3,165	3,064,634	26	968.29	117,870.54
2003	3,336	3,489,310	26	1,045.96	134,204.23
2004	3,486	3,288,534	30	943.35	109,617.80
2005	3,545	3,361,506	31	948.24	108,435.68
2006	3,589	3,708,824	33	1,033.39	112,388.61
2007	3,465	3,774,451	31	1,089.31	121,756.48
2008	3,858	4,365,165	34	1,131.46	128,387.21
2009	4,131	4,134,086	36	1,000.75	114,875.72
2010	4,167	4,036,305	37	968.64	109,089.32
2011	3,789	3,688,604	37	973.50	99,602.00
2012	4,050	3,851,000	37	950.86	104,081.08
2013	4,357	4,160,405	38	954.88	109,484.34
2014	4,033	4,143,223	38	1,027.33	109,032.18
2015	4,260	4,107,542	38	964.21	108,093.21
2016	4,165	4,102,903	38	985.09	107,971.13
2017	5,084	4,498,614	39	884.86	115,349.08

（演奏年鑑 1990－2018 より筆者作成）

表2 エロイーズ・カニングハムによる「青少年交響楽鑑賞会」（第1回演奏会）の詳細

曲目	日時・料金など
ワーグナー：歌劇「ローエングリン」より第三幕への前奏曲	日時...1939年6月17日（第1回演奏会）
バッハ：アリア（弦楽器合奏）	料金...80銭
バッハ：コラール（金管楽器演奏）	会場...日比谷公会堂
ヤーホフェルト：プレリュード（木管楽器演奏）	観客...都下の男女中等学校生とを始め各国大使 館員家族、アメリカンスクール生徒等
ヨハン・シュトラウス：円舞曲—美しき碧きドナウ	入場者数...約3000名
—休憩（10分）—	
シューベルト：交響曲第8番（未完成）	
指揮＝斎藤秀雄、演奏＝新交響楽団	

（大友、津上、有田 2015 より筆者作成）

表3 山形交響楽団「若人のための音楽鑑賞教室」の詳細

曲目
◆第一年度：1971(昭和46)年(バロック・古典派の音楽)
バッハ／管弦楽組曲第2番より
ヘンデル／水上の音楽より
ハイドン／交響曲第100番「軍隊」より
モーツァルト／交響曲第40番ト短調K.550
指揮＝村川千秋
◆第二年度：1972(昭和47)年(ベートーヴェンの音楽)
ベートーヴェン／「エグモント」序曲
ピアノ協奏曲第3番第1楽章
ヴァイオリン協奏曲第1楽章
交響曲第5番「運命」
指揮＝村川千秋
ヴァイオリン＝久保陽子・安永徹
◆第三年度：1973(昭和48)年(ロマン、近代の音楽)
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲ホ短調より
グリーグ／ピアノ協奏曲より
ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
プロコフィエフ／古典交響曲二長調(交響曲第1番)
指揮＝村川千秋
編成・演奏時間など
編成...45名
演奏時間...90分
対象...高校生、一般
会場...山形市民会館をはじめとした県内各地
料金...1年目は高校生、一般ともに無料
鑑賞した高校の数...1年目：12校、2年目：20校、3年目：16校 (計：県内48校、のべ3万人超)

(山響40年史編集委員会編2012より筆者作成)

表4 山形交響楽団設立の1972(昭和47)年度からの小中学校の音楽教室の詳細

曲目
◆小学校
ヨハン・シュトラウス／美しく青きドナウ
ドヴォルザーク／ユーモレスク(ヴァイオリン)
サン・サーンス／白鳥(チェロ)
ビゼー／組曲「アルルの女より」(フルート)
チャイコフスキー／組曲「白鳥の湖」より(オーボエ)
アンダーソン／トランペットの子守歌(トランペット)
プロコフィエフ／ピーターと狼
指揮＝村川千秋
◆中学校
ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲
サラサーテ／チゴイネルワイゼン(ヴァイオリン)
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲ホ短調より(ヴァイオリン)
バッハ／管弦楽組曲第2番より(フルート)
チャイコフスキー／組曲「白鳥の湖」より(オーボエ)
モーツァルト／ホルン協奏曲(ホルン)
モーツァルト／ファゴット協奏曲(ファゴット)
プロコフィエフ／ピーターと狼
指揮＝村川千秋

実施期間・編成など
実施期間...6～11月
編成...25名(高校は40名)
演奏時間...小学校:60分、中学校:70分
実施校...東北7県202校(1976年、高校は1974年は20校で実施)
鑑賞者数...114,663人(1976年)
演奏回数...160回(1976年)

(山響 40 年史編集委員会編 2012 より筆者作成)

表 5 山形交響楽団「スクールコンサート」の詳細

曲目
テーマ「ワールド・ツアー」
喜歌劇「軽騎兵」序曲 スッペ(オーストリア)
フィドル・ファドル アンダーソン(アメリカ)
交響曲第5番「運命」第1楽章 ベートーベン(ドイツ)
ふるさと 岡野貞一(日本)
ハリーポッターハイライト ウィリアムズ(イギリス)
(山形県西置賜郡大字白鷹町立荒砥小学校、2017年5月22日)
公演時間
小...60分
中...70分
高...90分
(休憩含)
日程
5、6、7、9、10、11月 計43回(2018年度)

(山形交響楽団公式ホームページ「平成 30 年度事業報告」、山形県西置賜郡大字白鷹町立荒砥小学校公式ホームページより筆者作成)

表 6 文化庁巡回公演事業本公演(コンサート)の詳細(2019 年度仙台フィルハーモニー管弦楽団の場合)

曲目
①ビゼー: 歌劇「カルメン」より第1幕への前奏曲
②オーケストラ大解剖! 「オーケストラの楽器たち」(楽器紹介)
③指揮者体験コーナー「君も先生もマエストロ」
(—休憩15分—)
④デンツァ: フニクリ・フニクラ
⑤小学校 ヴェルディ: 歌劇「リゴレット」より 風の中の羽のように(女心の歌)
中学校 ブッチーニ: 歌劇「トゥーランドット」より 誰も寝てはならぬ
⑥合唱共演「オーケストラと一緒に歌おう」
A杉本竜一: ビリーブ
B村井邦彦: 翼をください
C八木澤教司: 明日という日が
D菅野よう子: 花は咲く
E佐藤真: 大地讃頌(三部合唱)
F佐藤真: 大地讃頌(混声四部合唱)
⑦チャイコフスキー: バレエ組曲「くるみ割り人形」より 花のワルツ
⑧アンコール: 開催校校歌
コンサート日程
2019年7月3～5日、9月2～5日、10月8、15～18日、11月25日
計13校(小中学校)

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫
・③指揮者体験コーナー「君も先生もマエストロ」では、児童に2名、そして学校の先生に1名、指揮者を体験してもらう。当方で準備する指揮棒を使って、指揮者からレクチャーを受けた後、実際にオーケストラを指揮してもらう。その指揮棒は楽団からプレゼント(学校へ寄付)する。
・⑥合唱共演「オーケストラと一緒に歌おう！」では、学校側で選択してもらった1曲をオーケストラ伴奏と一緒に歌う。ワークショップでテノール歌手が指導し、その後、本公演までの間は、学校で練習をしてもらう。
・⑧アンコールとして、開催校校歌をフル・オーケストラ編成でアレンジして演奏する。合同開催校については、ご担当の先生と相談させてもらう。(児童・生徒にとって親しみのある市民歌や県民歌への変更することある。)

(文化庁巡回公演事業公式ホームページより筆者作成)

表 7 文化庁巡回公演事業事前ワークショップの詳細 (2019 年度仙台フィルハーモニー管弦楽団の場合)

内容
①自己紹介～オーケストラで使われる楽器について オーケストラは、弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器の4つのグループに分けることができるが、楽器の音の出る仕組みについて、身近なものを使いながら解説する。また、弦楽器・管楽器奏者は実際に本物の楽器を子どもたちの前で聴かせる。
②歌唱指導 本公演プログラム⑥合唱共演で演奏してもらう合唱曲を、プロの歌手が指導する。この際のピアノ伴奏については、楽団から派遣するピアニストが演奏する。
③質疑応答 児童・生徒をはじめ、先生からもオーケストラや楽団員に関する質問・疑問を受け付ける。 (3名ほどの児童・生徒に質問をお願いする)
④ミニ・コンサート ピアノ+管楽器または弦楽器などのソロの作品、テノール独唱、また複数楽器が組み合わさったアンサンブルの作品など、様々な形態の作品を数曲演奏する。また、希望により音楽の先生や、児童・生徒とコラボレーションすることも可能。過去にはソプラノ、ユーフォニウムなど、先生の専攻楽器に合わせて共演した。
ワークショップ日程
5月8～10、22～24日、6月11～13、28日、7月19日、10月21日(2019年度)
計13校(小中学校)
学校における事前指導
・②歌唱指導を予定している。本公演で共演する合唱曲を、テノール歌手が指導するので、音楽の授業等において事前に練習をしてもらうようお願いする。なお、児童・生徒は楽譜を見ても構わない。 ・③質疑応答では、約3名の児童・生徒に質問をしてもらうようお願いする。(事前に準備してもらっても構わない。先生からの質問も大歓迎。)

(文化庁巡回公演事業公式ホームページより筆者作成)

表 8 千葉交響楽団「音楽鑑賞教室」の詳細

曲目
◆幼稚園公演
・トルコ行進曲
・おもちゃのシンフォニー～第一楽章
・オーケストラにはどんな楽器があるかな？(楽器の紹介)
・オーケストラの伴奏で歌おう／手のひらを太陽に、となりのトトロ～さんぽ、等
・＜ゆかいなメロディ・アンダーソン＞ おどる子猫、タイプライター
・ディズニーメドレー
◆小・中学校公演
・歌劇「ウィリアム・テル」序曲よりスイス軍の行進(ロッシニ)
・[どんな音がするのかな]
・おもちゃの交響曲より第1楽章(L. モーツァルト)
・楽器の紹介
・吹奏楽部、弦楽合奏部等との共演
・オーケストラと歌おう(1～2曲)
・交響曲第7番より第4楽章(ベートーヴェン)
・ハリーポッター・メドレー(J. ウィリアムス)
◆高等学校公演
・交響詩「フィンランディア」／シベリウス
・交響曲第9番「新世界」より第4楽章／ドヴォルザーク
・アンサンブル演奏による楽器の紹介
・＜吹奏楽部との共演＞星条旗よ永遠なれ／スーザ
・＜テノール歌手の魅力(※)＞
・歌劇「トスカ」より星は光りぬ／ブッチーニ
・歌劇「カヴァレリアスチカーナ」間奏曲／マスカーニ
・オー・ソレ・ミオ、帰れソレントへ／イタリア民謡
・バレエ「くるみ割り人形」より行進曲～トレパック～花のワルツ／チャイコフスキー
(※)ソリストは希望によって変更可能。
公演時間
◆小学校/中学校
25名編成 75分(休憩10分込み)
32名編成 75分(休憩10分込み)
39名編成 75分(休憩10分込み)
50名編成 90分(休憩10分込み)
◆高等学校
32名編成 75分(休憩10分込み)
50名編成 90分(休憩10分込み)

(千葉交響楽団公式ホームページより筆者作成)

表9 日本のオーケストラによる教育プログラムの一覧表

主催	オーケストラ団体	公演名	期間	実施場所	公演時間	目的	対象校または対象者数	公演内容（曲目）	特徴	付随事業
群馬交響楽団	群馬交響楽団	移動音楽教室	1947～	群馬県内全 城（一部県外 も含む）	小学校・中学校… 60分 高等学校…90分 （事前ワーク シヨップは60分）	初期：オーケスト ラの経営存続、現 在：情操教育	対象校…294校 （約4万人） ワークシヨップ実施 校…9校（823人） 高等学校…31校（約1万 8,000人）	クラシック音楽が 中心（ただし、交 響曲は1楽章のみな ど抜粋形式） 小学生のみ合唱も あり。	3年に一度、同じ子どもたちが 群響の演奏を聴けるというシス テム。希望校には事前ワーク シヨップも実施する。小中高 と、それぞれレベルアップした プログラムとなっている。	事前ワーク シヨップ （希望校の 特定のクラ スのみ）
山形交響楽団	山形交響楽団	若人のための音 楽鑑賞教室	1971～ 1973	山形県内	90分	山響設立のため に、理想的なプロ グラムを実現する こと	48校（高校のみ。3年間 の合計の学校数。）	交響曲を全楽章演 奏するなど、クラ シック音楽が中 心。 楽器紹介あり。	3年間で1くぐりのプログラム。 同じ子どもたちが3年間連続で 鑑賞する。初年度はバロック・ 古典、2年度はベートーヴェ ン、3年度はロマン派・現代 の音楽を演奏した。	—
山形交響楽団	山形交響楽団	スクールコン サート	1974～	山形県内全 城（一部県外 も含む）	小学校…60分 中学校…70分 高等学校…90分	成長期の児童・生 徒の人間形成をす ること	小中高合計約60校（2018 年度）村川千秋氏が指揮 を務めていた頃（山響設 立時から数十年間）は、 毎年3万人以上の子ども たちに演奏を届けてい た。	有名かつ短い曲が 中心（アニメや映 画音楽等）。 楽器紹介や指揮者 体験コーナーなど も実施。	2、3年に一度、同じ子どもたち が山響の演奏を聴けるというシ ステム。	—
文化庁	令和元年度の受託 団体（いずれも日 本オーケストラ連 盟の正会員と連会 員）	文化芸術による 子供育成総合事 業（巡回公演事 業）	2014～ （名前が 変わる前 からであ れば1967 ～）	全国各地	90分（事前ワーク シヨップも90分）	子供たちの豊かな 創造力・想像力や 思考力、コミュニ ケーション能力な どの養成。 将来の芸術家や顧 客層の育成、優れた 文化芸術の創造 に資すること	対象校…375校（2014 年度）ワークシヨップ参加 校数は記載なし 対象者数…本公演12万 8,411人、ワークシヨップ 873,000人（2014年）	有名かつ短い曲が 中心（アニメや映 画音楽等）。 楽器紹介、合唱、 指揮者体験コー ナーなどもあり。 吹奏楽部と共演も 行っている。	同じ子どもたちに事前ワーク シヨップと本公演の2回を美 施。	事前ワーク シヨップ （希望校の 特定のクラ スのみ）
千葉県	千葉交響楽団	音楽鑑賞教室	1985～	千葉県内全 城（公募 型）	小学校・中学校… 75分（大編成の場 合90分） 高等学校…90分 （小編成の場合75 分）	音楽文化振興、情 感教育	約100校（多い年は200 校）	有名かつ短い曲が 中心（アニメや映 画音楽等）。 楽器紹介、合唱、 指揮者体験コー ナーなどもあり。 吹奏楽部と共演も 行っている。	2、3年に一度、同じ子どもたち が千葉交響楽団の演奏を聴ける というシステム。	—
小牧市（愛知 県）	中部フィルハーモ ニー交響楽団	オーケストラが やってきた！	2001～	小牧市内… （小学生… 各小学校体 育館、中学 生…小牧市 民会館）	小学校…60分 中学校…90分	事務局：運営を継 続すること。楽団 員：継続的にオー ケストラの演奏を 経験してもらい、 クラシック音楽に 興味を持ってもら うこと	小牧市内の全小中学校 （小学校…10校、中学 校…9校。2年かけて全 校回る。）	有名かつ短い曲が 中心（アニメや映 画音楽等）。 楽器紹介、合唱、 ポディウム・カッ シヨーンなども美 施。	2年に一度、同じ子どもたちが 中部フィルハーモニーの演奏を聴けるとい うシステム。	—
静岡県	シンフォニエッタ 静岡	子どもが文化と 出会う機会創出 事業（音楽）	2019～	静岡県内全 城（公募 型）	弦楽合奏…40～70 分 オーケストラ…75 分	子どもたちの芸術 に触れる機会の地 域格差を是正する こと、将来の鑑賞 者や音楽文化を支 える人材の育成を 目指すこと	小学校・中学校…16 校、文化施設2館（学校 公演と未就学児コンサー トの合計…4,358人。学 校公演は生徒のみ。未就 学児コンサートは保護者 も含む。2019年4月時点 での数であり、アンケー ト回収数ではない。）	クラシック音楽が 中心（ただし、6月 公演は弦楽合奏で 短い曲が中心。9、 10月は交響曲を全 楽章演奏するなど 定期演奏会に近い 形式であった。） 楽器紹介あり（指 揮者体験コーナー や合唱はなし）。	公演ごと（学校ごと）に大きく プログラムを変更して学校公演 を実施。	事前ワーク シヨップ （学校公演 は希望校の 特定のクラ スのみ。未 就学児コン サートは希 望者の み。）

（各団体の文献やホームページ、関係者へのインタビュー等より筆者作成）

表 10 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」における静岡交響楽団の日程等

実施日	公演時間	学校の種類／公演名	会場	種別	備考
6月11日(火)		中学校(三島市)	三島市民文化会館大ホール	地域訪問プログラム	市内中学校(7校合同)、担当は三島市文化振興課
6月19日(水)		中学校(沼津市)	左に同じ		
7月3日(水)		小学校(富士宮市)			
7月10日(水)		親子の為にオーケストラ鑑賞教室	富士宮市民会館	未就学児コンサート	-
9月5日(木)		小学校(富士宮市)			
9月6日(金)		小学校(下田市)	左に同じ		
9月10日(火)	13:30～	高等学校(焼津市)	焼津文化会館大ホール	地域訪問プログラム	
9月15日(日)	13:35～	親子の為にオーケストラ鑑賞教室	御殿場市民会館	未就学児コンサート	3校合同開催(小学校、特別支援学校、高等学校)
9月20日(金)	13:15～	中学校(島田市)			
9月24日(火)	13:20～	小学校(川根本町)			
9月30日(月)	13:20～	中学校(富士市)			
10月3日(木)	13:40～	中学校(富士市)			
10月21日(月)	10:30～	小学校(富士市)	左に同じ	地域訪問プログラム	-
10月31日(木)	13:30～	中学校(沼津市)			
11月1日(金)	13:20～	小学校(川根本町)			小中学校合同
11月7日(木)	13:30～	中学校(伊豆市)			
11月9日(土)	10:30～	未就学児から入れる親子クラシックコンサートin伊豆の国	蓮山文化センター	未就学児コンサート	
11月19日(火)	10:30/13:15	小学校(富士宮市)			
11月20日(水)	13:25～	中学校(川根本町)			
11月25日(月)	13:30～	小中学校(熱海市)	左に同じ	地域訪問プログラム	-
11月26日(火)	13:30～	小学校(熱海市)			
1月22日(水)	午前(予定)	子どものための音楽会	富士市文化会館ロゼンター		
2月29日(土)	14:00～	未就学児から入れる親子クラシックコンサートin裾野	裾野市民文化センター	未就学児コンサート	

(令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」実施計画一覧より筆者作成)

表 11 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」における浜松フィルハーモニー管弦楽団の日程等

実施日	公演時間	学校の種類／公演名	会場	種別	備考
8月1日(木)	—	夏休みわくわくイベント 浜松フィルハーモニー管弦楽四重奏	浜松市こども館	未就学児コンサート	—
9月14日(土)	14:30～	こどものためのコンサート「音の森」	アクトシティ音楽工房ホール		
10月10日(木)	10:20～11:05 1・2年生、 11:05～12:00 3～6年生	小学校(浜松市)			13:40～14:25 部活指導
10月11日(金)	13:25～14:15、14:25～ 15:15	中学校(湖西市)			
10月25日(金)	10:20～11:05 低学年、 11:05～12:00 高学年	小学校(湖西市)	左に同じ	地域訪問プログラム	
11月8日(金)	13:20～14:10、14:20～ 15:10	中学校(湖西市)			—
11月9日(土)	11:00～11:30	小学校(湖西市)			
12月20日(金)	午前中	クリスマスふれあいコンサート	順愛こども園		
12月23日(月)	11:00～12:00	冬休みクリスマスイベント 浜松フィルハーモニー管弦楽四重奏	浜松市こども館	未就学児コンサート	

(令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」実施計画一覧より筆者作成)

表 12 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」における静岡交響楽団の曲目等

曲目(一例)
◆小学校
R.シュトラウス／ツァラトゥストラはかく語りき(冒頭)～L.アンダーソン／舞踏会の美女
L.アンダーソン／シンコペーテッドクロック
～楽器紹介～「ふじの山」
モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジーク
ハチャトゥリアン／組曲「仮面舞踏会」より“ワルツ”
大野雄二／ルパン三世のテーマ
体験コーナー／指揮者体験曲 ハンガリー第5番 or 運命
全員参加(校歌など)
エルガー／「威風堂々」より第1番
◆中学校
R.シュトラウス／ツァラトゥストラはかく語りき(冒頭)～L.アンダーソン／舞踏会の美女
～楽器紹介～「ふじの山」
モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジーク
ハチャトゥリアン／組曲「仮面舞踏会」より“ワルツ”
大野雄二／ルパン三世のテーマ
体験コーナー／指揮者体験曲 ハンガリー第5番 or 運命
ベートーヴェン／交響曲第5番 ハ短調 作品67 第1楽章
全員参加(校歌など)
チャイコフスキー／バレエ音楽「眠れる森の美女」より“ワルツ”
◆高等学校
G.ロッシーニ／歌劇「ウィリアム・テル」序曲より「スイス軍の行進」
L.アンダーソン／フィドル・ファドル
A.ドヴォルザーク／スラブ舞曲 第10番 ホ短調 Op.72-2
J.ブラームス／ハンガリー舞曲 第1番 ト短調
P.マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より「間奏曲」
【指揮者体験】(運命冒頭。体験後第1楽章を鑑賞)
L.v.ベートーヴェン：交響曲 第5番 ハ短調 Op.67「運命」より第1楽章
E.エルガー／行進曲「威風堂々」第1番
(アンコール)J・P.スーザ／行進曲「星条旗よ永遠なれ」
備考
鑑賞者数：概ね600人まで
公演時間：60分
設営・リハーサル時間：120分
出演者：33～55名
スタッフ：5名
※いずれも小中高とも一緒。

(令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」企画書より筆者作成)

表 13 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」における浜松フィルハーモニー管弦楽団の曲目等

曲目
◆小学生
J.ブラームス：ハンガリー舞曲第5番
楽器紹介：形は似ているが、大きさや音も違う事を知ってもらう。
L.V.ベートーヴェン：交響曲第9番より「喜びの歌」
楽器体験：実際に楽器に触れて音を出してみる。
J.シュトラウス2世 & ヨーゼフシュトラウス：ピチカートポルカ
A.ヴィヴァルディ：「四季」より
◆中学校
①W.A.モーツァルト：「アイネクライネナハトムジーク」より第1楽章
②W.A.モーツァルト：フルート四重奏曲第1楽章ニ長調K.285より第2,3楽章
③体験プログラム
④W.A.モーツァルト：クラリネット五重奏イ長調K.581より第1楽章又は第4楽章
⑤W.A.モーツァルト：歌劇「魔笛」序曲
その他：学校の要望を入れての調整可能
編成① 弦楽四重奏
② フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ
③ ①+クラリネット
④⑤ ①+フルート、クラリネット
備考
編成：弦楽四重奏（小学校）、弦楽四重奏+フルート、クラリネット（中学校）
鑑賞人数：概ね100人まで（小中とも）
公演時間：45分（小学校）、50分（中学校）
設営・リハーサル時間：60分（小中とも）
出演者：4名（小学校）、6名（中学校）
スタッフ：1名（小中とも）

（令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」企画書より筆者作成）

表 14 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」におけるシンフォニエッタ静岡の日程等

開催日	公演鑑賞者数			WS参加数	学校名／文化施設名	自治体名	プログラム	公演時間	種別	備考
	生徒数	教職員数	保護者数							
6月24日(月)	210	17	不明		A小学校	掛川市	弦楽合奏 (プログラムB)	10:25～11:10 (45分)	地域訪問 プログラム	A小学校とB小学校は2校合同で実施。(A小学校で開催。)
	68	11			B小学校		弦楽合奏 (プログラムA)	13:20～14:30 (70分)		
	58	11			C小学校					
6月25日(火)	696	40	不明		D小学校	掛川市	弦楽合奏 (プログラムAの 変則型)	低学年 10:50 ～11:20(30 分)、高学年 11:30～12:10 (40分)	地域訪問 プログラム	低学年(1,2,3年生)と高学年(4,5,6年生)に分けて、2公演実施。 高学年(4,5,6年生)のみ。196人は高学年の人数(全校生徒数は408人)。35人は全教職員数。
6月26日(水)	196	35			E小学校		弦楽合奏 (プログラムA: 曲順変更あり)	10:30～11:40 (70分)		
6月27日(木)	599	40			F小学校			11:00～12:00 (60分)		

開催日	公演鑑賞者数			WS参加数 子ども	学校名／文化施設名	自治体名	プログラム	公演時間	種別	備考
	生徒数	教職員数	保護者数							
9月14日(土)	697			20	御前崎市市民会館	御前崎市	オーケストラ	13:30～14:45 (75分)	未就学児 コンサート	公演の前後30分ずつワークショップを実施。 (事前 12:30～13:00、事後 15:00～15:30)
9月15日(日)	700			20	藤枝市民会館	藤枝市		13:15～14:30 (75分)		
9月24日(火)	36	8			G小学校	島田市	オーケストラ (プログラムC)	13:15～14:30 (75分)	地域訪問 プログラム	—
10月7日(月)	53	10			H小学校	河津町	オーケストラ (プログラムD)	10:15～11:30 (75分)		
10月8日(火)	498	27			I小学校	掛川市	オーケストラ (プログラムD)	13:15～14:30 (75分)		
10月9日(水)	31	8			K小学校	浜松市	オーケストラ (プログラムC)	13:15～14:30 (75分)		
10月10日(木)	37	7		37	L小学校	島田市	オーケストラ (プログラムC)	10:30～11:45 (75分)	地域訪問 プログラム	公演の前後(10月4日、10月18日)にワークショップを実施。 (小学校45分間、中学校50分間)
	120	13		40	M中学校			14:00～15:15 (75分)		
11月15日(金)	130	16			N小学校	牧之原市	オーケストラ	10:45～12:00 (75分)		
11月16日(土)	35	9			O小学校	富士宮市		13:15～14:30 (75分)		
11月17日(日)	23	8			P小学校	島田市		11:00～12:15 (75分)		

※公演鑑賞者数は2019年度当初のもの。
(シンフォニエッタ静岡事務局資料より筆者作成)

表 15 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」におけるシンフォニエッタ静岡の曲目等

曲目
◆6月
プログラムA(70分)
ヴィヴァルディ／「四季」より「春」
マスネ／タイスの瞑想曲(vn.松本亜土)
楽器紹介
モーツァルト／フルートとハーブのための協奏曲第2楽章(fl.竹下麻美、hp.山地梨保)
ブレヴァル／協奏交響曲より第1楽章(fl.竹下麻美、fg.神山純)
シューベルト／アヴェ・マリア(sop.原田和加子)
モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章
(アンコール)R.シュトラウス／あした(sop.原田和加子)
プログラムB(45分)
ヴィヴァルディ／「四季」より「春」
楽器紹介
マスネ／タイスの瞑想曲(vn.松本亜土)
ブレヴァル／協奏交響曲より第1楽章(fl.竹下麻美、fg.神山純)
シューベルト／アヴェ・マリア(sop.原田和加子)
モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章
◆9月
「0歳からのふくみみコンサート(未就学児コンサート)」(75分)
イベル／モーツァルトへのオマージュ
楽器紹介①(木管楽器、金管楽器)
モーツァルト／交響曲第35番「ハフナー」
～休憩～
楽器紹介②(打楽器、弦楽器)
ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
学校公演(75分)
モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章
楽器紹介
モーツァルト／交響曲第40番より第1楽章
シューベルト／交響曲第5番(全楽章)
(アンコール)ハイドン／交響曲第45番「告別」第4楽章 アダージョ
◆10月
学校公演(75分)
イベル／モーツァルトへのオマージュ
楽器紹介
プログラムA:メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲(vn.松本亜土)
プログラムB:モンティ／チャールダーシュ(vn.松本亜土)、久石譲／となりのトトロより「さんぽ」
～休憩(5-10分)～
ベートーヴェン／交響曲第7番(全楽章)
◆11月
学校公演(75分)
モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章
楽器紹介
モーツァルト／交響曲第40番より第1楽章
シューベルト／交響曲第5番(全楽章)
指揮＝中原朋哉
備考
※指揮は全て中原朋哉が担当。
※6月のプログラムA、9・11月の学校公演においても途中休憩あり。
※全ての公演の曲間にトークを挟む。司会と楽器紹介は中原朋哉が担当。
※6月26～27日、9月14～15日、10月7～9日の弦楽器の楽器紹介は、cb.の石川智崇が担当。
※出演者…6月:14名、9月:29名(未就学児)、19名(学校公演)、10月:27名、11月:21名。スタッフは全て4名。
※本研究は6～11月の公演を対象としているが、本事業でのシンフォニエッタ静岡の活動は12月以降も継続される。

(シンフォニエッタ静岡事務局資料より筆者作成)

表 16 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」におけるシンフォニエッタ静岡のワークショップ内容（9月）

内容
◆0歳からのふくみみコンサートでのワークショップ
9月14日
事前ワークショップ(12:30～13:00)
・公演での演奏曲「マ・メール・ロワ」を題材に、第1曲「眠れる森の美女のパヴァーヌ」の冒頭のフレーズをグロックン・シュピールで叩いてみる。メロディーを子どもたちと一緒に歌ったりリズムを手拍子で叩いたりする。
・拍手の練習を行う。
・「マ・メール・ロワ」第2曲「親指小僧」の中間部に出てくる鳥の鳴き声をモチーフにさまざまな鳥の鳴き声を真似してみる。
・鳥のシルエットを登場させて何の鳥か当ててみるクイズをする。
・グロックンシュピールの一番高い音と一番低い音の聞き分けゲームをした後、実際楽器に触れてみる。
事後ワークショップ(15:00～15:30)
・子どもたちを舞台に上げ、実際に楽団員が座っていた椅子に座らせる(弦セクション)。
・ヴァイオリンのコンサートマスターとフルートの2人がそのまま舞台上に残り、「マ・メール・ロワ」第2曲「親指小僧」の中間部に出てくる鳥の鳴き声の部分を再現する。
・オーボエを間近で見て、リコーダーとの比較を行う。
※本来30分の予定だったが、15分で打ち切り。
9月15日
事前ワークショップ(12:30～13:00、御前崎市民会館ロビー)
・公演での演奏曲「マ・メール・ロワ」を題材に、第1曲「眠れる森の美女のパヴァーヌ」の冒頭のフレーズをグロックン・シュピールで叩いてみる。メロディーを子どもたちと一緒に歌ったりリズムを手拍子で叩いたりする。
・体を動かしてウォーミングアップをする。
・一人一人の名前を録音し、スピーカーを通して聴かせ、スピーカーを通して聞いた自分の声の感想を問いかける。
・グロックンシュピールの一番高い音と一番低い音の聞き分けゲームをした後、実際楽器に触れてみる。
事後ワークショップ(15:00～15:30、御前崎市民会館舞台上)
・コンサートで見た楽器、聴こえた音、感想を問いかける。
・楽器の持ち方(ヴァイオリン)を体験する。
・グロックンシュピールの鍵盤を全て外し、子どもたちで元どおりに復元する。
ファシリテーター＝DUMIST柳澤藍氏、武庫川女子大学永島茜准教授 (9月14日の事後ワークショップにおいては筆者も一部オーボエで参加。)

(柳澤藍氏・永島茜氏による実施報告書より筆者作成)

表 17 静岡県主催令和元年度「子どもが文化と出会う機会創出事業」におけるシンフォニエッタ静岡のワークショップ内容（10月）

内容
◆L小学校とM中学校でのワークショップ
10月4日(午前M中学校音楽室:50分間、午後L小学校音楽室:45分間)
・ジョン・ケージの「4分33秒」を用いて、その時間内に何がきこえるかという「聴くこと」を考える。
・10月10日の公演で演奏されるベートーヴェンの交響曲第7番において、曲中にさまざまなリズムが登場することから、各グループに分かれて色々なリズムを作る。
・作ったすべてのリズムを各グループのリーダー(シンフォニエッタ静岡のメンバー)が発表。
10月18日(午前:L小学校体育館、午後M中学校音楽室)
・10月10日の公演で演奏したベートーヴェンの交響曲第7番のメロディーやリズムの復習をする。
・各グループに分かれ、10月4日の事前ワークショップで作ったリズムに音をつけて作曲する。
・作曲したものを、各グループのファシリテーター(シンフォニエッタ静岡のメンバー)が演奏。
ファシリテーター＝シンフォニエッタ静岡芸術監督・指揮者:中原朋哉氏、楽団長・オーボエ奏者:植田明美氏、フルート奏者:菅原彩乃氏、トロンボーン奏者:野村美樹氏、コントラバス奏者:土田卓氏

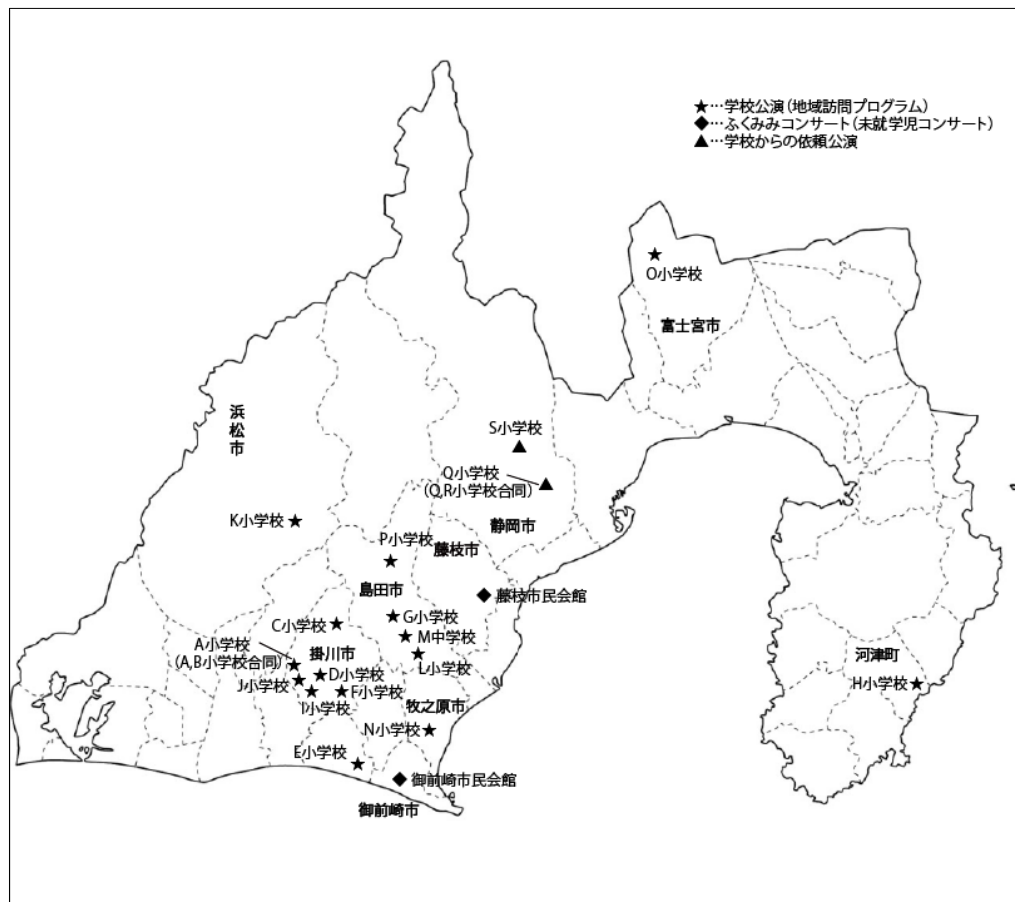
(参与観察の記録より筆者作成)

表 18 シンフォニエッタ静岡による教育プログラムの形態分類表

名称(公演形態)	開催日	実施校(実施場所)	内容	様子
①弦楽合奏を主体とする小品を中心とした学校公演	2019年6月24～27日	A～F小学校	クラシック音楽が中心であるが、交響曲は取り入れず、協奏曲の抜粋等短めの曲が中心。	子どもたちは飽きずに集中して静かに聴いている様子であった。時折曲中に身体を揺らす生徒がおり、音楽を肌で感じ楽しむ姿が見られた。大きい楽器や目立っている楽器に興味を示す子どもが多かった他、曲や楽器の説明があった部分の反応が良かった印象がある。
②フランスにおいて学校で音楽の授業を実施することのできる国家資格「DUMI(デュミ)の有資格者によるワークシヨップを取り入れたアブ未就学児とその家族を対象としたコンサート	2019年9月14～15日	御前崎市民会館、藤枝市民会館(未就学児対象)	コンサートの前後(同日)にワークシヨップを実施。コンサートでは、モーツァルト交響曲第35番《ハフナー》全楽章やラヴェル組曲《マ・メル・ロワ》等を演奏。	コンサートは、未就学児のため歩き回ったり泣き叫んだりする子どもが多かったが、楽器紹介において盛り上がった印象を受けた。ワークシヨップでは、子どもたちは音楽を聴くことより楽器を触ったり叩いてみたりすることのほうに興味を持っていてるように見取れた。ワークシヨップの流れに一貫性がなく、事前と事後で子どもたちの反応の違いについてはっきりとはわからなかった。
③シュューベルトの『交響曲第5番』全楽章を中心としたプログラムによる学校公演	2019年9月24日、11月15～17日	G、N～P小学校	後半に「シュューベルト交響曲第5番」を全楽章演奏。曲間の解説で、演奏曲目の各セクションの役割を個別に紹介し、それを組み合わせることやオーケストラの楽曲が構成されていることを説明。アンコールでは曲中に楽団員が次々に演奏を終わらせていくという演出を実施。	楽器紹介や曲中のパフォーマンズにおける反応が良かった。後半の交響曲も子どもたちは静かに集中して聴いていた。響きや迫力に驚いて友だちと顔を合わせる子どもや指揮や楽器演奏の真似をする子どもがいた。曲の解説時に馴染みのあることを題材にしたときの反応も良かった。
④ベートーヴェンの『交響曲第7番』全楽章を中心としたプログラムによる学校公演	2019年10月7、9～10日	H、K～M小中学校	後半に「ベートーヴェン交響曲第7番」を全楽章演奏。	全体的にも子どもたちにとって聴き馴染みのない曲が中心であったが、終始集中して聴いている子どもが多く、時に体を揺らしたり指揮の真似をしたりする姿が見られた。
⑤ベートーヴェンの『交響曲第7番』全楽章を中心としたプログラム(④)に、アニメソングを1曲組み込んだプログラムによる学校公演	2019年10月8日	I、J小学校	クラシック音楽とアニメ曲(となりのトトロより「さんぽ」)の混合。	低学年は「さんぽ」と一緒に歌う子どもが目立った。
⑥ベートーヴェン『交響曲第7番』全楽章を中心としたプログラムによる学校公演(④)に、シンフォニエッタ静岡楽団員による2回のワークシヨップを付随プログラムとして実施したもの	2019年10月4、18日(ワークシヨップ実施日。コンサートは10月10日に実施。)	L、M小中学校	コンサートの前後に(1週間ほど間隔をあけて)ワークシヨップを実施。	ワークシヨップに参加したクラスの子どものみならずコンサート中でも静かにベートーヴェン交響曲第7番をはじめとしたクラシック音楽を聴き入っていた。
⑦アニメや映画音楽等、有名な曲を中心とした学校からの依頼による公演	2019年10月16日	Q、R、S小学校	「美女と野獣」や「名探偵コナンメインテーマ」などを演奏。	会場内は県の主催事業のクラシック音楽ばかりのプログラム時の雰囲気とはかなり違い、「となりのトトロメドレー」や「美女と野獣」など有名な曲が演奏されただけでなく楽器紹介でスーザフォンやアルホルンなど特殊な楽器が登場したこともあり、ライブ会場のようになり盛り上がっていた。

(シンフォニエッタ静岡のプログラムに基づき筆者作成)

図1 静岡県主催「子どもが文化と出会う機会創出事業」と学校からの依頼公演でシンフォニエッタ静岡が6月、9～11月に回った（筆者が本研究の調査で行った）箇所のマップ



(各箇所の位置情報より筆者作成)

図2 6月の学校公演 (C小学校)



(2019年6月24日筆者撮影)

図3 ヴィヴァルディ四季より「春」の演出 (E小学校)



(2019年6月26日筆者撮影)

図4 楽団員による楽器紹介 (F小学校)



(2019年6月27日筆者撮影)

図5 アンケートを書く子どもたち (E小学校)



(2019年6月26日筆者撮影)

図6 9月に実施された「0歳からのふくみみコンサート」のチラシ



(シンフォニエッタ 静岡 公式ホームページより)

図7 ふくみみコンサートの演奏風景



(2019年9月14日筆者撮影)

図 8 楽器紹介



(2019年9月14日筆者撮影)

図 9 9月の学校公演（G 小学校）



(2019 年 9 月 24 日筆者撮影)

図 10 楽器紹介において弦楽器の大きさ
比べを間近で見る子どもたち（G 小学校）



(2019 年 9 月 24 日筆者撮影)

図 11 10月の学校公演（H 小学校）



(2019 年 10 月 7 日筆者撮影)

図 12 マットに座り様々な角度から鑑賞
する子どもたち（K 小学校）



(2019 年 10 月 9 日筆者撮影)

図 13 休憩中に楽器を触る子どもたち（L
小学校）



(2019 年 10 月 10 日筆者撮影)

図 14 曲間の指揮者による解説の様子（L
小学校）



(2019 年 10 月 10 日筆者撮影)

図 15 事前ワークショップにおいてグループに分かれて色々なリズムの案を出している様子 (L 小学校)



(2019 年 10 月 4 日筆者撮影)

図 16 事後ワークショップにおいて作った曲をファシリテーターが演奏している様子 (M 中学校)



(2019 年 10 月 18 日筆者撮影)

図 17 11 月の学校公演 (N 小学校)



(2019 年 11 月 15 日筆者撮影)

図 18 子どもたちからの御礼の言葉 (P 小学校)



(2019 年 11 月 17 日筆者撮影)

図 19 学校公演で使ったアンケート用紙（小学校低学年用）

アンケート（シンフォニエッタ 静岡）
（学校公演 1/5 小学生低学年用）

つぎのしつもんはに答えてください。

Q.1 ^{ねんせい}1年生 ^{ねんせい}2年生 ^{ねんせい}3年生
^{おとこ}男 ^{おんな}女

Q.2 ^{おんがく}音楽の^{じゅぎょう}授業は好きですか
①すき ②ふつう ③きらい ④むずかしい
⑤そのほか（ ）

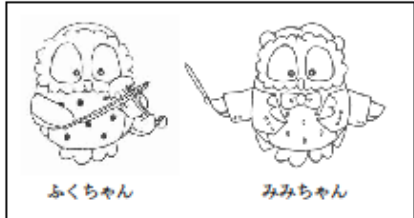
Q.3 ^{おんがく}音楽やダンスなどの^{なら}習い事^{ごと}をしていますか。
①はい ②いいえ
「はい」と答えた人は、^{なに}何を^{なら}習っていますか
ピアノ、エレクトーン、ヴァイオリン、フルート、トランペット、^{うた}歌、
バレエ、ダンス、そのほか（ ）

Q.4 ^{きょう}今日の^{まへ}コンサートをきく^{まへ}前まで、クラシック音楽^{おんがく}は好きでしたか。
①すき ②まあすき ③ふつう ④あまり好きではない ⑤きらい

Q.5 今日^{けふ}のコンサートをきいてみて、クラシック音楽^{おんがく}は好きになりましたか。
①もっと好きになった ②好きになった ③かわらない（ふつう）
④きらいになった ⑤もっときらいになった ⑥よくわからない

Q.6 オーケストラやクラシック音楽^{おんがく}をまたきいてみたいですか。
①^{まいにち}毎日ききたい ②^{ときどき}時々ききたい ③たまにきいてみたい
④あまりききたくない ⑤ききたくない ⑥わからない

Q.7 ^{じぶん}自分も^{がっき}楽器の^{えんそう}演奏や^{うた}歌ったりしてみたいと思いましたか。
①はい ②いいえ
「はい」と答えた人は、どの^{がっき}楽器をやってみたい^{おも}と思いましたか。
ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、
フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、
トランペット、^だ打楽器、^{しきしや}指揮者、そのほか（ ）
しつもんは、これでおわりです。ありがとうございました。



ふくちゃん みみちゃん

図 20 学校公演で使ったアンケート用紙（小学校高学年、中学生用）

アンケート（シンフォニエッタ 静岡）
（学校公演 2/5 小学生高学年、中学生用）

次の質問に答えてください。

Q.1 学年 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生
性別 男 女

Q.2 音楽の授業は好きですか
①好き ②ふつう ③きらい ④むずかしい ⑤そのほか（ ）

Q.3 音楽の習い事をしていますか。①はい ②いいえ
「はい」と答えた人は、何を習っていますか。
ピアノ、エレクトーン、ヴァイオリン、フルート、トランペット
バレエ、ダンス、日本の楽器や踊り、その他（ ）

Q.4 今日のコンサートをきく前まで、クラシック音楽は好きでしたか。
①好き ②まあ好き ③ふつう ④あまり好きではない ⑤きらい

Q.5 今日のコンサートをきいてみて（きいた後）、クラシック音楽は好きになりましたか。
①もっと好きになった ②好きになった ③変わらない（ふつう）
④きらいになった ⑤もっときらいになった ⑥よくわからない
（その理由があったらおしえてください。 _____
_____）

Q.6 オーケストラやクラシック音楽をまたきいてみたいですか。
①毎日ききたい ②時々ききたい ③たまにきいてみたい ④あまりききたくない
⑤ききたくない ⑥わからない

Q.7 自分も楽器を演奏してみたいと思いましたか。 ①はい ②いいえ
「はい」と答えた人は、どの楽器をやってみたいと思いましたか。
ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、
フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、打楽器、
指揮者、そのほか（ ）

質問はこれでおわりです。ありがとうございました。

表 19-1 学校公演におけるアンケート結果（子ども・単純集計）

Q.2 音楽の授業は好きですか。

6 月（公演形態①）

①好き	995	56.3%
②ふつう	636	36.0%
③きらい	50	2.8%
④むずかしい	65	3.7%
⑤そのほか	4	0.2%
無回答	16	0.9%
合計	1,766	99.9%

9・11 月（公演形態③）

①好き	139	63.5%
②ふつう	73	33.3%
③きらい	4	1.8%
④むずかしい	3	1.4%
⑤そのほか	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	219	100.0%

10 月（公演形態④～⑥）

①好き	239	45.2%
②ふつう	238	45.0%
③きらい	23	4.3%
④むずかしい	24	4.5%
⑤そのほか	3	0.6%
無回答	2	0.4%
合計	529	100.0%

Q.4 今日のコンサートをきく前まで、クラシック音楽は好きでしたか。

6 月（公演形態①）

①好き	645	36.5%
②まあ好き	417	23.6%
③ふつう	556	31.5%
④あまり好きではない	71	4.0%
⑤きらい	24	1.4%
その他（よくわからない）	2	0.1%
無回答	51	2.9%
合計	1,766	100.0%

9・11 月（公演形態③）

①好き	75	34.3%
②まあ好き	53	24.2%
③ふつう	81	37.0%
④あまり好きではない	7	3.2%
⑤きらい	0	0.0%
⑥その他（知らなかった）	1	0.5%
無回答	2	0.9%
合計	219	100.1%

10 月（公演形態④～⑥）

①好き	121	22.9%
②まあ好き	114	21.6%
③ふつう	222	42.0%
④あまり好きではない	47	8.9%
⑤きらい	10	1.9%
無回答	15	2.8%
合計	529	100.1%

Q.5 今日のコンサートをきいてみて(きいた後)、クラシック音楽は好きになりましたか。

6 月（公演形態①）

①もっと好きになった	697	39.5%
②好きになった	646	36.6%
③変わらない(ふつう)	303	17.2%
④きらいになった	6	0.3%
⑤もったきらいになった	6	0.3%
⑥よくわからない	70	4.0%
無回答	38	2.2%
合計	1,766	100.1%

9・11 月（公演形態③）

①もっと好きになった	88	40.2%
②好きになった	103	47.0%
③変わらない(ふつう)	25	11.4%
④きらいになった	0	0.0%
⑤もったきらいになった	0	0.0%
⑥よくわからない	1	0.5%
無回答	2	0.9%
合計	219	100.0%

10 月（公演形態④～⑥）

①もっと好きになった	140	26.5%
②好きになった	228	43.1%
③変わらない(ふつう)	122	23.1%
④きらいになった	5	0.9%
⑤もったきらいになった	0	0.0%
⑥よくわからない	25	4.7%
無回答	9	1.7%
合計	529	100.0%

Q.6 オーケストラやクラシック音楽をまたきいてみたいですか。

6 月（公演形態①）

①毎日ききたい	433	24.5%
②時々ききたい	659	37.3%
③たまにきいてみたい	503	28.5%
④あまりききたくない	38	2.2%
⑤ききたくない	16	0.9%
⑥わからない	75	4.2%
無回答	42	2.4%
合計	1,766	100.0%

9・11 月（公演形態③）

①毎日ききたい	61	27.9%
②時々ききたい	98	44.7%
③たまにきいてみたい	53	24.2%
④あまりききたくない	4	1.8%
⑤ききたくない	1	0.5%
⑥わからない	1	0.5%
無回答	1	0.5%
合計	219	100.1%

10 月（公演形態④～⑥）

①毎日ききたい	95	18.0%
②時々ききたい	209	39.5%
③たまにきいてみたい	180	34.0%
④あまりききたくない	8	1.5%
⑤ききたくない	7	1.3%
⑥わからない	18	3.4%
無回答	12	2.3%
合計	529	100.0%

※割合は小数点第 2 位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)

表 19-2 子どもたちによる感想（月別・単純集計・高学年のみ）

Q.5 理由（のべ人数）

6 月（公演形態①）

積極的な意見		
きれいな音（楽）だったから。	139	12.2%
いろいろな楽器や音楽があったから。	73	6.4%
楽しくおもしろかったから（楽しい曲があったから）。	61	5.3%
知らない音楽（楽器）があったから。	43	3.8%
良い音楽（演奏）だったから。	28	2.4%
もともと音楽がすきだから。	24	2.1%
演奏している人が楽しそうだったから（頑張って弾いていたから）。	19	1.7%
（あまり）聴いたことがなかったから。	14	1.2%
音が重なって一つの音楽になっていたから。	14	1.2%
音の変化がおもしろいから。	14	1.2%
迫力があったから。	14	1.2%
癒やされた（心が落ち着いた）から。	14	1.2%
いろいろな演奏の仕方があったから。	11	1.0%
知っている曲があったから。	10	0.9%
生で聴いて良かったから。	9	0.8%
息が合っていたから。	9	0.8%
ハープが上手できれいだったから。	9	0.8%
弦を弾く曲がおもしろかったから。	9	0.8%
楽器（オーケストラ）をやりたくなったから。	8	0.7%
音（楽）が好きになったから。	8	0.7%
もっと（また）聴いてみたいと思ったから。	8	0.7%
リズム感がよかったから。	7	0.6%
コントラバスの人がおもしろかったから。	6	0.5%
クラシック音楽（楽器）の良さがわかったから。	6	0.5%
目の前で見聞きすることができたから。	4	0.3%
ヴァイオリンが素敵な音だから。	4	0.3%
感動したから。	4	0.3%
一つの楽器でもいろいろな音が出せるから。	3	0.3%
かっこよかったから。	3	0.3%
（床に）響いていたから。	3	0.3%
歌がきれいで素敵だったから。	3	0.3%
様々な場面が想像できておもしろかったから。	2	0.2%
クラシック音楽のすごさがわかったから。	2	0.2%

優しい音だったから。	2	0.2%
クラシック音楽のイメージが変わったから。	2	0.2%
歌が好きだから。	2	0.2%
好きな曲があったから。	1	0.1%
聴いたことがあったから。	1	0.1%
元気が出るから。	1	0.1%
楽器1つ1つ違う音が出るのがすごいから。	1	0.1%
歌が楽しそうだったから。	1	0.1%
演奏することの難しさを知ったから。	1	0.1%
緊張感があったから。	1	0.1%
難しそうだったけどできれば楽しそうだから。	1	0.1%
フルートが気に入ったから。	1	0.1%
フルートとハーブがかわいかったから。	1	0.1%
明るかったから。	1	0.1%
最初のアイネクライネナハトムジークで、少人数でもきれいで感動したから。	1	0.1%
音楽の歴史が感じられるから。	1	0.1%
歌うことが好きだから。	1	0.1%
わかりやすかったから。	1	0.1%
音楽の説明をしてくれたから。	1	0.1%
感情を音楽で表現できていたから。	1	0.1%
楽器紹介があったから。	1	0.1%
音楽には言葉じゃなくても伝えられることがわかり、もっとくわしく知りたいと思ったから。	1	0.1%
こんなにすごい音楽を聴いたことがなかったから。	1	0.1%
ものがたりや、動物の声などが入っていたから。	1	0.1%
楽器を習っているから。	1	0.1%
楽器の音がよく分かったし、おもしろい音もあったから。	1	0.1%
消極的な意見		
もともとあまり興味がないから（音楽が好きではないから）。	8	0.7%
（ちょっと）長いから。	5	0.4%
あまりクラシック音楽のことがわからないから。	4	0.3%
眠たくなったから。	3	0.3%
むずかしかったから。	3	0.3%
知らない曲ばかりだったから。	3	0.3%
良い音楽だったけどあまりよくなかったから。	1	0.1%
自分にとってはクラシック音楽はいつきいても同じだから。	1	0.1%
腰が痛くなるから。	1	0.1%
疲れたし飽きてしまったから。	1	0.1%
（感想を）書き出すと長くなる。	1	0.1%
もともとクラシック音楽の良さを知っているの で、変わらなかった。	1	0.1%
あまり聴いたことがなかったから。	1	0.1%
思っていたものと大体一緒だったから。	1	0.1%
ひまだったから。	1	0.1%
あまり聴いていなかったから。	1	0.1%
あまりすごさがわからなかったから。	1	0.1%
一度聴いたことがあったからあまりかわらない。	1	0.1%
あついから。	1	0.1%
好きにもなっていないし、嫌いにもなっていない から。	1	0.1%
クラシック音楽も良いけど、知っている曲のほう が馴染みがあるから。	1	0.1%
いろいろな楽器があつてこんがらがかるから。	1	0.1%
無回答	488	42.7%
合計	1,144	100.7%

9・11月（公演形態③）

積極的な意見		
きれいな（良い）音がきけたから。	22	20.0%
迫力がある演奏だったから。	8	7.3%
テンポや音色が良かったから。	5	4.5%
生で見聴きできたから。	4	3.6%
間近で聴けたから。	4	3.6%
初めて聴いて、クラシック音楽がすばらしいもの だと思ったから。	3	2.7%
もともと音楽が好きだから。	2	1.8%
いろいろな楽器で強弱をつけていて表現がおもしろ かったから。	2	1.8%
ヴァイオリンの音がきれいだったから。	2	1.8%
たくさんの楽器を奏でているから。	2	1.8%
好きなのに理由はらない。	2	1.8%
全部の楽器の音が合わさっていてよかった から。	2	1.8%
おだやかな感じになったから。	1	0.9%
感動したから。	1	0.9%
前に何度か聴いたことがあり、やはり楽し いと思ったから。	1	0.9%
いろいろな曲があり、毎日聴いても飽きない から。	1	0.9%
楽器の音は色々で弾くのが難しそうだけど すごいなと思ったから。	1	0.9%
シューベルトとかモーツァルトという名前は 知っていたけど、音楽はあまり聴いてい なかったの、このコンサートで好きに なったから。	1	0.9%
とても上手だったから。	1	0.9%
音の変化が良かったから。	1	0.9%
おもしろかったから。	1	0.9%
指揮者の迫力があっておもしろかったか ら。	1	0.9%
とてもよかったから。	1	0.9%
一つの楽器でいろいろな音を出していて好 きになったから。	1	0.9%
もっと聴きたいと思ったから。	1	0.9%
前までは、音楽はあまり好きではなかった けど、音楽をきいてもっと好きになったか ら。	1	0.9%
あまりクラシックは聴かないけど、生で聴 いたらカッコよかったから。	1	0.9%
楽しかったから。	1	0.9%
いろいろな高い音や低い音があって演奏す るのが気に入ったから。	1	0.9%
無回答	35	31.8%
合計	110	99.6%

10 月（公演形態④～⑥）

積極的な意見		
音（色）が（合わさっていて）きれいだったから。	44	9.5%
とても迫力があってすごかったから。	29	6.3%
いろいろな音や楽器、ひき方があっておもしろかったから。	20	4.3%
生で聴いて表現がすごかったから。	19	4.1%
聞いていて楽しかったから。	11	2.4%
目の前で見ることができたから。	7	1.5%
心地良かったから。	7	1.5%
音楽の強弱があって、それで気持ちを表しているから。	6	1.3%
良い音楽（曲）だったから。	6	1.3%
生で聞くのははじめてだったから。	5	1.1%
みんなの団結力がいいなと思ったから。	5	1.1%
音楽の魅力がわかったから。	5	1.1%
演奏者が楽しそうだったから。	4	1.0%
感動したから。	4	1.0%
カッコいい演奏だったから。	4	1.0%
ケータイでは聴けないような大きく激しい音が聞けたから。	4	1.0%
クラシック音楽について、いろいろなことを知ることができて、少し興味を持てたから。	3	0.6%
もともと音楽の勉強やコンサートを聴くのが好きで、楽しかったから。	3	0.6%
リズムやテンポが変化していて良かったから。	3	0.6%
知らなかった音楽を知ることができたから。	3	0.6%
色々な曲を演奏してくれたから。	3	0.6%
普段あまり生で聞く機会がなかったが、実際に聴いてみて好きになったから。	3	0.6%
自分も演奏してみたいと思ったから。	2	0.4%
おもしろかったから。	2	0.4%
他の音楽（曲）も聴いてみたいと思ったから。	2	0.4%
クラシック音楽をたくさん（長い時間）聴いて興味を持ったから。	2	0.4%
知っている音楽があったから。	2	0.4%
心が癒されて、疲れが取れるから。	2	0.4%
すごいなと思ったから。	2	0.4%
今回聴いて好きになったから。	2	0.4%
音楽の習い事をしているから。	2	0.4%
頑張ってひいていてすごかったから。	1	0.2%
どの楽器がいつひく（吹く）のか、いろいろな視点から見れたから。	1	0.2%
クラシック好きな兄弟の影響もあって、今回コンサートをきいて好きになった。	1	0.2%
ヴァイオリンの音がかっこよかったから。	1	0.2%
わかりやすい説明をしてくれたから。	1	0.2%

いろんなクラシックの特徴などをもっと知りたいから。	1	0.2%
ヴァイオリンがパート1とパート2にわかれていたから。	1	0.2%
すごかったから。	1	0.2%
聴いているとその情景や物語が浮かんできて楽しいから。	1	0.2%
曲の山はどこかなど考えられたから。	1	0.2%
たくさんの楽器でそれぞれ違うリズムを合わせていて、細かいメロディーもよくぶれないなとおもった。	1	0.2%
ひいてみると難しいのはわかるから。	1	0.2%
もっと多く人で聴いてみたい。	1	0.2%
低音が裏でアクセントをつけているのが好きだから。	1	0.2%
久しぶりにクラシック音楽を聴いたから。	1	0.2%
クラシックにはリーダーがいることが興味深かったから。	1	0.2%
有名な曲などがあるから。	1	0.2%
勢いが良かったから。	1	0.2%
曲に意味があると知ったから。	1	0.2%
その楽器はどんなことをしているのかよくわかったから。	1	0.2%
迫力あるものからきれいなものまで幅広いのですごいと思ったから。	1	0.2%
考え事などを忘れることができるから。	1	0.2%
生で聞くと音の高さとかがすごかったから。	1	0.2%
聴いたらもっと好きになったから。	1	0.2%
(心地良くて) 眠たくなるから。	1	0.2%
消極的な意見		
演奏の時間が長いから。	4	0.8%
もともと興味がないから。	2	0.4%
(聴いてみてすごかったけど、) 途中から飽きちゃったから。	2	0.4%
音楽はやるのは好きだけど聴くのはあまり好きではないから。	2	0.4%
色々な音楽が出てきたり、楽器が多くてわからなくなったりしたから。	1	0.2%
座るのが疲れたから。	1	0.2%
(迫力があってすごいと思ったけど、) 少し難しいところがあったから。	1	0.2%
音が大きくて、ちょっと苦手だから。	1	0.2%
意味が分からなかったから。	1	0.2%
(音楽を聴いてすごいと思ったけど、) 好きにはならなかった。	1	0.2%
キーみたいな音がしたから。	1	0.2%
無回答	206	44.4%
合計	464	99.5%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)

表 20 学校公演におけるアンケート結果（子ども・クロス集計）

学年とコンサートを聴く前との関係性（Q.1 と Q.4）

6 月、9～11 月（公演形態①、③～⑥）

学年 \ 聴く前	①すき	②まあすき	③ふつう	④あまりすきではない	⑤きらい	⑥その他（わからない）	無回答	合計
低学年	450(44.6%)	208(20.6%)	257(25.4%)	39(3.9%)	17(1.7%)	7(0.7%)	32(3.2%)	1,010(100.1%)
高学年	391(26.0%)	376(25.0%)	602(40.0%)	86(5.7%)	17(1.1%)	10(0.7%)	21(1.4%)	1,504(99.9%)
合計	841(33.5%)	584(23.2%)	859(34.2%)	125(5.0%)	34(1.4%)	17(0.7%)	53(2.1%)	2,514(100.1%)

学年とコンサートを聴いた後との関係性（Q.1 と Q.5）

6 月、9～11 月（公演形態①、③～⑥）

学年 \ 聴いた後	①もっとすきになった	②すきになった	③かわらない	④きらいになった	⑤もつときらいになった	⑥よくわからない	無回答	合計
低学年	453(44.9%)	303(30.0%)	155(15.3%)	2(0.2%)	6(0.6%)	53(5.2%)	38(3.8%)	1,010(100.0%)
高学年	472(31.4%)	674(44.8%)	295(19.6%)	9(0.6%)	0(0.0%)	43(2.9%)	11(0.7%)	1,504(100.0%)
合計	925(36.8%)	977(38.9%)	450(17.9%)	11(0.4%)	6(0.2%)	96(3.8%)	49(1.9%)	2,514(99.9%)

学年と今後の鑑賞との関係性（Q.1 と Q.6）

6 月、9～11 月（公演形態①、③～⑥）

学年 \ 鑑賞	①（毎日ききたい）	②（時々ききたい）	③（たまにきいてみたい）	④（あまりききたくない）	⑤（ききたくない）	⑥（わからない）	無回答	合計
低学年	316(31.3%)	351(34.8%)	225(22.3%)	26(2.6%)	18(1.8%)	38(3.8%)	36(3.6%)	1,010(100.0%)
高学年	245(16.3%)	620(41.2%)	530(35.2%)	26(1.7%)	9(0.6%)	55(3.7%)	19(1.3%)	1,504(100.0%)
合計	561(22.3%)	971(38.6%)	755(30.0%)	52(2.1%)	27(1.1%)	93(3.7%)	55(2.2%)	2,514(100.0%)

音楽の授業とコンサートを聴く前との関係性（Q.2 と Q.4）

6 月、9～11 月（公演形態①、③～⑥）

授業 \ 聴く前	①すき	②まあすき	③ふつう	④あまりすきではない	⑤きらい	⑥その他（わからない）	無回答	合計
①（すき）	690(50.3%)	314(22.9%)	306(22.3%)	24(1.7%)	7(0.5%)	0(0.0%)	32(2.3%)	1,373(100.0%)
②（ふつう）	123(13.0%)	240(25.3%)	474(50.1%)	73(7.7%)	11(1.2%)	2(0.2%)	24(2.5%)	947(100.0%)
③（きらい）	5(6.5%)	9(11.7%)	24(31.2%)	18(23.4%)	16(20.8%)	1(1.3%)	4(5.2%)	77(100.1%)
④（むずかしい）	15(16.3%)	19(20.7%)	45(48.9%)	9(9.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(4.3%)	92(100.0%)
⑤（そのほか）	2(28.6%)	1(14.3%)	3(42.9%)	1(14.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(100.1%)
無回答	6(33.3%)	1(5.6%)	7(38.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(22.2%)	18(100.0%)
合計	841(33.5%)	584(23.2%)	859(34.2%)	125(5.0%)	34(1.4%)	3(0.1%)	68(2.7%)	2,514(100.1%)

音楽の授業とコンサートを聴いた後との関係性（Q.2 と Q.5）

6 月、9～11 月（公演形態①、③～⑥）

授業 \ 聴いた後	①もっとすきになった	②すきになった	③かわらない	④きらいになった	⑤もつときらいになった	⑥よくわからない	無回答	合計
①（すき）	736(53.6%)	470(34.2%)	103(7.5%)	2(0.1%)	2(0.1%)	33(2.4%)	27(2.0%)	1,373(99.9%)
②（ふつう）	150(15.8%)	454(47.9%)	285(30.1%)	2(0.2%)	0(0.0%)	41(4.3%)	15(1.6%)	947(99.9%)
③（きらい）	10(13.0%)	16(20.8%)	32(41.6%)	5(6.5%)	3(3.9%)	10(13.0%)	1(1.3%)	77(100.1%)
④（むずかしい）	20(21.7%)	30(32.6%)	27(29.3%)	2(2.2%)	1(1.1%)	9(9.8%)	3(3.3%)	92(100.0%)
⑤（そのほか）	1(14.3%)	2(28.6%)	1(14.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(28.6%)	1(14.3%)	7(100.1%)
無回答	8(44.4%)	5(27.8%)	2(11.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(5.6%)	2(11.1%)	18(100.0%)
合計	925(36.8%)	977(38.9%)	450(17.9%)	11(0.4%)	6(0.2%)	96(3.8%)	49(1.9%)	2,514(99.9%)

音楽の授業と今後の鑑賞との関係性 (Q.2 と Q.6)

6 月、9～11 月 (公演形態①、③～⑥)

授業	鑑賞	①(毎日ききたい)	②(時々ききたい)	③(たまにきいてみたい)	④(あまりききたくない)	⑤(ききたくない)	⑥(わからない)	無回答	合計
①(すき)		437(31.8%)	575(41.9%)	298(21.7%)	10(0.7%)	6(0.4%)	21(1.5%)	26(1.9%)	1,373(99.9%)
②(ふつう)		102(10.8%)	356(37.6%)	388(41.0%)	24(2.5%)	8(0.8%)	51(5.4%)	18(1.9%)	947(100.0%)
③(きらい)		5(6.5%)	8(10.4%)	30(39.0%)	11(14.3%)	11(14.3%)	9(11.7%)	3(3.9%)	77(100.1%)
④(むずかしい)		13(14.1%)	24(26.1%)	35(38.0%)	6(6.5%)	2(2.2%)	10(10.9%)	2(2.2%)	92(100.0%)
⑤(そのほか)		0(0.0%)	4(57.1%)	2(28.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(14.3%)	0(0.0%)	7(100.0%)
無回答		4(22.2%)	4(22.2%)	2(11.1%)	1(5.6%)	0(0.0%)	1(5.6%)	6(33.3%)	18(100.0%)
合計		561(22.3%)	971(38.6%)	755(30.0%)	52(2.1%)	27(1.1%)	93(3.7%)	55(2.2%)	2,514(100.0%)

コンサートを聴く前と聴いた後との関係性 (Q.4 と Q.5)

6 月、9～11 月 (公演形態①、③～⑥)

聴く前	聴いた後	①もっとすきになった	②すきになった	③かわらない	④きらいになった	⑤もつときらいになった	⑥よくわからない	無回答	合計
①すき		615(73.1%)	174(20.7%)	29(3.4%)	0(0.0%)	1(0.1%)	10(1.2%)	12(1.4%)	841(99.9%)
②まあすき		227(38.9%)	251(43.0%)	80(13.7%)	1(0.2%)	1(0.2%)	15(2.6%)	9(1.5%)	584(100.1%)
③ふつう		58(6.8%)	485(56.5%)	263(30.6%)	4(0.5%)	1(0.1%)	40(4.7%)	8(0.9%)	859(100.1%)
④あまりすきではない		6(4.8%)	49(39.2%)	52(41.6%)	3(2.4%)	0(0.0%)	15(12.0%)	0(0.0%)	125(100.0%)
⑤きらい		1(2.9%)	2(5.9%)	16(47.1%)	1(2.9%)	3(8.8%)	9(26.5%)	0(0.0%)	34(100.1%)
⑥その他(よくわからない)		0(0.0%)	1(33.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(66.7%)	0(0.0%)	3(100.0%)
無回答		18(26.5%)	15(22.1%)	10(14.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	5(7.4%)	20(29.4%)	68(100.1%)
合計		925(36.8%)	977(38.9%)	450(17.9%)	11(0.4%)	6(0.2%)	96(3.8%)	49(1.9%)	2,514(99.9%)

※割合は小数点第 2 位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)

図 21 学校公演で使ったアンケート用紙（教員用）

アンケート（シンフォニエッタ 静岡）
（学校公演 3/5 先生用）

オーケストラによる音楽教育プログラムについて調査・研究を行っております。ご協力をお願いします。

◆先生ご自身のことをお尋ねします。

Q.1 年齢 30 歳以下 31～40 歳 41～50 歳 51～60 歳 61 歳以上
性別 男・女 ご専門の教科 _____

Q.2 クラシック音楽は好きですか。
①好き ②嫌い ③どちらでもない ④あまり得意ではない ⑤その他（ ）
その理由をお教えてください。

Q.3 これまでに音楽教室等で、音楽の習い事したことがありますか。（音楽のジャンルは問いません）
①はい（楽器名 等 _____） ②いいえ

Q.4 学校の部活やサークルで音楽の経験はありますか。（音楽のジャンルは問いません）
①はい（ジャンルと楽器等 _____） ②いいえ

Q.5 ご自身が子どもの頃、学校でクラシック音楽の音楽鑑賞教室はありましたか。
①あった（幼稚園、小学校、中学校、高校） ②なかった ③覚えていない

Q.5-2 「あった」場合、お住まいの地域はどこでしたか
（ _____ 市 区 町 村 _____ 都 道 府 県・静岡県）
（ _____ 市 区 町 村 _____ 都 道 府 県・静岡県）

Q.5-3 鑑賞した団体名を覚えていましたらお書き下さい。
（ _____ ）

◆生徒さんについてお尋ねします。

Q.6 本日の公演を鑑賞して、オーケストラやクラシック音楽に興味を持つ子供が増えたと思われますか。または、今後増えると思われますか。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない

Q.7 今後も学校において、音楽や演劇等による芸術鑑賞教室は必要だと思いますか。
①必要 ②不要 ③どちらともいえない

Q.7-2 「必要」の場合、どのようなジャンルが相応しいとお考えですか。
①クラシック音楽 ②ジャズ ③ポップス ④日本の伝統音楽 ⑤世界の民俗音楽
⑥演劇 ⑦ダンス ⑧その他（ _____ ）

Q.7-3 演奏団体は、①プロの演奏がよい ②アマチュアでもよい（プロでなくても構わない）
③その他（ _____ ）
その理由（ _____ ）

Q.7-4 頻度はどの程度が適度だと思いますか。
①年に 1 回 ②年に 2～3 回 ③2 年に 1 回 ④その他（ _____ ）

Q.8 今日のコンサートの感想をお書きください。（例：日頃と違う生徒さんの反応、演奏に対して 等）

ご協力ありがとうございました。

表 21-1 学校公演におけるアンケート結果（教員・単純集計）

6 月、9～11 月（公演形態①、③～⑥）

Q.2 クラシック音楽は好きですか。理由（のべ人数）

①好き	90	68.2%	積極的な意見		
②嫌い	1	0.8%	心が落ち着くから（気持ちが良くなるから、楽しいから）。	29	20.9%
③どちらでもない	32	24.2%	楽器をやっている（た）から。	7	5.0%
④あまり得意ではない	6	4.5%	美しいから。	4	2.9%
⑤その他	0	0.0%	小さい頃から慣れ親しんでいたから。	2	1.4%
無回答	3	2.3%	邪魔にならないから（作業用BGMにもなるから）。	2	1.4%
合計	132	100.0%	よく（たまに）聴くから。	2	1.4%
			強弱が明確だから。	1	0.7%
			知っている曲は興味を持つことができるから。	1	0.7%
			ジャンルに好き嫌いを無くそうとしているから。	1	0.7%
			TVで聴くようになったから。	1	0.7%
			マンガを読んで、クラシックの深さを感じたから。	1	0.7%
			聴く度に感じ方が違って、とてもおもしろいから。	1	0.7%
			音楽全般好きだから。	1	0.7%
			特別な雰囲気を味わえるから。	1	0.7%
			消極的な意見		
			聴く機会が少ないから。	15	10.8%
			音楽の習い事をしていなかったので、難しいイメージだから。	1	0.7%
			音楽（歌・楽器）が苦手だから。	1	0.7%
			好きな音楽のジャンルではないから。	1	0.7%
			無回答	67	48.2%
			合計	139	99.7%

Q.5 ご自身が子どもの頃、学校でクラシック音楽の音楽鑑賞教室はありましたか。

①あった	51	38.6%
②なかった	34	25.8%
③覚えていない	47	35.6%
無回答	0	0.0%
合計	132	100.0%

Q.6 オーケストラやクラシック音楽に興味を持った子どもたちが増えたと思われますか。

①はい	105	79.5%
②いいえ	1	0.8%
③どちらともいえない	22	16.7%
無回答	4	3.0%
合計	132	100.0%

Q.7 今後も学校において、このような鑑賞教室は必要だと思われますか。

①必要	125	94.7%
②不要	1	0.8%
③どちらともいえない	4	3.0%
無回答	2	1.5%
合計	132	100.0%

Q.7-3 演奏団体はどのような団体が良いですか。（のべ人数）

①プロの演奏がよい	73	51.8%
②アマチュアでもよい（プロでなくても構わない）	52	36.9%
③どちらでもよい	10	7.1%
無回答	6	4.3%
合計	141	100.1%

Q.7-4 頻度はどの程度が適度だと思いますか。

①年に1回	100	75.8%
②年に2～3回	21	15.9%
③2年に1回	7	5.3%
④その他	1（多ければ多いほどよい）	0.8%
無回答	3	2.3%
合計	132	100.1%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
（アンケートの集計結果より筆者作成）

表 21-2 教員による感想（月別・単純集計）

Q.8 今日のコンサートの感想をお書きください。（のべ人数、学校代表含む）

6 月（公演形態①）

積極的な意見		
常日頃に触れ合うことのできない生の演奏に（間近で）触れ合うことができ、子どもたちにとって良い刺激だったと思う。	22	23.9%
真剣に静かに聞いている子が多かった。（前のめりになって、）興味が高かったようだ。	11	12.0%
解説やお話があつてよかった、わかりやすかった（児童も楽しめたと思う）。	4	4.3%
心がおちついた。	3	3.3%
子どもたちが予想よりも、いきいきと聞いていてうれしかった。	3	3.3%
美しい音楽を聴くことができてよかった（音が素敵だった）。	3	3.3%
音楽の授業でも学ぶことが出てきたので、とても生きた学びになったと思う。	3	3.3%
実際に楽器がどのような音を出しているのかを目に出来て、興味深かったようだ。	2	2.2%
1年生はよくわからないようだったが、はじめての音楽をきいて、こういう音楽もあるんだとわかったようだ。	2	2.2%
プロの演奏が聴けてよかった。	2	2.2%
絵で何か様子が想像できたのでそういう工夫がわかりやすかった。	2	2.2%
これだけの人数の方が来てくれることはあまりないので、良い機会になったと思う。	2	2.2%
いろいろな楽器の紹介、なじみのある曲、そうでない曲、様々な音楽に触れることができ、大変良かった。	2	2.2%
楽器の紹介や知っている曲に特に興味をもってきいていた。	2	2.2%
とてもすてきな音楽で、子どもたちが聞き入っていた。	2	2.2%
身体を動かして聞いている子がいた。	1	1.1%
楽しく聞けた。	1	1.1%
真剣に聞けた。	1	1.1%
普段見ない楽器に目を輝かせていた。	1	1.1%
熱心に床に手をつけたり、おしりをつけたりしてきく姿が見られ、よかった。	1	1.1%
「楽しかった」という声がかかれたので、子どもにより刺激になったと思う。	1	1.1%
教室に戻ってからクラシック音楽の話題をしていた子たちがいた。	1	1.1%
指揮に興味がある子がいた。	1	1.1%
ハーブの説明をしていたお兄さんの口調や話の仕方が明るくて、演奏とのメリハリがあつて集中が続いたと思う。	1	1.1%
聴いたことのある音楽もあつてよかった。	1	1.1%
「演奏している姿がかっこいい」と話していた子がいた。	1	1.1%
好きな子は好きみたい。	1	1.1%
ありがとうございました。	1	1.1%
消極的な意見		
休みなく1時間の間静かに姿勢良く聴き続けることは難しいと思った（特に低学年）。	3	3.3%
レベルが高くて勉強になる一方、ついていけなくなる子もいて、色々な曲がもっと聞けるとよい。	1	1.1%
（水泳の後のため、）眠くなった子もいた。	1	1.1%
少し水分補給の時間や、子どもたちへの問いかけ（クイズ等）、体験があると上手に聞けると思った。	1	1.1%
クラシックも良いが、低学年の子でもたまに親しみやすい楽曲もあればよかった。	1	1.1%
保護者も聴きに来て良いようにするとなお良い。	1	1.1%
無回答		
合計	92	100.6%

9・11月（公演形態③）

積極的な意見		
本物のオーケストラの演奏を聴く機会を子どもたちも持てたことは、価値あることだと思う。	7	12.5%
心地良い素晴らしい演奏だった。	6	10.7%
子どもたちにもわかりやすく楽器の紹介をしてもらったので、目を輝かせていた。	3	5.4%
音が美しくよかった。	2	3.6%
本物の（生の）音楽が聴けてよかった。	2	3.6%
間近で演奏を聴けて貴重だった。	2	3.6%
子どもたちがとても静かに鑑賞していて聞き入っているようだった。	2	3.6%
1つ1つの楽器に興味を持って音楽を楽しんでいる様子が見られた。	2	3.6%
良い機会だった。	2	3.6%
今後も頑張ってもらいたい。	2	3.6%
プロの演奏で良かった。	1	1.8%
子どもの心に響く演奏だった。	1	1.8%
なかなか聴く機会がなかったので良かった。	1	1.8%
楽器紹介が良かった。	1	1.8%
ピチカートが心地良かった。	1	1.8%
低学年の子どもたちでも、終了後に楽器をやってみたくて教えてくれた。	1	1.8%
教科書に載っている曲はとても反応が良かった。	1	1.8%
日常と異なる空間だった。	1	1.8%
曲構成や聴き方、チューニング等、演奏だけでないプラスアルファのところは特に楽しかった。	1	1.8%
このように生の演奏を間近で見る機会と環境を出来るだけ多く作ってあげられれば良い。	1	1.8%
弦楽の繊細な響きに心が震えた。	1	1.8%
クラシックを軸に演奏するのも大変良いと感じる。	1	1.8%
息を合わせて音を作っている様子を見ることができてよかった。	1	1.8%
生の音で生まれる空気の透明感や振動、圧などを感じ取れる子になってほしいと願っている。	1	1.8%
体育館がホールのような響きで鳥肌が立った。	1	1.8%
子どもが曲に合わせて、指揮をしている姿がとても印象に残りました。	1	1.8%
消極的な意見		
長くて飽きていた子もいたようだ。	2	3.6%
参加にあたっては年齢等考慮する必要があると思った。	2	3.6%
（長時間は無理なので、）短い曲をたくさんやってほしい。	1	1.8%
子どもも知っているポピュラーな曲を入れてもらえるとありがたい。	1	1.8%
無回答	4	7.1%
合計	56	100.5%

10 月（公演形態④～⑥）

積極的な意見		
本格的なクラシック音楽を生で聞けてよかった（ありがたかった）。	15	19.5%
目の前での鑑賞は迫力があり、子どもが引きつけられていた。	7	9.1%
普段なかなか経験することがないのでよかった。	6	7.8%
曲調によっては、子どもたちが身体を揺らしてリズムをとっているのがよかった。	5	6.5%
楽器紹介に興味を持ったようだった。	3	3.9%
楽器や音楽の説明が良かった。	3	3.9%
近距離で聴けたため、音の響きや重なりなどを良く味わい感じ取ることができた。	2	2.6%
子どもたちもすごかった、楽しかったと言っていた。	2	2.6%
指揮と音楽が魔法みたいだった（生徒もそう言っていた）。	2	2.6%
指揮の真似をしている子どもがいた。	2	2.6%
知っている曲の時、子どもたちがノリノリだった。	2	2.6%
定期的に来てほしいと思った。	1	1.3%
音色が良かった。	1	1.3%
耳にしたことのある音楽が生できける新鮮さがあったと思う。	1	1.3%
演奏者が全身で演奏していることが子どもたちにもよくわかったと思う。	1	1.3%
横からオーケストラを見ることが出来て良かった。クラシック、ポップス、両方が聴けて興味が湧いた子もいた。	1	1.3%
心が洗われた。	1	1.3%
子どもたちも興味を持ったと思う。	1	1.3%
子どもたちの感性が豊かになると思う。	1	1.3%
子どもが心地良かったみたいだ。	1	1.3%
とても楽しみにしていた子が多かった。	1	1.3%
規模としてはちょうど良かった。	1	1.3%
普段ふれることの少ないジャンルの曲を実際に聴くことができ、CDでの鑑賞とはまったく違う反応を見ることができた。	1	1.3%
音楽という分野で一生懸命活動して輝いている大人の姿を間近で見ること、子どもたちの将来の夢の幅が広がったと思う。	1	1.3%
どの音楽の分野でも、「盛り上がる曲」は、子どもたちは好きだと思った。	1	1.3%
音の広がり、深まり、ヴァイオリンの切ない音色など、子どもたちにも違いがわかっていた。	1	1.3%
（交響曲を）1～4楽章まで通して聴かせていただくことが貴重な体験になった。自分なりにストーリーをもっていくことができたようだった。	1	1.3%
音の響きが身体に伝わる。コンサートっていいなと思った。	1	1.3%
弦楽器がたくさんあって、いわゆる中学の吹奏楽とは違う演奏で楽しめた。	1	1.3%
消極的な意見		
聴いたことのない音楽のとき、動いている子がいて、演奏者の方に申し訳なかった（特に低学年、長かった）。	5	6.5%
ゆったりした曲が多かったので、軽快な音楽を多く入れるとよいと思った。	1	1.3%
クラシックは地域差もあると思うが、興味のない子が多いと思う。	1	1.3%
無回答	3	3.9%
合計	77	100.1%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
（アンケートの集計結果より筆者作成）

図 22 学校公演で使ったアンケート用紙（保護者・地域住民用）

アンケート（シンフォニエッタ 静岡）
（学校公演 5/5 保護者・地域の方）

アンケートにご協力をお願いします。

◆ご自身についてお尋ねします。

Q.1 年齢 20歳以下 21～30歳 31～40歳 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71～80歳 81歳以上

Q.2 性別 男・女

Q.3 この学校の学区のご出身ですか。
①この学校の学区 ②市内の他の学区（ 小学校区） ③市外（静岡県内） ④県外

Q.4 これまでに音楽教室などで、音楽の習い事したことがありますか。（音楽のジャンルは問いません）
①はい（楽器名 等 ） ②いいえ

Q.5 学校の部活やサークルで音楽の経験はありますか。（音楽のジャンルは問いません）
①はい（小学校・中学校・高校・大学・その他 ） ②いいえ
（楽器等 ）

Q.6 ご自身が学生の頃、学校でクラシック音楽の鑑賞教室がありましたか。
①あった（小学校・中学校・高校 計 回） ②なかった ③覚えていない

Q.7 これまでにコンサートホール（文化会館、市民会館等）でのクラシック音楽のコンサートに行ったことはありますか。 ①はい（年に 回くらい／今までに 回くらい） ②いいえ

Q.8 この学校にお子さんやお孫さんが通っていますか。
①はい（以下の質問にもお答えください） ②いいえ（Q.9へ）

Q.8-2 年生 男・女 年生 男・女 年生 男・女

Q.8-3 楽器や歌など、音楽に関する習い事をしていますか。（音楽のジャンルは問いません）
①はい ②いいえ
「はい」の場合（ピアノ・エレクトーン・ヴァイオリン・ギター、ソルフェージュ、
ヴォーカル、民謡、その他 ）

Q.9 今日はどのような理由でこの公演にいらっしゃいましたか。
①子・孫がいるから ②近所だから ③その他（ ）

Q.10 今後クラシック音楽のコンサートがある場合、また行きたいと思いますか。
①はい（以下の質問にもお答えください）
②いいえ（その理由 近くでコンサートがないから・近くにコンサートをする会場がないから
興味がないから・その他 ）

Q.10-2 どのようなコンサートに行きたいですか。
①子供向け・親子で楽しめるコンサートに行きたい ②大人だけで楽しめるコンサートに行きたい
③その他（ ）

Q.10-3 入場料はいくらくらいまでがよいですか。
おとな 無料・1,000円まで・2,000円まで・3,000円まで・5,000円まで・5,000円以上
子ども 無料・1,000円まで・2,000円まで・3,000円まで・5,000円まで・5,000円以上

Q.11 本日の公演について感想があれば自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

表 22-1 学校公演におけるアンケート結果（保護者地域住民・単純集計）

9～11 月（公演形態③～⑥）

Q.6 ご自身が学生の頃、学校でクラシック音楽の鑑賞教室がありましたか。

①あった	38	28.1%
②なかった	68	50.4%
③覚えていない	26	19.3%
無回答	3	2.2%
合計	135	100.0%

Q.7 これまでにコンサートホール（文化会館、市民会館等）でのクラシック音楽のコンサートに行ったことはありますか。

①はい	67	49.6%
②いいえ	64	47.4%
無回答	4	3.0%
合計	135	100.0%

Q.10 今後クラシック音楽のコンサートがある場合、また行きたいと思いますか。

①はい	129	95.6%
②いいえ	3	2.2%
無回答	3	2.2%
合計	135	100.0%

Q.10-2 どのようなコンサートに行きたいですか。（のべ人数）

①子供向け・親子で楽しめるコンサートに行きたい	86	58.1%
②大人だけで楽しめるコンサートに行きたい	47	31.8%
③その他	9	6.1%
無回答	6	4.1%
合計	148	100.1%

表 22-2 保護者・地域住民による感想（月別・単純集計）

Q.11 本日の公演について感想があれば自由にお書きください。（のべ人数）

9・11 月（公演形態③）

積極的な意見		
生のオーケストラの演奏が間近で聴け、貴重な機会だった。	28	16.6%
素晴らしい演奏だった。	14	8.3%
監督の説明がわかりやすかった（色々知ることができた。）	11	6.5%
子どもたちにとって良い思い出が出来たと思う。	9	5.3%
これからも聴きたいと思った。	8	4.7%
心地良かった。	7	4.1%
感動した。	7	4.1%
音色がよかった。	4	2.4%
素敵な時間だった。	4	2.4%
とても楽しい（良い）公演だった。	3	1.8%
体育館の響きがとても良かった。	3	1.8%
また来てほしい（また機会があると良い）。	3	1.8%
（気軽に）楽しめた。	3	1.8%
ひとつひとつの楽器も素晴らしい音でそれが一つになって鳥肌が立った。	3	1.8%
団員の雰囲気フレンドリーだった。	2	1.2%
（気軽に）楽しめた。	2	1.2%
曲を演奏前にパートごとの動きを説明してくれたのは他の音楽教室ではなく良いやり方だと思った。	2	1.2%
久しぶりに涙が出た。	1	0.6%
楽器紹介が良かった。	1	0.6%
チェロのアクロバットがすごい。	1	0.6%
蒸し暑いなか集中してプロの演奏を聴かせてもらいありがたかった。	1	0.6%
楽器1つ1つがとても大事だと思った。	1	0.6%
アイネクライネナハトムジークの演奏が始まったときの子どもたちの「はっ」とした顔がすごくよかった。	1	0.6%
子どもたちにも本物のすごさが伝わったと思う。	1	0.6%
音楽にはすごく興味がある。	1	0.6%
スメタナのモルダウをいつか聴きたい。	1	0.6%
子どもたちが聴ける機会がもっと増えるとよい。	1	0.6%
これからもすばらしい演奏を届けてほしい。	1	0.6%
楽器に直接触れる機会があるとよい。	1	0.6%

終わり方が素敵だった。	1	0.6%
色々な楽器を見て聴くことができてよかった。	1	0.6%
音の広がりや厚みがよかった。	1	0.6%
演出が楽しくてよかった。	1	0.6%
子どもたちも興味を持ったようだった。	1	0.6%
人間形成に非常に大切なので、開催してくれて感謝している。	1	0.6%
自身がオケのメンバーとして仕事をしており、学校まわりの取り組み方、曲選考など参考になった。	1	0.6%
両親がプロオケメンバーなので、小さい頃からオーケストラが好きである。	1	0.6%
モーツァルトの40番は若い頃よく聴いていたので懐かしかった。	1	0.6%
最初のヴァイオリンの音がとても優しかった。	1	0.6%
弦で弾くのと指ではじくのと音の出方が全く違いおもしろい。	1	0.6%
ヴァイオリンを弾いてみたいなどちょっとだけ思った。	1	0.6%
今日のようなコンサートなら行きやすい。	1	0.6%
自分の子どもにも何か楽器をやらせてみたいと思った。	1	0.6%
消極的な意見		
長い曲だと子どもたちが飽きてしまうと思うので、有名な短い曲が多いと良い。	1	0.6%
無回答		
合計	28	16.6%
	169	99.8%

10月（公演形態④～⑥）

積極的な意見		
オーケストラを生で聴くことはなかなかできないので、貴重な時間となった（生の音を聴けて良かった）。	10	9.8%
身近（間近）で楽しめて良かった。	9	8.8%
指揮者も演奏者もからだ全体で音を作り、真剣な顔だったり表情が豊かだったりでとても素晴らしかった。	7	6.9%
素晴らしい演奏だった。	6	5.9%
楽器や音楽の説明があったので、よかった（わかりやすかった、勉強になった）。	6	5.9%
また機会があれば聴きに行きたい。	5	4.9%
感動した。	5	4.9%
心地良かった。	4	3.9%
身近に触れること、特に小さい時に生で聞けることができるのは、とても良い。	4	3.9%
子ども、大人共、良い経験ができた。	4	3.9%
気軽に來ることができた。学校で聴けて良かった。	3	2.9%
楽しかった。	3	2.9%
強弱や迫力があった。	3	2.9%
子どもと演奏者の一体感がよかった、休憩時間に楽器に関心を示していた（コントラバスなど演奏者と音を出していた、楽器に触れることが出来て良かった）。	2	2.0%
初めてオーケストラを鑑賞した。	2	2.0%
これからもすてきな演奏をしてほしい。	2	2.0%
吸い込まれてよってしまいそうだった。	1	1.0%
子どもたちの表情が（前のめりになって聴いていて）よかった。	1	1.0%
子どもが中学で吹奏楽部に入ろうか悩んでいるので、良いきっかけになったと思う。	1	1.0%
客席から舞台を見上げるのと違った雰囲気良かった。	1	1.0%
音がきれいだった。	1	1.0%
前半のヴァイオリンのサービスがよかった。	1	1.0%
指揮者はまるで魔法使いのようだった。	1	1.0%
小さい頃ピアノを習っていた頃を思い出した。	1	1.0%
ヴァイオリンなどの弦楽器がこんなに細かい音が出ることに驚いた。	1	1.0%
小さな学校に来てくれてありがたかった。	1	1.0%
それぞれの楽器の主となる曲をひいてくれて、楽しく聴けた。	1	1.0%
無回答		
合計	16	15.7%
	102	100.2%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)

図 23 未就学児コンサートで使用したアンケート用紙（保護者用、コンサートのみ）

本日の公演は、静岡県の事業として実施されています。

今後も子供たちにより良い音楽を届けることが出来るよう、アンケートにご協力をお願いします。

◆本日より一緒に会場へお越しになっているお子様についてお尋ねします。

Q.1 年齢と性別 ____歳 男・女 ____歳 男・女 ____歳 男・女

Q.2 楽器をはじめ音楽に関する習い事していますか。（音楽のジャンルは問いません）

①はい（ピアノ・エレクトーン・ヴァイオリン・ギター、ソルフェージュ、ヴォーカル、民謡、
その他_____）

②いいえ

◆保護者ご自身についてお尋ねします。

Q.3 性別 ①男 ②女

Q.4 年齢 20歳以下 21～30歳 31～40歳 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71～80歳 81歳以上

Q.5 これまで音楽の習い事したことがありますか。（音楽のジャンルは問いません）

①はい（楽器名_____）

習った期間 _____年 _____か月間くらい _____年 _____か月間くらい

②いいえ

Q.6 学校の部活やサークルで音楽の経験はありますか。（音楽のジャンルは問いません）

①はい（小学校・中学校・高校・大学・その他（_____））

（楽器等_____）

②いいえ

Q.7 ご自身が学生の頃、学校でクラシック音楽の鑑賞教室はありましたか。

①あった（小学校・中学校・高校 計 _____回） ②なかった ③覚えていない

Q.7-2 「あった」場合、どこですか _____都道府県 _____区市町村

Q.7-3 演奏団体名を覚えていればお書きください。 _____

Q.8 これまでにコンサートホール（文化会館、市民会館等）でのクラシック音楽のコンサートに行っ
たことはありますか。

①はい（年に_____回、または 今までに_____回くらい） ②今回が初めて

◆本日の公演についておきかせください。

Q.9 この公演を何で知りましたか。

①ポスター・チラシ ②友人・知人から ③その他（_____）

裏面に続きます。

- Q.10 このコンサートに来ようと思った理由は何ですか。(複数回答可)
- ①乳幼児を連れて行っても良いから ②子どもに聴かせたいから
③もともとクラシック音楽が好きだから(自分が聴きたいと思ったから)
④公演内容に興味があったから ⑤無料だったから ⑦近所だから
⑧シンフォニエッタ静岡のコンサートだから ⑨ふくちゃん・みみちゃんがかわいいから
⑩その他()
- Q.11 本日の公演時間についてお聞かせください。
- ①長い → (何分くらいが良いですか。 時間 分) ②ちょうどよい
③短い → (何分くらいが良いですか。 時間 分)
- Q.12 本日の公演で良かったと感じたものは何ですか。(複数回答可)。
- ①演奏曲目 → どの曲目が良かったですか。(イベール「モーツァルトへのオマージュ」、
モーツァルト「交響曲第35番」、ラヴェル「マ・メール・ロワ」)
②楽器紹介 ③指揮者のお話 ④オーケストラの演奏者
⑤その他()
- Q.13 今日の演奏を聴いて、お子様はクラシック音楽が以前より好きになったと思えますか。
- ①より好きになった ②好きになった ③嫌いになった ④より嫌いになった ⑤わからない
(理由:)
- Q.14 今後もお子様はクラシック音楽を聴かせたいと思いますか。①はい ②いいえ
- Q.15 今後クラシック音楽のコンサートがある場合、また行きたいと思いますか。
- ①はい(以下の質問にもお答えください) ②いいえ(理由)
- Q.15-2 ①子ども向けのコンサートに行きたい ②大人だけで楽しめるコンサートに行きたい
③その他()
- Q.15-3 入場料はいくらくらいまでがよいですか。
無料・1,000円まで・2,000円まで・3,000円まで・5,000円まで・5,000円以上
その理由があればお書きください。
- Q.16 この公演について感想があればご自由にお書きください。
- Q.16-1 お子様の感想
- Q.16-2 保護者の方の感想

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

静岡県「子どもが文化と出会う機会創出事業」 シンフォニエッタ 静岡 0歳からのふくみコンサート (コンサート)

図 24 未就学児コンサートで使用したアンケート用紙(保護者用、ワークショップ参加者)

本日の公演は、静岡県の事業として実施されています。

今後子どもたちにより良い音楽を届けることが出来るよう、アンケートにご協力をお願いします。

◆本日より一緒に会場へお越しになっているお子様についてお尋ねします。

Q.1 年齢と性別 歳 男・女 歳 男・女 歳 男・女

Q.2 楽器をはじめ音楽に関する習い事していますか。(音楽のジャンルは問いません)

- ①はい(ピアノ・エレクトーン・ヴァイオリン・ギター、ソルフェージュ、ヴォーカル、民謡、
その他_____)
- ②いいえ

◆保護者ご自身についてお尋ねします。

Q.3 性別 ①男 ②女

Q.4 年齢 20歳以下 21～30歳 31～40歳 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71～80歳 81歳以上

Q.5 これまで音楽の習い事したことがありますか。(音楽のジャンルは問いません)

- ①はい(楽器名 _____ 習った期間 _____年 _____か月間くらい)
(楽器名 _____ 習った期間 _____年 _____か月間くらい)
- ②いいえ

Q.6 学校の部活やサークルで音楽の経験はありますか。(音楽のジャンルは問いません)

- ①はい(小学校・中学校・高校・大学・その他(_____))
(楽器等 _____)
- ②いいえ

Q.7 ご自身が学生の頃、学校でクラシック音楽の鑑賞教室はありましたか。

- ①あった(小学校・中学校・高校 計 _____回) ②なかった ③覚えていない

Q.7-2「あった」場合、どこですか _____都 道 府 県 _____区 市 町 村

Q.7-3 演奏団体名を覚えていればお書きください。 _____

Q.8 これまでにコンサートホール(文化会館、市民会館等)でのクラシック音楽のコンサートに行ったことはありますか。

- ①はい(年に _____回、または 今までに _____回くらい) ②今回が初めて

◆本日の公演についておきかせください。

Q.9 この公演を何で知りましたか。

- ①ポスター・チラシ ②友人・知人から ③その他(_____)

Q.10 このコンサートに来ようと思った理由は何ですか。(複数回答可)

- ①乳幼児を連れて行っても良いから ②子どもに聴かせたいから
③もともとクラシック音楽が好きだから(自分が聴きたいと思ったから)
④公演内容に興味があったから ⑤ワークショップに参加したかったから
⑥無料だったから ⑦近所だから ⑧シンフォニエッタ静岡のコンサートだから
⑨ふくちゃん・みみちゃんがかわいいから ⑩その他(_____)

裏面に続きます。

静岡県「子どもが文化と出会う機会創出事業」 シンフォニエッタ 静岡 0 歳からのよくみコンサート(ワークショップ)

- Q.11 本日の公演時間についてお聞かせください。
①長い → (何分くらいが良いですか。 _____ 時間 _____ 分) ②ちょうどよい
③短い → (何分くらいが良いですか。 _____ 時間 _____ 分)
- Q.12 本日の公演で良かったと感じたものは何ですか。(複数回答可)。
①演奏曲目 → どの曲目がよかったですか。(イベール「モーツァルトへのオマージュ」、
モーツァルト「交響曲第35番」、ラヴェル「マ・メール・ロワ」)
②楽器紹介 ③指揮者のお話 ④オーケストラの演奏者 ⑤ワークショップ
⑥その他 (_____)
- Q.13 ワークショップがあったことでお子様はコンサートがより楽しめましたか。
① はい ② よくわからない ③ いいえ
- Q.14 今日の演奏を聴いて、お子様はクラシック音楽が以前より好きになったと思われますか。
① より好きになった ② 好きになった ③ 嫌いになった ④ より嫌いになった ⑤ わからない
(理由: _____)
- Q.15 今後もお子様にクラシック音楽を聴かせたいと思いますか。 ① はい ② いいえ
- Q.16 今後クラシック音楽のコンサートがある場合、また行きたいと思いますか。
① はい (以下の質問にもお答えください) ② いいえ (理由 _____)
- Q.16-2 ①子ども向けのコンサートに行きたい②大人だけで楽しめるコンサートに行きたい
③その他 (_____)
- Q.16-3 入場料はいくらくらいまでがよいですか。
無料・1,000円まで・2,000円まで・3,000円まで・5,000円まで・5,000円以上
その理由があればお書きください。

Q.17 この公演について感想があればご自由にお書きください。

Q.17-1 お子様の感想

Q.17-2保護者の方の感想

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

静岡県「子どもが文化と出会う機会創出事業」 シンフォニエッタ 静岡 0歳からのふくみコンサート (ワークショップ)

表 23 未就学児コンサート（ふくみみコンサート）におけるアンケート結果（保護者・単
純集計、公演形態②）

Q.7 ご自身が学生の頃、学校でクラシック音楽の鑑賞教室はありましたか。

①あった	39	26.4%
②なかった	55	37.2%
③覚えていない	50	33.8%
無回答	4	2.7%
合計	148	100.1%

Q.8 これまでにコンサートホール（文化会館、市民会館等）でのクラシック音楽のコンサートに行ったことはありますか。

①行ったことがある	82	55.4%
②行ったことがない	55	37.2%
無回答	11	7.4%
合計	148	100.0%

Q.11 本日の公演時間についてお聞かせください。

①長い	16	10.8%
②ちょうど良い	106	71.6%
③短い	0	0.0%
無回答	26	17.6%
合計	148	100.0%

Q.12 本日の公演で良かったと感じたものは何ですか。（コンサートのみの参加者、のべ人数）

①演奏曲目（イベール）	14	5.6%
①演奏曲目（ラヴェル）	24	9.6%
①演奏曲目（モーツァルト）	19	7.6%
①演奏曲目	9	3.6%
②楽器紹介	81	32.4%
③指揮者のお話	39	15.6%
④オーケストラの演奏者	27	10.8%
⑥その他	2	0.8%
無回答	35	14.0%
合計	250	100.0%

Q.12 本日の公演で良かったと感じたものは何ですか。（ワークショップ参加者、のべ人数）

①演奏曲目（イベール）	1	4.0%
①演奏曲目（ラヴェル）	1	4.0%
①演奏曲目（モーツァルト）	2	8.0%
①演奏曲目	1	4.0%
②楽器紹介	5	20.0%
③指揮者のお話	4	16.0%
④オーケストラの演奏者	4	16.0%
⑤ワークショップ	3	12.0%
⑥その他	1	4.0%
無回答	3	12.0%
合計	25	100.0%

Q.13 ワークショップがあったことでお子様はコンサートがより楽しめましたか。

①はい	8	66.7%
②よくわからない	3	25.0%
③いいえ	0	0.0%
無回答	1	8.3%
合計	12	100.0%

Q.13（Q.14）今日の演奏を聴いて、お子様はクラシック音楽が以前より好きになったと思えますか。

①より好きになった	10	6.8%
②好きになった	35	23.6%
③嫌いになった	0	0.0%
④より嫌いになった	0	0.0%
⑤わからない	64	43.2%
無回答	39	26.4%
合計	148	100.0%

Q.13 (Q.14) 理由 (のべ人数)

積極的な意見		
音に反応して楽しそうだったから	3	2.0%
ずっと聴いていられたから	2	1.3%
楽器や音楽に興味を持っていた (興奮していた) から	2	1.3%
生演奏だったから	2	1.3%
次回も聴きたいと言っていたから	1	0.7%
はじめてクラシックを聴いてもらったから	1	0.7%
もともと好きだから	1	0.7%
聴いていて気持ちが良いから	1	0.7%
楽しかったから	1	0.7%
また聴きたいと思ったから	1	0.7%
勉強になる話もあったから	1	0.7%
いろいろな楽器を目の前に異なった音を聴き、新鮮だったようだから	1	0.7%
きれいな音がよかったと言っていたから	1	0.7%
消極的な意見		
寝ていたから	4	2.6%
まだ小さく、感想が言えないから	3	2.0%
しっかり聴いていないから	2	1.3%
知らない曲ばかりだったので少し飽きてしまったから	1	0.7%
まだ難しいから	1	0.7%
無回答	122	80.8%
合計	151	100.3%

Q.14 (Q.15) 今後もお子様にクラシック音楽を聴かせたいと思いますか。

①はい	125	84.5%
②いいえ	1	0.7%
無回答	22	14.9%
合計	148	100.1%

Q.15 (Q.16) 今後クラシック音楽のコンサートがある場合、また行きたいと思いますか。

①はい	129	87.2%
②いいえ	0	0.0%
無回答	19	12.8%
合計	148	100.0%

Q.16 (Q.17) この公演について感想があればご自由にお書きください。

<子ども (のべ人数) >

積極的な意見		
楽しかった (おもしろかった)。	8	7.5%
楽器紹介にくぎづけだった。	3	2.8%
色々な曲がきけてうれしかった。	2	1.9%
コントラバスのお兄さんがとても楽しかった。	2	1.9%
音がきれいだった。	2	1.9%
素敵だった (すばらしかった)。	2	1.9%
楽器がほしい。	1	0.9%
パンフレットの楽器と楽器紹介を照らし合わせてみるのが楽しかった。	1	0.9%
楽器演奏に興味を持った。	1	0.9%
最近覚えた拍手をいっぱい真似してパチパチしていた。	1	0.9%
はじめて見る楽器や音の強さに目を丸くし、楽しそうだった。	1	0.9%
普段聞くことがない音にふれることができ、楽しそうだった。	1	0.9%
良かった。	1	0.9%
美女と野獣 (マ・メール・ロワ) がよかった。	1	0.9%
良かったと思う。	1	0.9%

ワークショップがおもしろかった。	1	0.9%
ピタゴラスイッチの曲がうれしかった。	1	0.9%
はじめてのオーケストラをよく聴いていた。	1	0.9%
変なノリをしていた。	1	0.9%
ハーブを聴いて「おひめさまのがっき」と言っていた。	1	0.9%
音が大きいところはあんまりだったが、きれいなところはよかった。	1	0.9%
スマホで聴いたのより良かったと言っていた。	1	0.9%
プリंक・プランク・プルンクで、楽器をくるくるまわすところが、かっこよかった。	1	0.9%
最初「何だろう」と静かにじーっと見て聴いていた。	1	0.9%
リラックスしていた。	1	0.9%
消極的な意見		
眠かった（寝ていた）。	5	4.7%
楽しく聴いていることもあったが、知らない所は出歩いてしまっってゆっくり聴けなかった。	1	0.9%
さわいでいた。	1	0.9%
走り回っていた。	1	0.9%
大人向けの曲ばかりだったので、いつもより集中力がなかった。	1	0.9%
つまんない。	1	0.9%
シンバルがこわい。	1	0.9%
もう少し知っている音楽が良かった。	1	0.9%
少し長かった。	1	0.9%
あきてしまうところもあった。	1	0.9%
途中で寝てしまったが、音楽が流れると、“音音”言っていた。	1	0.9%
無回答	54	50.5%
合計	107	99.2%

<保護者（のべ人数）>

積極的な意見		
赤ちゃんも連れて行けるコンサート等はなかなかないので一緒に楽しめて嬉しかった。	17	7.9%
また行きたい。	15	6.9%
貴重な機会だった（久々に聴けて良かった）。	15	6.9%
（とても）よかった（素敵だった）。	10	4.6%
子ども向けということで、気軽にクラシックを聴けてよかった。	8	3.7%
生の演奏を聴けて良かった。	8	3.7%
（有料でも短い時間でも、）このような子どもと一緒に聴けるコンサートがもっと増えるといいと思った。	5	2.3%
（とても）楽しかった。	4	1.9%
癒やされた。	4	1.9%
本物の音楽を聴けてよかった。	3	1.3%
楽器紹介が良かった。	3	1.3%
ありがとうございました。	2	0.9%
本格的なオーケストラを聴けて良かった。	2	0.9%
近所でこのようなコンサートがあつてよかった。	2	0.9%
（これを機に）子どもが楽器に興味をもってくれるといい。	2	0.9%
楽器紹介などお話を交じてわかりやすかった。	1	0.5%
（市外から来たが、）このレベルなのに無料というのはうれしい。	1	0.5%
楽器紹介に知っている曲があつて良かった。	1	0.5%
大人も子どもも色々なことが知れて良かった。	1	0.5%
気分転換できてよかった。	1	0.5%

子どもも興味をもってきていた。	1	0.5%
迫力があり、音の広がりも感じられてとても良かった。	1	0.5%
とても有意義な時間だった。	1	0.5%
はじめてのクラシックが子どもたちの心に響いたと思う。	1	0.5%
無料でなくても、格安でたくさん行きたい。	1	0.5%
ずっと聴いていたい。	1	0.5%
自分が一番感動して涙した。	1	0.5%
楽器の紹介もあり、楽しかった。	1	0.5%
子ども向けの曲ではなく、クラシックの曲を十分に楽しませてもらった。	1	0.5%
子どもに正面から向き合ってもらい、その思いが子どもにもちゃんと伝わっていると思う。	1	0.5%
オーケストラのイメージが身近なものになった気がする。	1	0.5%
楽器紹介の後に聴くと、楽しみ方が広がった。	1	0.5%
初めてオーケストラを子どもに見せられてよかった。	1	0.5%
騒がしかったのに、演奏者が集中していてすごいと思った。	1	0.5%
子どもには大変だったが、これからも継続して聴かせていきたいと思った。	1	0.5%
選曲がよかった。	1	0.5%
コントラバスの人がおもしろかった。	1	0.5%
ワークショップは、（参加していないが）そのようなことも実施するのは良いことだと思う。	1	0.5%
無料で聴けてうれしかった。	1	0.5%
間近で見れてよかった。	1	0.5%
ワークショップで子どもに珍しい楽器をもう少し触らせてほしかった。	1	0.5%
楽器での表現、曲の情景がすごかった。	1	0.5%
消極的な意見		
子どもが好きそうな知っている曲があってほしい。	6	2.7%
（子どもたちがさわぐので）もっとゆっくり、じっくり聴きたかった。	4	1.9%
子どもが少し飽きてしまった。	3	1.4%
子どもが静かに聞けなくてオーケストラの人に申し訳ない。	3	1.4%
もう少し短くてもよかったかもしれない。	2	0.9%
席の空きが残念。	2	0.9%
昼食後はお昼寝の時間なので、午前中（10:00～11:00）か、午後（15:30～）の時間が良い。	2	0.9%
子どもに習わせるのには勇気がいる。	1	0.5%
今時の保護者は子どものしつけができなさそう。	1	0.5%
男性トイレにもおむつかえシートを設置してほしい。	1	0.5%
未就学児の家族だけでなく、小学生の家庭も対象だとよい。	1	0.5%
くるみ割り人形等、短い曲をたくさんの方が良いかもしれない。	1	0.5%
参加型がよいと思う。	1	0.5%
モーツァルトは子どもには長すぎると思った。	1	0.5%
曲の聞き所も教えてもらえるとうれしい。	1	0.5%
楽器紹介のあとに交響曲を（抜粋でいいので）やったら子どもがもっと楽器に興味を持てると思った。	1	0.5%
もっと友人にも宣伝すればよかった。	1	0.5%
走り回る場合は、外に連れ出してほしい。	1	0.5%
無回答	56	25.9%
合計	216	101.0%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
（アンケートの集計結果より筆者作成）

表 24 2019 年 10 月 16 日におけるシンフォニエッタ静岡の学校からの依頼公演の詳細

開催日	公演鑑賞者			学校名／文化施設名	自治体名	プログラム	公演時間	備考
	生徒数	教職員数	保護者数					
	244	不明	不明	Q小学校				
	69			R小学校				
10月16日(水)	214			S小学校	静岡市	金管五重奏	10:30～11:30 (60分) 13:30～14:30 (60分)	Q小学校とR小学校は2校合同で実施。 (Q小学校で開催。)
								—

(シンフォニエッタ静岡事務局資料より筆者作成)

表 25 2019 年 10 月 16 日におけるシンフォニエッタ静岡の学校からの依頼公演の曲目

曲目
シャイト／戦いの組曲
楽器紹介 L.アンダーソン／トランペット吹きの休日
W.A.モーツァルト／ホルン協奏曲第1番より第1楽章(短縮版)
H.フィルモア／ラッサス・トロンボーン
A.ヘイズ／ソロ・ポンポーソ(チューバ)
A.メンケン／美女と野獣
L.モーツァルト(父)／アルプホルン協奏曲第3楽章
アイルランド民謡／ロンドンデリーの歌
久石譲／となりのトトロメドレー
(アンコール)大野克夫／名探偵コナン メイン・テーマ、アメリカ民謡／聖者の行進
※公演時間...60分、休憩なし

(シンフォニエッタ静岡事務局資料より筆者作成)

図 25 学校からの依頼公演の楽器紹介の様子 (Q 小学校)



(シンフォニエッタ静岡事務局資料より)

図 26 珍しい楽器を目の前に盛り上がる子どもたち (Q 小学校)



(シンフォニエッタ静岡事務局資料より)

表 26 シンフォニエッタ静岡の学校からの依頼公演のアンケート結果(子ども・単純集計、公演形態⑦)

※アンケート用紙は静岡県主催事業の学校公演と同じもの(図 19、図 20)を使用。

Q.2 音楽の授業は好きですか。 (のべ人数)

①好き	293	56.2%
②ふつう	176	33.8%
③きらい	19	3.6%
④むずかしい	30	5.8%
⑤そのほか	3	0.6%
無回答	0	0.0%
合計	521	100.0%

Q.4 今日のコンサートをきく前まで、クラシック音楽は好きでしたか。

①好き	171	33.1%
②まあ好き	107	20.7%
③ふつう	188	36.4%
④あまり好きではない	30	5.8%
⑤きらい	14	2.7%
その他(よくわからない)	1	0.2%
無回答	5	1.0%
合計	516	99.9%

**Q.5 今日のコンサートをきいてみて
(きいた後)、クラシック音楽は好き
になりましたか。**

①もっと好きになった	212	41.1%
②好きになった	185	35.9%
③変わらない(ふつう)	87	16.9%
④きらいになった	0	0.0%
⑤もっときらいになった	8	1.6%
⑥よくわからない	22	4.3%
無回答	2	0.4%
合計	516	100.2%

**Q.6 オーケストラやクラシック音楽をまた
きいてみたいですか。**

①毎日ききたい	151	29.3%
②時々ききたい	189	36.6%
③たまにきいてみたい	139	26.9%
④あまりききたくない	7	1.4%
⑤ききたくない	12	2.3%
⑥わからない	14	2.7%
無回答	4	0.8%
合計	516	100.0%

Q.5 高学年感想(のべ人数)

積極的な意見		
いい音色(音楽)だったから(きれいだったから)。	24	7.5%
いろいろな音が(重なっていて)よかったから。	19	5.9%
迫力があつたから。	10	3.1%
今日聞いてすきになったから。	10	3.1%
いろいろな楽器で演奏していたから。	8	2.5%
いろいろな音楽を(たくさん)聴いて、音楽は良いもの だと思ったから。	7	2.2%
かっこよかったから。	6	1.9%
知っている音楽や好きな曲が出てきて楽しかったから。	6	1.9%
こんな曲や楽器があるとは思わなかったから。	5	1.6%
クラシック音楽がどのようなものかがわかったから。	5	1.6%
自分も演奏してみたいと思った。	4	1.2%
生で聴いてすごいと思ったから。	4	1.2%
楽器についてもっと知ることができたから。	3	0.9%
楽しくなったから。	3	0.9%
目の前で見られたから。	3	0.9%
響きが良かったから。	3	0.9%
金管楽器だけでもすごい演奏ができていたから。	2	0.6%
ほかの曲もきいてみたい。	2	0.6%
気持ちが良くなったから。	2	0.6%
自分で工夫して音を出したりしていたから。	2	0.6%
リズムなどがよかったから。	2	0.6%
人が聴いて、元気になるのは、すごいと思ったから。	2	0.6%
クラシック音楽を初めて聴いて、良かったから。	2	0.6%
音楽の習い事をやっているから。	2	0.6%
みんなで協力しながら演奏していて、素敵だと思ったから。	2	0.6%
口で音が変わっているのがおもしろかったから。	2	0.6%
もともとクラシックがすきだから。	2	0.6%
演出がおもしろかったから。	2	0.6%
音楽で習った楽器が見られて良かったから。	1	0.3%
今までよりもいいと思ったから。	1	0.3%
楽しい音楽だったから。	1	0.3%
大きな音でよかったから。	1	0.3%
聞いていて楽しかったから。	1	0.3%
楽しそうな音楽を楽しそうに演奏していたから。	1	0.3%
ほかの楽器も聞いてみたい。	1	0.3%
金管楽器でメロディーを吹いていたから。	1	0.3%
すごく難しそうな音楽をひいていてすごいと思った。	1	0.3%
もう一度このような機会があると良い。	1	0.3%
肺活量がすごかった。	1	0.3%
(心地良くて)寝てしまいそうだった。	1	0.3%
普段は音を聞くだけなので、実際に演奏を見ることが できたから。	1	0.3%
いつもテレビで見ているから。	1	0.3%
強弱が良かったから。	1	0.3%
前から音楽をやってみたい気持ちがあつたから。	1	0.3%

クラシックは落ち着いていていいと思うから。	1	0.3%
ジャズやテレビの曲の伴奏もいいけど、クラシック音楽は自分のものにできるから。	1	0.3%
トークがおもしろかったから。	1	0.3%
世界的有名な作曲家のモーツァルトの演奏を聴けたから。	1	0.3%
とても奥が深くて響き渡るような感じだったから。	1	0.3%
いつもは聴けない音が聞こえたから。	1	0.3%
聴いているだけで、色々なことが想像できたから。	1	0.3%
聴くのはいいけどひくのは恥ずかしいからいやだ。	1	0.3%
消極的な意見		
興味がないから。	3	0.9%
クラシックは知らない曲が多いので、聞いていてもあまり楽しくないから。	3	0.9%
何も知らないから。	1	0.3%
だいたい知っていた曲だったから。	1	0.3%
もともと大きい音よりも静かできれいな音がいいから。	1	0.3%
むずかしそう。	1	0.3%
きいたことはあったけど、ふつうだった。	1	0.3%
おもしろかったけど、かわらない。	1	0.3%
無回答	142	44.1%
合計	322	99.4%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)

表 27 シンフォニエッタ静岡の学校からの依頼公演のアンケート結果 (子ども・クロス集計)

学年とコンサートを聴く前との関係性 (Q.1 と Q.4)

学年 \ 聴く前	①すき	②まあすき	③ふつう	④あまりすきではない	⑤きらい	⑥その他	無回答	合計
低学年	104 (45.2%)	39 (17.0%)	57 (24.8%)	18 (7.8%)	9 (3.9%)	1 (0.4%)	2 (0.9%)	230 (100.0%)
高学年	67 (23.4%)	68 (23.8%)	131 (45.8%)	12 (4.2%)	5 (1.7%)	0 (0.0%)	3 (1.0%)	286 (99.9%)
合計	171 (33.1%)	107 (20.7%)	188 (36.4%)	30 (5.8%)	14 (2.7%)	1 (0.2%)	5 (1.0%)	516 (99.9%)

学年とコンサートを聴いた後との関係性 (Q.1 と Q.5)

学年 \ 聴いた後	①もっとすきになった	②すきになった	③かわらない	④きらいになった	⑤もつとききらいになった	⑥よくわからない	無回答	合計
低学年	121 (52.6%)	57 (24.8%)	29 (12.6%)	0 (0.0%)	8 (3.5%)	15 (6.5%)	0 (0.0%)	230 (100.0%)
高学年	91 (31.8%)	128 (44.8%)	58 (20.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (2.4%)	2 (0.7%)	286 (100.0%)
合計	212 (41.1%)	185 (35.9%)	87 (16.9%)	0 (0.0%)	8 (1.6%)	22 (4.3%)	2 (0.4%)	516 (100.2%)

学年と今後の鑑賞との関係性 (Q.1 と Q.6)

学年 \ 鑑賞	①(毎日ききたい)	②(時々ききたい)	③(たまにきいてみたい)	④(あまりききたくない)	⑤(ききたくない)	⑥(わからない)	無回答	合計
低学年	99 (43.0%)	68 (29.6%)	44 (19.1%)	5 (2.2%)	9 (3.9%)	5 (2.2%)	0 (0.0%)	230 (100.0%)
高学年	52 (18.2%)	121 (42.3%)	95 (33.2%)	2 (0.7%)	3 (1.0%)	9 (3.1%)	4 (1.4%)	286 (99.9%)
合計	151 (33.7%)	189 (42.2%)	139 (31.0%)	7 (1.6%)	12 (2.7%)	14 (3.1%)	4 (0.9%)	448 (100.2%)

音楽の授業とコンサートを聴く前との関係性 (Q.2 と Q.4)

授業 \ 聴く前	①すき	②まあすき	③ふつ	④あまりすきではない	⑤きらい	⑥その他	無回答	合計
①(すき)	132 (45.1%)	60 (20.5%)	83 (28.3%)	7 (2.4%)	6 (2.0%)	0 (0.0%)	5 (1.7%)	293 (100.0%)
②(ふつ)	30 (17.0%)	45 (25.6%)	82 (46.6%)	15 (8.5%)	3 (1.7%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	176 (100.0%)
③(きらい)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	8 (42.1%)	5 (26.3%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
④(むずかしい)	6 (24.0%)	2 (8.0%)	12 (48.0%)	3 (12.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (100.0%)
⑤(そのほか)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	171 (33.1%)	107 (20.7%)	188 (36.4%)	30 (5.8%)	14 (2.7%)	1 (0.2%)	5 (1.0%)	516 (99.9%)

音楽の授業とコンサートを聴いた後との関係性 (Q.2 と Q.5)

授業 \ 聴いた後	①もっとすきになった	②すきになった	③かわらない	④きらいになった	⑤もったきらいになった	⑥よくわからない	無回答	合計
①(すき)	164 (56.0%)	96 (32.8%)	22 (7.5%)	0 (0.0%)	4 (1.4%)	5 (1.7%)	2 (0.7%)	293 (100.1%)
②(ふつ)	42 (25.3%)	75 (45.2%)	47 (28.3%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	11 (6.6%)	0 (0.0%)	166 (100.0%)
③(きらい)	2 (10.5%)	3 (15.8%)	10 (52.6%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
④(むずかしい)	4 (16.0%)	9 (36.0%)	8 (32.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (16.0%)	0 (0.0%)	25 (100.0%)
⑤(そのほか)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	212 (41.1%)	185 (35.9%)	87 (16.9%)	0 (0.0%)	8 (1.6%)	22 (4.3%)	2 (0.4%)	516 (100.2%)

音楽の授業と今後の鑑賞との関係性 (Q.2 と Q.6)

授業 \ 鑑賞	①(毎日ききたい)	②(時々ききたい)	③(たまにきいてみたい)	④(あまりききたくない)	⑤(ききたくない)	⑥(わからない)	無回答	合計
①(すき)	120 (41.0%)	113 (38.6%)	49 (16.7%)	1 (0.3%)	4 (1.4%)	5 (1.7%)	1 (0.3%)	293 (100.0%)
②(ふつ)	27 (15.3%)	66 (37.5%)	69 (39.2%)	3 (1.7%)	2 (1.1%)	6 (3.4%)	3 (1.7%)	176 (99.9%)
③(きらい)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	4 (28.6%)	1 (7.1%)	5 (35.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (100.0%)
④(むずかしい)	2 (6.7%)	8 (26.7%)	14 (46.7%)	2 (6.7%)	1 (3.3%)	3 (10.0%)	0 (0.0%)	30 (100.1%)
⑤(そのほか)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	151 (33.7%)	189 (42.2%)	139 (31.0%)	7 (1.6%)	12 (2.7%)	14 (3.1%)	4 (0.9%)	448 (100.2%)

コンサートを聴く前と聴いた後との関係性 (Q.4 と Q.5)

聴く前 \ 聴いた後	①もっとすきになった	②すきになった	③かわらない	④きらいになった	⑤もったきらいになった	⑥よくわからない	無回答	合計
①すき	133 (77.8%)	31 (18.1%)	5 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)	0 (0.0%)	171 (100.0%)
②まあすき	46 (43.0%)	42 (39.3%)	16 (15.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.8%)	0 (0.0%)	107 (100.1%)
③ふつ	29 (15.4%)	98 (52.1%)	46 (24.5%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	13 (6.9%)	1 (0.5%)	188 (99.9%)
④あまりすきではない	2 (6.7%)	11 (36.7%)	14 (46.7%)	0 (0.0%)	2 (6.7%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	30 (100.1%)
⑤きらい	1 (7.1%)	2 (14.3%)	4 (28.6%)	0 (0.0%)	5 (35.7%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	14 (100.0%)
⑥その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
無回答	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
合計	212 (41.1%)	185 (35.9%)	87 (16.9%)	0 (0.0%)	8 (1.6%)	22 (4.3%)	2 (0.4%)	516 (100.2%)

※割合は小数点第2位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)

表 28 シンフォニエッタ静岡の学校からの依頼公演のアンケート結果（教員・単純集計）
※アンケート用紙は静岡県主催事業の学校公演と同じもの（図 21）を使用。

Q.2 クラシック音楽は好きですか。理由（のべ人数）

①好き	14	60.9%
②嫌い	0	0.0%
③どちらでもない	5	21.7%
④あまり得意ではない	3	13.0%
⑤その他	0	0.0%
無回答	1	4.3%
合計	23	99.9%

積極的な意見		
心が落ち着き、リラックスできるから。	5	19.2%
経験したことがあるから（慣れ親しんでいるから）。	2	7.7%
様々な楽器によるハーモニーが心地よいから。	1	3.8%
心震わせるような曲が多く、聴いていて色々な感情がこみ上げてくるから。	1	3.8%
気持ちを落ち着かせたり高めたりしたい時には、声の入っていない曲が効果的なので、よく聴いている。	1	3.8%
旋律が美しいから。	1	3.8%
消極的な意見		
機会があれば聴くが、自分から聴くことはないから（聴く機会がないから）。	2	7.7%
無回答	13	50.0%
合計	26	99.8%

Q.5 ご自身が子どもの頃、学校でクラシック音楽の音楽鑑賞教室がありましたか。

①あった	13	56.5%
②なかった	3	13.0%
③覚えていない	7	30.4%
無回答	0	0.0%
合計	23	99.9%

Q.6 オーケストラやクラシック音楽に興味を持った子どもたちが増えたと思われますか。

①はい	18	78.3%
②いいえ	0	0.0%
③どちらともいえない	4	17.4%
無回答	1	4.3%
合計	23	100.0%

Q.7 今後も学校において、このような鑑賞教室は必要だと思いますか。

①必要	22	95.7%
②不要	0	0.0%
③どちらともいえない	0	0.0%
無回答	1	4.3%
合計	23	100.0%

Q.7-3 演奏団体はどのような団体が良いですか。

①プロの演奏がよい	11	47.8%
②アマチュアでもよい（プロでなくても構わない）	9	39.1%
③その他	0	0.0%
無回答	3	13.0%
合計	23	99.9%

Q.7-4 頻度はどの程度が適度だと思いますか。

①年に1回	18	78.3%
②年に2～3回	3	13.0%
③2年に1回	0	0.0%
④その他	0	0.0%
無回答	2	8.7%
合計	23	100.0%

Q.8 今日のコンサートの感想をお書きください。(のべ人数。学校代表含む)

積極的な意見		
子どもたちがとても楽しそうだった。	5	11.9%
本物の音楽に親しむ良い時間(機会)になった。	5	11.9%
子どもたちが知っている曲を演奏してもらい、盛り上がった。	5	11.9%
普段見ない(聴かない)楽器(音楽)に触れる機会ができてよかった。	4	9.5%
演出や構成がよかった。	2	4.8%
楽器の歴史など、色々学べた。	2	4.8%
クラシックに興味を持つ子が増えたと思う。	2	4.8%
学校に帰ってから、学校にあるトランペットやユーフォニアムに触る子がたくさんいた。	2	4.8%
楽器(紹介)に興味を持った。	2	4.8%
真剣にお話や演奏に聴き入っていた。	2	4.8%
素敵だった。	1	2.4%
プロ奏者の生演奏を聴く機会が殆どないので、今日の演奏は心に残るものとなった。	1	2.4%
次回のコンサートも期待している。	1	2.4%
音楽の教科書にも載っている曲も演奏してもらい、興味を持って聴くことができた。	1	2.4%
(子どもたちは、)生の演奏の迫力に感動したと思う。	1	2.4%
大きな楽器は小1の子どもたちにとって、とても心に残ったみたいである。	1	2.4%
生の素敵な音色に接して1時間集中して聴いていた。		
事前にプログラムを知らせていただけると曲に慣れたり知ったり出来るのでありがたい。	1	2.4%
消極的な意見		
知っている曲を多めにしてほしい。	1	2.4%
無回答	3	7.1%
合計	42	100.3%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)

表 29 シンフォニエッタ静岡の学校からの依頼公演のアンケート結果(保護者地域住民・単純集計)

※アンケート用紙は静岡県主催事業の学校公演と同じもの(図 22)を使用。

Q.6 ご自身が学生の頃、学校でクラシック音楽の鑑賞教室はありましたか。

①あった	3	33.3%
②なかった	2	22.2%
③覚えていない	4	44.4%
無回答	0	0.0%
合計	9	99.9%

Q.7 これまでにコンサートホール(文化会館、市民会館等)でのクラシック音楽のコンサートに行ったことはありますか。

①はい	6	66.7%
②いいえ	3	33.3%
無回答	0	0.0%
合計	9	100.0%

Q.10 今後クラシック音楽のコンサートがある場合、また行きたいと思いますか。

①はい	9	100.0%
②いいえ	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	9	100.0%

Q.10-2 どのようなコンサートに行きたいですか。(のべ人数)

①子供向け・親子で楽しめるコンサートに行きたい	7	77.8%
②大人だけで楽しめるコンサートに行きたい	1	11.1%
③その他	0	0.0%
無回答	1	11.1%
合計	9	100.0%

Q.11 本日の公演について感想があれば自由にお書きください。(のべ人数)

積極的な意見		
とても楽しかった。	4	33.3%
とてもいい音だった（5人のハーモニーが素晴らしかった）。	2	16.7%
2回のアンコールありがとうございました。	1	8.3%
子どもたちも楽しめていた。	1	8.3%
無回答	4	33.3%
合計	12	99.9%

※割合は小数点第2位を四捨五入。
(アンケートの集計結果より筆者作成)